

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部学校教育教員養成課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	日本国憲法	日本国憲法の基本原理、及び日本国憲法が規定する人権や統治機構の内容を理解することを目標とする。 憲法とは、国の組織と作用に関する基本的な規律を意味する。昭和21年に公布された日本国憲法の各規定に何が定められているのか、またそれらが各国家機関によってどのように実践されているのか、そしてそれらがいかなる考え方によって基礎づけられているのかについて、事例の検討等を通じて学習する。	
	情報活用の基礎	本学での学習の基盤となる情報活用の基礎として、各自のPCの環境構築、学内の情報システムの利用、メールやOfficeソフトの活用、クラウドの活用、情報モラル等を学ぶ。また、現場の教員や児童生徒が学校でどのようにICTを活用しているのかについても学習する。 到達目標 ・各自のPCの設定や基本操作、学内の情報システムの活用をすることができる。 ・マナーに即して、適切かつ安全にメールのコミュニケーションができる。 ・タッチタイピングができる。 ・Officeソフトを適切かつ安全に活用することができる。 ・クラウド技術を適切かつ安全に活用することができる。 ・学校の授業におけるICT活用のイメージをもつことができる。	
	体育実習	基本的な運動を通して、自ら運動する習慣を身につけ、そのうえで実際に体力・運動能力の向上を目指す（2回の体力測定と、実技を積み重ねる中で、自分の体力・運動能力の向上及び健康管理についての理解を深めることができるようになること）。 基本的運動の実践を通して心身の円満な発達を図るとともに、体力および運動能力の向上を目指す。男女別の5グループをつくり陸上運動、山野歩走、トレーニング、ボール運動・からだづくり運動および器械運動を、数回ずつ11月初旬まで受講していく。	共同
	健康・運動論	子どもにおいて特徴的な健康問題について、その背景や現状などを理解することを目標にする。また、子どもへのアプローチを個と集団の観点からみることについて、考察する。 自分自身の健康確保のための能力を身につけるとともに、教職教養の立場から子どもたちの心身の把握や、健康管理・健康教育のできる能力を培うことをねらいとする。内容としては、健康を守る能力と仕事、健康の自己コントロール力等について具体的に扱う。 本講義は主に教職に就いたときの子どもの健康の素養を培うことを意図している。学校における「保健教育」に関連する内容となっている。	共同
	英語A～D	外国語での円滑なコミュニケーションをとることのできる、十分な英語の4技能（読む、書く、話す、聞く）を養うことを目指す。授業は一定規模の人数にもとづくクラス編成により行われ、各クラスの担当教員が指定の教科書、あるいは配布資料に基づいて毎回の授業を行う。	
	英語コミュニケーション	様々な場面を想定した日常会話や様々なトピックについてのスピーチ、ディスカッションを通して、複数の領域を統合した言語活動を遂行する能力の育成を図る。	

<p>学校防災教育基礎</p>	<p>気候変動に伴う環境の変化や災害リスクの想定に関する基礎的知識をもとに、想定外の事態に対応できる能力を多様なアプローチで育成する。自然環境の本質や災害発生メカニズム、危機的状況に対応できる力などを含め、東日本大震災等の災害の教訓を踏まえて、学校における防災教育・防災管理・組織活動について最低限身に付けておくべき事柄を学ぶ。具体的には（１）災害への意識を高め、対応力を持つ、（２）東日本大震災を起点に置き、水害も含めて身近な災害に向き合い、（３）自分のいのちを守り、隣り合う人たちとともに生き抜く力を持つ子どもの育成に資する対応力の基盤として、（４）避難と避難所運営の教訓、防災教育の実際などを理解することを目標とする。</p> <p>（オムニバス方式／１５回）</p> <p>（８３小田隆史／２回）学校防災の基礎①／近年の自然災害と未来②</p> <p>（５９林田由那／３回）防災訓練基礎①／防災訓練基礎②／避難所運営と災害ボランティア③</p> <p>（１００麻生川敦／２回）東日本大震災と学校①／東日本大震災と学校②</p> <p>（１０２村山良之／２回）地形理解①／ハザード理解②</p> <p>（６５梨本雄太郎／２回）地域協働と学校防災①／学校とNP0との共同②</p> <p>（１２２遠藤貞悟／１回）地方教育行政と学校防災</p> <p>（１７市瀬智紀／２回）グローバル防災①／グローバル防災②</p> <p>（８３小田隆史・５９林田由那／１回）（共同）さらなる学習に向けて</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>
<p>人権教育</p>	<p>人権教育は単なる法制度的知識にとどまらず、現実社会や日常生活における自他のありかた・かかわりかたの問題としてとらえる必要がある。学校においても、児童生徒の生活の実践知として人権をとらえる必要がある。このような観点から、「国連人権教育の10年」や「子どもの権利条約」に関する国内外の行動に触れつつ、人権とは何か、学校の社会的役割、教師の役割について学ぶ。</p>	
<p>日本の言語と文化</p>	<p>私たちは、日々の言語生活のなかで日本語の大切さに気付きながらも、それが日本人の生活や文化とどのような関係性をもつのか考える機会が少ない。本講義では、身近な日本語を出発点として日本語の種々相に触れるとともに、文学作品を通して言語・文化と能動的なかかわりをもちながら、日本人のものの見方や考え方についても理解を深めていく。</p>	
<p>人間と思想</p>	<p>私たちが生きていくなかで出会う主要な哲学的諸問題について、現代の日本社会が抱えるさまざまな問題を考慮に入れつつ、多面的に考察する。さまざまな哲学者や思想家たちの文献を参照しながら、それらをヒントにしつつ、自分自身の考えを掘り下げて考察を深める。私たちが生きていくなかで出会う主要な哲学的諸問題について、基本的な知識や考え方を身につけ、自分なりに考えを深められるようになってもらうことを目指していく。</p> <p>講義形式で進めるが、授業中に所定のテーマについて小論文という形で自分なりの考えをまとめてもらう機会を設ける。</p>	
<p>人間と音楽</p>	<p>日本の音楽の歴史を古代から現代まで辿ることで、日本の文化における「日本らしさ」がいかに形成され、新しい文化を受け入れながら、伝統文化をいかに継承してきたのかを考える。まず「日本の音楽」の範囲について考え、その上で古代の音楽、大陸の芸能の影響（雅楽）、その後の日本独自の芸能の誕生（平家琵琶、能）、庶民芸能の展開（歌舞伎）、明治維新が音楽に与えた影響、明治期の西洋音楽受容、明治期の伝統音楽の発展、音楽取調掛の果たした役割、戦中期の音楽、戦後の学校における音楽教育の変遷、日本人の西洋芸術音楽作品、流行歌の変遷、グローバル化時代の音楽、伝統音楽の創作と保存と継承、について取り扱う。</p>	

美術による表現	この授業では、美術全般についての役割や表現形態について学ぶ。体系的な作品の歴史や、現代までの変遷したアートの意義などを踏まえ、映像表現を交えながら、日本の伝統芸術としての工芸に着目し、作品制作や、作品鑑賞を通して、教育現場で実践力を養う。さらに教育における新しい授業作りのあり方を模索することに重点を置く。	
言語学	ことばの学問とはどのようなものなのか、母語として日本語を知っていたり、外国語として英語を学んできたとしても、言語がどのようなものとして考えられ、研究されてきたのかについて俯瞰できるようになることを目標とし、「ことば」を研究する言語学について概観する。具体的には、言語学の流れ、統語論、音声学、音韻論、形態論、意味論、語用論、日英言語文化論について取り上げ、概説する。	
歴史学入門	小中高の歴史学習の場で使用される教科書の内容は国家の歴史を中心に記述されているが、それぞれの時代には、時の権力者や著名な文化人だけではなく、数多の名もなき人びとが実際に生活していた筈である。彼ら「普通の人びと」の日常的な生活世界へ目を向け、ある時代に生きた人びとの心性といったものにまで目配りすることによって、国家に着目しただけでは見えてこない社会の実像や人びとの繋がりについて深く理解することができる。本講義では、歴史を多面的・多角的に見る眼を養うため、歴史学における社会史的な考え方について押さえた上で、日本近世社会における「家」と村落、出産と子ども、村の教育と寺子屋、婚姻と相続、情報と人びとの文化的な交流、老いと死など、人の一生や生活文化全般について学んでいく。	
現代生活の科学	<p>わたしたちの現代生活や身体の成り立ち、そしてそれらを支えるさまざまな材料、道具、環境、情報などについて、科学・技術的な視点から解説する。ただし、これら全般の概説ではなく、この中に含まれる専門分野からひとつのテーマをとりあげて、深く掘り下げながら考察を進めるものである。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(16 西川重和／3回) 衣服分野での「もの作り技術」について取りあげる。 織物設計の基礎①／織物図案の作成②／学校現場への応用事例③</p> <p>(7 亀井文／3回) 最近注目されている機能性成分について紹介し、私たちの毎日の食生活のあり方について考えていく。健康と疾病(生活習慣病)・栄養と栄養素①/機能性成分とトクホ②/健康的な食生活とは③</p> <p>(7 8 香曾我部琢／3回) 人が人を人として知覚し、認知、記憶する力は、日常のいとなみのなかで暗黙化し、自分自身がその力を認識できない。人間の①知覚/②認知/③記憶の特性について学ぶ。</p> <p>(2 9 菅原正則／3回) 健康で快適な住環境づくりについて、科学的な観点から考察を進める。 住環境づくりの原則①／住環境の音②／住環境の光③</p> <p>(非常勤講師／3回) 色彩の基礎①／色彩の配色②／色彩の使い方③</p>	オムニバス方式
持続可能な社会	2014年5月に『中央公論』で発表された「消滅可能性都市896のリスト」(日本創世会議：増田寛也座長)は、2040年の姿を推計したものであるとして日本の各地に大きな衝撃を与えた。中でも、東北地方はこのまま手立てを講じなければ8割近くの自治体が消滅すると試算されている。2040年は、現在の君たちが40代を迎える年にあたり、社会の中心を担う世代に成長していると考えられる。しかし、急速に人口が減少していく社会が抱える課題や問題点を想像することは容易ではない。20年後に君たちは、どのような社会になっていることが望ましいと考えるだろうか。本講義は、「持続可能な社会」を構想するための基礎的な考え方を学び、自ら課題を設定して持続可能な社会を形成するためにどのようなことが必要なのかを自ら考え、調べ、まとめ、表現することをねらいとする。	

伝統と近代化	日本と同様にヨーロッパ化による大国化を希求したロシアを主な素材として、近世以降の世界各地における「伝統と近代化」の関係性について考察する授業である。この両者が必ずしも明確な二項対立ではなく、それぞれに多様な要素を内包していた点に着目し、近現代世界においてとりわけ「伝統」が持つ生命力について再検討する。また、小中学校における「授業づくり」への提言を目的に、特定の対象への多面的な理解を深める手段として、映像・画像・音声も活用する。なお最終的には、講義内容を参考にしつつ、受講者自身が選定した地域に関し、独自に調査・考察に努めてもらうことを予定している。	
環境と開発	人類の生存にはさまざまな開発行為が必要である。しかし開発が自然環境の荒廃をもたらし、人類の生存に対して危機的状況を生み出していることも少なくない。本授業では、日本国内や世界の事例を通して、環境と開発を両立させるために現在どのような考え方や行動が求められているのかを探っていく。具体事例の分析を通して、環境問題について考えるための視点・思考力を養う。	
国際政治	本講義は国際政治のこれまでの議論を紹介し、「なぜ戦争はなくなるのか」「平和を実現するにはどうすれば良いか」という重要な問題を考える視点を提供するものである。具体的には、国境と領土問題、ナショナリズム、戦争と正義、国際連合、貧困問題、武装解除と平和構築、日本の国際貢献などに関するこれまでの議論を紹介し、受講生自身が戦争と平和について歴史的かつ複眼的視点から考察する知的枠組みを提示する。	
人間と健康	身体の構造と機能や疾病のメカニズムを学ぶことを通じて、健康を守り、疾病を予防・治療するための医学について理解を深める。	
教育とコンピューター・データサイエンス入門	これからの時代の教員には、最低限のデータ・サイエンス、コンピュータ・サイエンスに関する資質・能力が求められている。この授業では、学校での指導に役立つ内容に特化し、理系・文系関係なく入門的な内容から実践的な内容まで、多くの演習とともに扱う。	
数理の潮流	現実世界の具体的な問題は、抽象化や簡易化による数理的処理によって解決される場合があり、その過程で多くの数理的概念が獲得されてきた。また、そうして獲得された概念自体が具体的実態となり、そこから更に抽象化や理想化が行われ、一般化や新理論への展開に繋がることもある。このように数理の概念形成にはレベルがあり、具体物とそこから抽出される概念との関係は個々に獲得してきた数理的要素を土台としてまさに潮流の如く発展し続けている。この講義では現実世界の具体物との交渉を通して、数理的抽象概念が形成される過程と獲得された概念によって数理の世界で解くこととのかかわりを講義する。	
物理基盤講義	<p>理科教科内容の基盤となる知識・解法等に関する講義である。特に、高校理科での物理未履修者を対象とする。</p> <p>内容は、数学の基本から、物理（特に力学）の基礎的概念を中心に展開する。</p> <p>本講義はアクティブ・ラーニングとして、出題した問題をグループで考えて、自分たちで深い理解・広い理解および数式化を実践してもらう。また、演習を通して、理解の定着を図る。</p> <p>特に、試験は個人個人で受け成績評価に利用するが、講義では「受講者全員で単位を取りに行く」べく、協働（例えば、分かる人が分からない人を教える）を重視する。</p>	

化学基盤講義	<p>(概要) 大学で履修する化学分野の基盤となる知識・解法等に関する講義で、高校理科での未履修科目の補習的内容を含む。化学分野の高校での学修内容を復習・補習をするとともに、大学での専門科目を履修する上で必要な基礎的知識・解法などを習得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(1 3 猿渡英之/7回) 物質の分類と基本構成/物質と化学反応式/原子の構造/周期表と元素の性質/化学平衡/酸と塩基/酸化還元反応</p> <p>(2 6 笠井香代子/7回) 物質の状態/化学反応と熱/非金属元素の単体と化合物/金属元素の単体と化合物/有機化合物の特徴と構造 /脂肪族化合物/芳香族化合物</p> <p>(1 3 猿渡英之・2 6 笠井香代子/1回)(共同) まとめと期末試験</p>	オムニバス方式・共同(一部)
生物基盤講義	<p>(概要) 本講義は、主に高校生物の未履修者を対象としており、生物学のより高度な専門領域の知識を学ぶ準備を整えるために計画されている。高等学校で学ぶ生物学の包括的内容を習得することを目標としている。具体的には、細胞、代謝、遺伝、体内環境、生殖、発生、環境応答、進化、分類などの一般的事項について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(7 1 出口竜作/4回) 細胞分裂/受精と発生/生物の進化/生物の分類</p> <p>(4 3 小林恭士/5回) 細胞の構造/核酸とタンパク質/遺伝子の発現調節/呼吸と光合成/植物の環境応答</p> <p>(4 2 棟方有宗/4回) 代謝とATP/体内環境の調節/神経と脳/動物の環境応答</p> <p>(7 1 出口竜作・4 3 小林恭士・4 2 棟方有宗/2回)(共同) ガイダンス—今後の学習内容と学習方法の説明/本講義の総括と生物学における今後の課題</p>	オムニバス方式・共同(一部)
地学基盤講義	<p>理科教科内容のうち、地学分野の基盤となる基本的な知識や観点を学ぶ。特に、高校地学の未履修者を対象とするものであり、高校「地学基礎」(および一部「地学」)の学習内容を基にして、地球の構成、地球史、海洋・気象、惑星・天体などの項目について網羅的に解説する。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(8 9 川村寿郎/5回) 太陽系の中の地球/地球の形と構造/現在の地球の活動/地殻の形成/地球史の読み方/地球と生命の進化</p> <p>(2 4 菅原敏/5回) 大気と水/大気の運動/日本の天気/海洋と気候①/海洋と気候②</p> <p>(1 4 高田淑子/5回) 太陽と太陽系/恒星の性質と進化/銀河系と宇宙①/銀河系と宇宙②/最終試験</p>	オムニバス方式
学校経営と学校図書館	<p>司書教諭科目全体の総論として、教育活動の視点から学校図書館の理念と教育的意義を押さえ、その機能と役割について基本的な理解をはかる。そのために、教育行政とのかかわりにおける学校図書館の歴史、学校図書館法、司書教諭の役割と学校図書館活動など、学校図書館全般について理解を深め、司書教諭としてのあるべき姿を考える。</p>	

社会教育経営論	社会教育の行政・施設の実態とその背景にある基本理念を理解することを通じて、地域課題の解決につながる学習のあり方について、理論的・実地的な理解を深める。	
現代社会教育論	現代社会において人びとの意識や行動は多様化の傾向を示し、それを反映して社会教育の内容、方法も多様化している。このような状況の中で特に注目される現代的学習課題をトピック的に取り上げ、今日の社会教育の特色と問題とを理解するとともに、現代社会を生きる「私たち」にとっての課題をさぐる。	
性・文化・ジェンダー	本授業では、自分の性とジェンダー意識を問い直すこと、性についての感性と知識を身につけること、性とジェンダー教育のできる教師としての基礎的素養を育むこと、を目指す。これらは、学校教員を目指す者にとって非常に意義のあることである。授業は複数の教員がそれぞれの専門的な知見をもとに、講義を担当する。性およびジェンダーというテーマは、心身の両面において私たち自身の在りようと深く結びついているとともに、私たちが生きている社会や文化の本質的な部分と切り離せない関係にある。また、性・ジェンダーは時として、私たちに対して大きな問題として迫ってくるものでもあり、たとえば性的マイノリティの人たちだけでなく、成長過程にある子ども・若者たちの中にも、性・ジェンダーに関連する問題について深刻な悩みを抱えている人が数多くいる。本授業ではこうした点について概説する。	共同
情報活用能力とプログラミングの活用a～b	情報活用能力の中でも、情報活用の実践力として学校現場の実務で必須の知識・技能と、画像や音など色々なメディアをプログラミングの中で扱い、プログラミングの指導や、自分でプログラムを作って教材を作成できるようになることを目指す。	
コミュニケーション論	「人間の悩みのほとんどは、人間関係の悩みである」と心理学者が指摘するほど、コミュニケーション問題は社会に溢れている。本講義では、①社会学理論としてコミュニケーションを知る②社会を生き抜く技術として、コミュニケーションにまつわるリテラシーを身につけることを目的とする。価値観の多様化とソーシャル・メディアの進化に伴い、現代社会のコミュニケーションの在り様はおおきく変化している。高度に複雑化し、多くの問題も生まれている。従来人間関係の議論とともに新しいコミュニケーション時代の到来も含め、毎回テーマを設定し、コミュニケーションにまつわる具体的事例をあげながら解説する。	
日本の芸能	日本には、民衆が古くから楽しみ、伝えてきた踊り・うた・太鼓などの民俗芸能がある。明治以来の学校教育ではそれを教育することにはあまり積極的ではなかったが、これらの中には郷土の伝統的身体文化として受け継ぐべきすぐれたものが数多くある。この授業では、それらを取り上げて実技を中心に学習する。 まず日本の芸能を概観し、特に日本の踊りに共通する身体技法について学ぶ。その後「寺崎はねこ踊り（宮城県石巻市桃生町）」「大森みかぐら（岩手県奥州市衣川）」の習得を通して理解を深める。また、和太鼓についての基礎を学び、簡単なお囃子の演奏をできるようにすることを旨とする。	
フランスの言語と文化	ヨーロッパ言語の基礎としてのフランス語を学び、ヨーロッパに由来する学問芸術の理解の基盤、英語をはじめとする欧米諸語の基礎を身につけることを主眼に本授業を設定している。実際の授業では、毎回、会話実践を行い、十分な反復練習によって、フランス語の構造、響き、流れ、イントネーションを体にしみこませていく。会話習得に必要な語彙、基本的な文法、発音等について、その都度説明を加えていく。また、フランスでの今日性のあるテーマを取り上げ、解説する。フランスの文化について知り、フランスという国に親しむことができる。本講義の到達点として、フランス語での簡単な自己紹介ができ、身の回りのことについて短い文章で話せるようになる。	

教養科目

ドイツの言語と文化	ヨーロッパ言語の基礎としてのドイツ語を学び、ヨーロッパに由来する学問芸術の理解の基盤、英語をはじめとする欧米諸語の基礎を身につけることを主眼に本授業を設定している。具体的には、初級ドイツ語の前半の内容（発音、動詞の現在形、名詞・前置詞の用法など）を学びながら、あわせてドイツ語圏の歴史・文化の一端に触れる。本講義の到達点として、英語との異同を意識しながらドイツ語の基本的な性質を学び、簡単な現在形の単文を理解できるようになる。	
中国の言語と文化	アジア言語の基礎としての中国語を学び、中国に由来する学問芸術の理解の基盤、漢字と漢文の基礎を身につけることを主眼に本授業を設定している。中国語の漢字、発音、数の数え方、時間の言い方、曜日の言い方、存在所有動詞、一般動詞、疑問詞、形容詞について学ぶ。話す・聞くといった実践的能力をつけるのみならず、文学、歴史などの研究に必要な文献読解力の獲得も目的としている。学校現場における中国人児童生徒および保護者への対応や国際理解にも役立てることができる。	
韓国の言語と文化	韓国語を初めて習う人々のための授業として、挨拶や自己紹介、文字の読み書きから始まり、基礎的な会話や文法を学習して、初級の語学力を養成することを目標とする。また、韓国の文化についての理解も深めていく。	
海外総合演習A～C	全学全専攻に開かれている海外研修の授業であり、夏休み、春休みを利用して、海外に2週間前後滞在しながら、語学の研修をするほか、教育実習、フィールドワーク、ホームステイなどを体験する。研修先としては、イギリス、オーストラリア、台湾、韓国、タイなどを予定している。	
数学概論	数学Ⅱの復習から始めて、微積分の基礎について解説する。微分の定義と基本的な性質、多項式関数の微分、導関数、三角関数、指数関数の微分、逆関数の微分、定積分と原始関数、多項式の積分、三角関数、対数関数の積分、いろいろな定積分に関する基礎事項など、1変数関数の微分と積分に関する基本的概念を理解すると共に基本的な計算方法を身につけることを学習到達目標とする。	
自然科学と現代的課題	現代の自然科学の発達は、私達の自然に対する認識を大きく変化させてきている。その自然科学の先端で現在進行しつつある発見や技術開発を、平易な言葉で解説することで、人類が現在、そして未来に直面する課題に対して、どのように対処するべきかを考える素養を育むことが大切である。本講義では、物理学の分野における先端科学の内容について理解し、学校現場において生徒達に自然科学と現代的な課題について興味を引き出すための素養を身につけることを目標とする。	
多文化教育入門	グローバル化が進み、日本国内では、外国籍の人々が増え、多文化化が進んでいる。学校現場もこの例外ではない。この講義では、異なる文化を背景とする人々とのよりよいコミュニケーションの方法について考え、異文化を理解するとはどういうことなのかを体験的に捉えていく。また、外国人児童生徒の学校での受け入れや支援のあり方についても考える。	
日本語教育概論	学校現場において外国にルーツをもつ児童生徒の支援が急務の課題となっている。本授業は、その導入科目として日本語教育の方法と内容を学ぶ。具体的には①海外と国内の日本語教育事情、日本語教員とは、②文法や語彙の指導、③日本語教授法、④四技能の教え方、⑤対象別教授法についての内容である。 本授業を通して、外国人児童生徒への対応や、地域における多文化共生社会の形成のための知識や技能を身につけることができる。授業はタスク学習やプロジェクトワークの活動を通して、体験的・経験的理解するほか、外国人留学生も授業に加わり、一緒に活動する。	

国際理解教育概論	<p>国際理解教育について、多文化共生教育、開発教育、SDGsなども含めて、その理論と方法論について体系的に学ぶ。次に①国際学級・日本語教室担当教員、②国際理解教育担当教員、④国際バカロレア校教員、⑤海外日本人学校教員、⑥インターナショナルスクール教員、⑦海外修学旅行担当教員、⑧JICA協力隊員といった国際教育の各分野で活躍する教員の職業の実際について理解し、大学生の将来のキャリア形成に役立てることを目標にしている。</p>	
情報活用能力育成実践論	<p>教育実習に行く前の段階で、附属小学校、附属中学校、そして仙台市の学校における情報活用能力の育成について、指導の現場の現状と課題、具体的な指導事例について解説する。情報活用能力の中でも、新学習指導要領で必須となったプログラミング教育やGIGAスクール構想で児童生徒一人一台のコンピュータをどのように活用して、子どもたちの資質・能力を育成するかについて扱う。</p> <p>オムニバス方式／15回</p> <p>(56 岡本恭介／3回) オリエンテーション-学校における情報活用能力／学習指導要領の中の情報活用能力／まとめ-情報活用能力と学習活動</p> <p>(141 上杉泰貴／4回) 附属小学校での情報活用能力育成の取り組み／低学年での育成例／中学年での育成例／高学年での育成例</p> <p>(143 古内利明／4回) 附属中学校での情報活用能力育成の取り組み／中学校1年生での育成例／中学校2年生での育成例／中学校3年生での育成例</p> <p>(非常勤講師／4回) 仙台市での情報活用能力育成の取り組み／仙台市での情報活用能力ステップアップ例／学校行事と情報活用能力／情報活用能力とカリキュラム・マネジメント</p>	オムニバス方式
情報社会と学校教育	<p>情報社会における学校の役割、学びのありかたについて考察する。技術革新と社会の変化を展望し、これからの学力観、授業および学習のデザイン、学校の役割について検討する。テキストでは米国における事例を取り上げているが、授業ではテキストをもとに国内の動向と対比させるための課題提示を行う。関連する情報の収集、資料作成を行った上で、ディスカッションの機会を設ける。講義はeラーニング(LMS)により、講義情報の提供、課題、ふりかえり、レポート提出などを行う。</p>	
環境教育	<p>2030年までに人類が達成すべき目標としてSDGs(持続可能な開発目標)があり、SDGsの達成に貢献する教育としてESD(持続発展教育)が位置づけられている。すべての学校でESDの理念を生かした教育の展開が期待されていることを踏まえ、ESDおよびSDGsを環境教育の視座から掘り下げつつ、地域循環共生社会の構築に必要な環境リテラシーを養成する。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(35 溝田浩二・64 齊藤千映美／1回) (共同) オリエンテーション</p> <p>(64 齊藤千映美／7回) 地球的課題(1)資源と人類／地球的課題(2)気候変動と人類／地球的課題(3)生物多様性と人類／地域循環共生社会づくり(1)行政の役割／地域循環共生社会づくり(2)市民の役割／地域循環共生社会づくり(3)学校教育の役割／中間ふりかえり-地球的課題と地域循環共生社会</p> <p>(35 溝田浩二／7回) SDGsの基礎(1)目的と背景／SDGsの基礎(2)達成項目と課題項目／SDGsの基礎(3)環境的・社会的・経済的な側面／SDGsとESD (1)学校における取り組み／SDGsとESD(2)地域における取り組み／SDGsとESD(3)企業における取り組み／ふりかえり-今後の課題と展望</p>	オムニバス方式・共同(一部)

学校図書館メディアの構成	学校図書館メディアの種類・特性と教育的意義を理解し、児童・生徒、教員に適切な情報を提供できるよう図書館資料の選択・収集と構成、図書資料を中心とした組織化について学び、実務能力の育成を図る。	
情報メディアの活用	学校図書館を中心に、教育現場における多様な情報メディアの特性と活用の方法を学ぶ。コンピュータや教育用ソフトウェアの活用のほか、視聴覚メディアの活用、データベースと情報検索、インターネットによる情報検索と発信について理解を深め、実務能力の育成も図る。	
教育調査論	教育調査の意義と内容、調査の企画段階における検討事項と留意点について、社会教育計画の立案とのかかわりからその一端を解説する。また、調査票の作成、調査データの分析および活用の視点・方法等について、先進的な事例をもとに検討する。これらを通して、社会教育の行政・施設の経営戦略に関する展望を示す。	
社会教育講義	学校教育という枠組みに限定されない視野で、学習活動と学習支援のしくみについてさまざまな角度から検討を行う。学習とその支援に関する理論、社会教育の現代的課題について基礎的な知識を習得した上で、演習的な活動を通して事業の企画立案を学ぶ。	
読書と豊かな人間性	児童・生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法を探る。読書の意義と目的に対する理解を深めるとともに、児童・生徒向け図書館メディアの種類や活用法、読書指導・支援の方法等を学び、さらに読書を通じた家庭・地域との連携についても考える。	
発達と学びをつなぐ教育実践論	<p>(概要) 就学前教育・保育（保育所、幼稚園、認定こども園）と小学校教育との連携に関する理論的・実践的理解を図ると共に、保育者・初等教育教員としての基礎的な職能を身につける。接続期のカリキュラム（アプローチ・カリキュラム、スタート・カリキュラム）についての様々な実践事例を学びながら、活動計画の作成・評価の視点とスキルを習得する。</p> <p>オムニバス方式／15回)</p> <p>(18 佐藤哲也／4回) イントロダクション／小1プロブレムとは何か／宮城県における「学ぶ土台づくり」と幼保小接続期カリキュラムの策定／p4cで繋ぐ「対話的で深い学び」</p> <p>(41 飯島典子／5回) 幼児期の生活と育ちの社会・文化的課題／幼年期の教育における生活と学びの連続性／幼年期の教育における生活と学びの連続性／スタートカリキュラムの策定と評価／アプローチカリキュラムの策定と評価</p> <p>(84 越中康治／3回) 保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の発達観・指導観／道徳発達に関する心理学理論の多様性／保育と特別支援</p> <p>(78 香曾我部琢／3回) 幼保小連携の実際（保育所の取り組み）／幼保小連携の実際（幼稚園の取り組み）／幼保小連携の実際（小学校の取り組み）</p>	オムニバス方式

学校論	<p>先人のたちの創った優れた実践事例をもとに、すべての子どもの可能性を引き出す学校のあり方を追求する。学校集団で学ぶ意味、子どもの力を伸ばす授業、深い学びを生み出す教師について、理解を深める。(15回)</p> <p>子どもの人間形成と学校教育①②/人間になるための学び/生きる力を育む学び/探究を深める学び/子どもから学ぶ教師/教師の専門性/教師に求められる学問/科学と芸術の基礎を学ぶ学校/子どもも教師も学ぶ学校/個が育つ学校集団/社会の中の学校①②/これからの学校①②</p>	
適応支援論	<p>子どもが学校や社会に適応するための支援のあり方について学ぶ。特に、いじめ問題について重点的に取り上げ、講義やp4cによるディスカッション、グループワーク(いじめ重大事案に関する第三者調査委員会報告書の講読)等を通して、いじめという現象について理解を深める。また、これらの理解に基づき、いじめ予防のための教育実践について考察し、それらを具現化する授業指導案を自ら作成することができるようになることを学習到達目標とする。</p>	
比較教育事情	<p>国際的な教育改革論の視点から、自己の日本における教育経験を相対化しつつ、日本の教育制度とその運営の在り方について新たな視点をもつことを目指す。インターナショナルバカロレアなど、超国家的な教育ネットワークにより展開されている教育、イギリスのアカデミーに代表される合理主義的な教育改革、アメリカの1950年代以降の教育改革に通底している、人種問題に関わる課題の解決、学校の効果に関する一連の研究等から、多面的な視点の手がかりを得る。</p>	
子ども学	<p>子どもの生命の誕生と成長、また生命の危機と保護について学ぶ。子どもの生命の誕生と成長は、私たち大人の常識を超えた神秘を宿している。子どもの神秘的な生命と世界を理解するために、私たちの常識を一時停止させる思考方法(現象学)を学び、子どもの表情や行動や表現から、子どもの生命と世界を新鮮に見ることを学ぶ。また、子どもの生命の弱さと強さを知り、子どもを守り育む方法について理解をすすめる。</p>	共同
生涯学習論	<p>生涯学習に関わる国内外の議論や事業・政策の動向について、その社会的・教育的背景を理解した上で、学校教育・社会教育・家庭教育の各領域における生涯学習の意義を検討する。各領域における学習活動とその支援の基本的な考え方と仕組みを学び、領域間の役割分担・協働のあり方を考える。</p>	
教育現場と法	<p>今学校では、新しい教育課程の推進、不登校やいじめ等の問題行動、児童生徒の安心安全確保、学校の危機管理や情報公開、教員の非違行為や資質向上等多くの課題をもっている。このような状況をふまえ、これらの解決にむけての日々の教育活動と法との関連を判例や具体的な事例を通して考察する。特に、いじめ防止対策推進法、学校保健安全法などについては詳解を図る。</p>	

<p>学校の安全管理と防災教育</p>	<p>「学校防災教育基礎」での学習を踏まえ、学校防災に関連する様々な学問領域（教育学、心理学、地理学など）の理論知や過去の災害の教訓・経験に基づく実践知の習得を目指す。これらを通して、教師として児童・生徒の命を守るとともに、児童・生徒が自らを守るために必要な思考力・判断力・表現力を身につけられることができるよう、学校防災教育の実践的指導力の基礎を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(83小田隆史／6回) 総論/関係法令/学校安全計画①/安全教育一目標・内容の理解②/対人管理・対物管理③/応用事例①/応用事例②/応用事例③</p> <p>(59林田由那／3回) 避難訓練①/避難訓練②/デジタル教材を用いた防災教育③</p> <p>(17市瀬智紀／2回) ①地球規模課題としての災害/②防災とSDGs</p> <p>(65梨本雄太郎／2回) ②学校・地域との協働/②学校とNPOとの共同</p> <p>(83小田隆史・59林田由那・65梨本雄太郎／2回) (共同) まとめ・今後の課題①/まとめ・今後の課題②</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>
<p>学校防災応用実践演習</p>	<p>「学校防災教育基礎」「学校の安全管理と防災教育」での学習をもとに、実習や対話・討論や被災地でのフィールドワークなど、すでに習得した知識の活用や探究を含めた高度な学習を行う。ハザードの理解、避難、他者理解、共感力、豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力など、学校の防災管理・防災教育に必要な高度な応用力・実践力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(83小田隆史・59林田由那・65梨本雄太郎／6回) (共同) 学校防災の応用/ 災害時の危機管理 災害とところ①/災害とところ②/避難所運営協力③/避難所運営協力④/まとめ・今後の課題①/まとめ・今後の課題②</p> <p>(83小田隆史／3回) 災害情報の活用 ハザードマップ等の活用①/ハザードマップ等の活用②/災害時の情報通信③</p> <p>(59林田由那／6回) 被災地フィールドワーク 被災地フィールドワーク①/被災地フィールドワーク②/被災地フィールドワーク③/被災地フィールドワーク④/被災地フィールドワーク⑤/被災地フィールドワーク⑥</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>

特別支援保育論	<p>(概要) 人間の一生の中で心身の発達が最も著しいのは乳幼児期であり、障害のある乳幼児は様々な領域で発達の制限や支障が生ずる。さらに療育者である親の精神的な動揺も大きく影響する。このようなことを踏まえ、知的障害や発達障害等の障害のある子どもの特性を理解するとともに、特性に応じた適切な支援の方法について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(120 川崎聡大/8回) 幼児教育と障害児保育/乳幼児に見られる障害/知的障害の特徴とその対応/自閉症の特徴とその対応/実態把握の方法/教育相談とその後の対応/個別の指導計画/ 個別の支援計画</p> <p>(144 松崎泰/7回) 特別支援教育と保育/学習障害の特徴とその対応/注意欠陥多動性障害の特徴とその対応/指導法の工夫①/指導法の工夫②/就学に向けて/まとめ</p>	オムニバス方式
学習指導と学校図書館	<p>学習指導において、学校図書館の果たす役割は大きい。その認識・理解を深めるとともに、学校図書館メディアの活用をめぐって、児童・生徒の発達段階や、各教科の特性に応じた指導方法を学び、司書教諭として児童・生徒・教員にどのような支援ができるのかを考える。</p>	
生涯学習実践論	<p>社会教育における学習活動とその支援について、学齢期の子どもと若者・青年に焦点を当て、実例を交えながら検討する。学習要求や課題の把握とそれに基づく適切な支援、学習成果の評価・活用など、学習活動の展開過程全体について実践的な考察を行う。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(65 梨本雄太郎/1回) ガイダンス、社会教育実践の多様性</p> <p>(非常勤講師/7回) 青年教育の歴史と構造/若者・青年のキャリア形成/若者・青年の生活と課題/若者・青年の学びの実践①/若者・青年の学びの実践②/若者・青年の学びを支える制度/若者にとっての社会教育の意義</p> <p>(97 池川尚美・65 梨本雄太郎/7回) (共同) 学校外教育の歴史と構造/子どもの家庭環境と生活課題/子どもの学びの多様性/学校外の子どもの学び①/学校外の子どもの学び②/子どもの学びを支える制度/子どもにとっての社会教育の意義</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
教育の原理	<p>教育学の基礎的知識を身につけ、教育について原理的に考え、対話できるようになることを目標とする。また、西洋教育思想史と日本の教育実践思想史のポイントを理解することを目指す。</p> <p>教育の理念・歴史・思想を含む、教育の基礎理論を学ぶ。表面的には多様な諸教育実践を根底で支え成り立たせている教育の原理は、網羅的で概説的な手法ではとらえることができない。そこで、この講義では、表面的には隠されている教育の原理に迫る。</p>	
教職入門	<p>教職の意義や職務内容を理解し、適切な進路選択ができるように、自己の教師像を明確にし、そのために何が必要かを理解し、実際に準備を始める。また、教職の意義や職務内容を理解し教科指導と学級経営における教職の基礎・基本について学ぶ。</p>	

	<p>教育制度の原理や構成について理解し、学校・教員を取り巻く課題について理解し、解決の在り方について考察できるようになることを目標とする。教育制度の原理や構成について学び、それらを取り巻く状況や課題を分析し、原理の具現化として学級や学校経営の仕組みを捉える。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(74 本田伊克／2回)</p> <p>学校の課題解決：子どもの困り感から始めるカリキュラム・マネジメント／学校の課題解決：子どもの困り感から授業づくり</p> <p>(69 本図愛実／13回)</p> <p>ガイダンス・公教育制度の原理とは／教育制度を支える教育法の体系－教育基本法の成立過程／教育制度を支える教育法の体系－教育の目的・目標／制度原理としての教育の機会均等と課題／制度原理としての生涯学習と課題／教育行政の理念と仕組み／教員に関わる制度と改革／地域協働・学校評価・組織マネジメント／学級経営の基礎的事項／教職員・地域との協働による学校安全／いじめ防止対策推進法／いじめ未然防止の多様な取組／まとめ(到達目標の振り返り)</p>	オムニバス方式
教育の基礎的理	<p>現代社会における教育の意義や教育に関わる制度について基礎的知識を身につけ、教育現場における課題の解決に向けて考察することができるようになることを目標とする。学校の内外における教育のさまざまな取り組みについて現状を把握し、理論に基づく解決の方策を検討する。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(74 本田伊克／4回)</p> <p>現代の学校の社会構造／学校文化-学校の組織と職員を動かす社会学／学歴と社会移動-選別機関としての学校／子どもの貧困と学校-学校は社会の格差と不平等を是正できるか</p> <p>(65 梨本雄太郎／11回)</p> <p>はじめに-教育の社会的意義／教育の法制度と行政の役割／社会の変化に対応する教育政策／学校外における学習活動(1)-施設における活動(公民館・図書館・博物館など)／学校外における学習活動(2)-団体を通じた活動(PTA・子ども会など)／社会に開かれた教育課程／学校と地域との関係に関わる政策／学校と地域との連携(1)-地域学校協働本部を中心に／学校と地域との連携(2)-事例の検討／防災教育・安全指導に関わる多様な取り組み／授業のまとめ</p>	オムニバス方式

解に関する科目	発達と学習の心理	<p>発達と学習についての理論および実際について理解し、心理学的な知能の捉え方や、障害をもった児童・生徒の処遇などについて理解できるようになることを目標とする。内容については、発達と学習についての理論および実際について概説する。また、心理学的な知能の捉え方や、障害をもった児童・生徒の処遇などについても解説する。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(67平真木夫／5回) 学習と学習観／認知心理学的学習の特徴1：記憶のメカニズム／認知心理学的学習の特徴2：系列位置効果の仕組み／認知心理学的学習の特徴3：ワーキングメモリ／学習と学習指導のあり方</p> <p>(82久保順也／5回) 発達心理学の視点／知能とは何か／知能の測定／発達と学習の障害 1：学習障害と注意欠如・多動症／発達と学習の障害2：自閉スペクトラム症</p> <p>(84越中康治／5回) 発達観の多様性／コミュニケーションと言語の発達／遊び・学びと認知の発達／集団における経験と育ち／仲間関係と社会性の発達</p>	オムニバス方式
	特別支援教育理解	<p>特別な支援を必要とする子供たちへの対応は、特別支援学校に限らず全ての学びの場で行われること、小中学校等における障害のある子供たちへの教育・支援に関する基礎的知識を修得し、合理的配慮の必要性について理解することを目標とする。内容については、多様な障害のある子供たちの実態、多様な学びの場におけるそうした子供たちとの関わり方について概説する。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(73植木田潤／4回) 特別支援教育の原理／発達障害の理解と支援／卒後支援／特別支援教育の周辺領域</p> <p>(53野崎義和／1回) 知的障害の理解と支援</p> <p>(48松崎丈／3回) 聴覚・言語障害の理解と支援／キャップハンディ体験（聴覚障害領域）／言語障害の理解と支援</p> <p>(50寺本淳志／2回) 運動障害の理解と支援／健康障害の理解と支援</p> <p>(80永井伸幸／2回) 視覚障害の理解と支援／キャップハンディ体験（視覚障害領域）</p> <p>(62菅井裕行／3回) 重度重複障害の理解と支援／障害児者福祉の理解／早期対応</p>	オムニバス方式
	幼稚園教育課程論	<p>幼児教育における教育課程の意味とその基礎理論を理解すると共に、実践場面を想定し、具体的な指導計画を立案するスキルを身につけることを目標とする。</p> <p>幼稚園教育課程の基礎理論を学ぶ。これまで実践されてきた教育課程を検証し、教育課程、指導計画の実際と課題と検討する。また、長期・中期・短期計画を理解して、自ら指導案を作成するための知見を身につける。</p>	
	道徳の理論及び指導	<p>道徳教育・道徳発達に関する基礎的事項を理解し、説明できるようになるとともに、学習指導案の作成、指導の展開、評価ができるようになることを目標とする。</p> <p>現在のわが国の道徳教育の問題点や課題について検討するとともに、道徳発達及び道徳教育に関する様々な理論と実践との関連について考察する。また、学習指導案の作成、指導の展開、評価、さらには現場における実践のあり方について考える。</p>	

<p>総合的な学習の時間の指導法（特別活動を含む）</p>	<p>総合的な学習の時間を指導するために必要な、原理と方法を知る。特に、総合的な学習の時間における「探究」のあり方と、単元構成と学習展開の具体的方法について理解を深める。また、総合的な学習の時間と関連性の深い、特別活動を指導するための原理と方法を知る。教育課程（カリキュラム）全体の中における、総合的な学習の時間と特別活動の意義と位置づけを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間と特別活動の意義を、カリキュラム・マネジメントと関連させて、学校教育全体のなかでの位置づけを理解する。 ・総合的な学習の時間に求められる「探究」の原理について、実践例をふまえて理解する。 ・総合的な学習の時間における「探究」の方法について、実践例をふまえて理解する。 ・総合的な学習の時間の単元構成と学習展開の具体的方法について、自然環境、防災・減災、国際理解の事例をふまえて理解する。 ・特別活動を指導する原理と方法について、総合的な学習の時間と関連づけて理解する。 ・学校現場での事例をもとに、総合的な学習と特別活動による児童・生徒の成長の姿を知る。 <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（63吉村敏之／1回） 総合的な学習の時間の意義—カリキュラム・マネジメントと関連づけて</p> <p>（79金田裕子／1回） 総合的な学習の時間における「探究」の方法—子どもの学びをふまえて</p> <p>（64齊藤千映美／2回） 総合的な学習の時間の単元構成と学習展開—自然環境（1）—フィールドワーク／総合的な学習の時間の単元構成と学習展開—自然環境（2）—動物飼育</p> <p>（35溝田浩二／2回） 総合的な学習の時間の単元構成と学習展開—自然環境（3）—バタフライガーデン／総合的な学習の時間の単元構成と学習展開—自然環境（4）—身近な自然を教材に</p> <p>（83小田隆史／2回） 総合的な学習の時間の単元構成と学習展開—防災・減災（1）—防災教育／総合的な学習の時間の単元構成と学習展開—防災・減災（2）—減災教育</p> <p>（17市瀬智紀／2回） 総合的な学習の時間の単元構成と学習展開—国際理解（1）—異文化理解／総合的な学習の時間の単元構成と学習展開—国際理解（2）—異文化交流</p> <p>（90猪股亮文／4回） 特別活動の原理—カリキュラム・マネジメントと関連づけて／特別活動の指導法（1）—学級活動・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動による集団形成／特別活動の指導法（2）—学校行事を中心とした家庭・地域との連携／特別活動の意義—子どもの成長の姿をふまえた評価と指導改善</p> <p>（63吉村敏之・79金田裕子／1回）（共同） 総合的な学習の時間における「探究」の原理—教師の実践をふまえて</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>
-------------------------------	---	-----------------------

総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

<p>教育課程と教育方法（情報機器及び教材の活用を含む。）</p>	<p>（到達目標及びテーマ） (1) 教育課程編成の基本原則と意義について理解し、教科・領域・学年を見通した視点でカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。 (2) これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法と技術を理論的かつ実践的に理解している。 (3) 情報機器（ICT）を適宜活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。</p> <p>（概要） 教育活動を計画的・系統的・意図的に行うためには、教育課程（カリキュラム）を編成し、実施し、評価することが欠かせない。本講義では、 (1) 教育課程とは、学習指導要領を一つの基準としながら、授業実践における内容（what）と方法（how）とを一体のものとして、子どもの発達段階や社会的要請を踏まえながら編成されるものであることを学ぶ。その際、カリキュラム・マネジメントの視点を身につける。 (2) 教育内容がどのような考え方のもとに編成され、教え・学ぶことが可能なかたちに組み立てられるかについて学ぶ。 (3) 教育の方法および技術について考えるための基本的視座を提供し、それをもとに学習指導のあり方を検討する。ICT（情報機器及びオンライン教材）の活用についても学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（74 本田イク・67 平真木夫／1回）（共同） 教育を設計するための基本的視座——教育課程と教育内容・方法</p> <p>（74 本田イク／4回） 教育課程を構成する領域／教育課程編成（カリキュラム・マネジメント）のポイント（1）／教育課程編成（カリキュラム・マネジメント）のポイント（2）／教育課程編成（カリキュラム・マネジメント）のポイント（3）</p> <p>（63 吉村敏之／3回） 学力とは何か（1）——「ゆとり教育」から「確かな学力」に至るまで／学力とは何か（2）——「主体的・対話的で深い学び」による資質・能力の育成／学力とは何か（3）——誰にとっての、何のための力を育てる授業か</p> <p>（79 金田裕子／2回） <教える>ことを中心とした授業モデル／<学ぶ>ことを中心とした授業モデル／</p> <p>（67 平真木夫／4回） 協働的な学びをいかにデザインするか／情報機器を活用した授業と適切な教材の作成と活用／教育評価の理論と実際（1）／教育評価の理論と実際（2）</p> <p>（74 本田イク・67 平真木夫・63 吉村敏之・79 金田裕子／1回）（共同） まとめ——教育をどのように設計していくか</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>
<p>児童・生徒理解</p>	<p>生徒指導・進路指導・キャリア教育の理論および実践について学び、児童・生徒の自己指導能力を育成するために必要な知識・技法や素養を身に付けることを目標とする。 生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義や理論、および実践のための技法や課題等について講義する。正課の授業や課外活動、個別指導や全体指導、学級経営や校内・校外連携等のあらゆる機会や手段を通じて児童・生徒の個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高め、かつ児童・生徒の自己指導能力を育成するための教育実践とその課題について考察する。</p>	

<p>幼児理解</p>	<p>生活や遊びに即した一人一人の子どもの発達や学びを理解することの意義・重要性について学ぶ。また、子どもの経験や学びの過程を理解するとともに、幼児理解に基づいた発達の援助方法と技術について、事例を通して具体的に学ぶ。 到達目標としては、以下のものとなる。 ①幼児理解の基本を学び、実際の子どもたちの姿から幼児理解ができるような基礎力を身につける。 ②子どもの知的好奇心を伸ばし、生活や遊びを通した学びの援助方法について理解する。 ③幼児理解に基づき子どもの発達援助と保育者の役割を考えることができる。 日常の子どもの姿に埋め込まれた育ちの意味について理解するための発達の観点について学ぶ。その観点をもとに、子どもの興味関心を広げながら経験を通じて学びが深まるカリキュラムを創造するとともに、その援助方法について考察していく。</p>	
<p>教育相談（カウンセリングを含む）</p>	<p>学校における教育相談の意義と課題を理解し、教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解し、具体的な進め方やポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解することを目標とする。 教育相談は幼児児童生徒が自己理解を深め、好ましい人間関係を築きながら、集団の中で適応的に生活する能力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児児童生徒の発達段階に即して、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援に必要な基礎的知識とカウンセリングの意義、理論、技法を身につける。</p>	
<p>教育体験初年次演習Ⅰ</p>	<p>「学び続ける教師」として成長できるよう、理論と実践を往還させながら学ぶ力の基礎を培うことを目的とする。教育に関する基本文献の講読や、学校現場での教育活動（特に授業）の観察などを行う。大学入学までの自分自身の学びの振り返りと大学における学びのあり方を習得する。学修にあたり、宮城教育大学で蓄積された「教育臨床研究」の成果を活用する。 （共同 15回） 教職の専門性/「学び続ける教師」への道/教師に求められる学問/自分をつくり変える学問/学校での学習と大学での学問/大学における教員養成/宮城教育大学の「教育臨床研究」/授業の世界（映像視聴）/授業の世界（授業観察）/学級という集団（教室観察）/授業における子どもの可能性の発見/学級集団における子どもの発見/教師となるための自分の学びを創る①②③</p>	<p>共同</p>
<p>教育体験初年次演習Ⅱ</p>	<p>前期の授業観察をふまえ、授業記録の手法、観察の実践的スキルの習得を目的とする。児童の学びの事実をとらえて分析する方法として、発話記録、映像記録、プロトコル分析、質問紙など、質的なものと量的なもの両方を体験し習熟する。それぞれの方法の特徴と有効性を知る。学修にあたり、宮城教育大学で蓄積された「教育臨床研究」の成果を活用する。 （共同 15回） 授業の世界をとらえる（映像視聴）①②/発話記録の作成/発話記録の解説/授業の中の子ども/授業を創る教師/授業で生じる学習/プロトコル分析/質問紙調査/授業の世界をとらえる（記録解説）①②/エピソード記述/授業記録を書く/「深い学び」を生み出す授業の創造にむけて①②</p>	<p>共同</p>

<p>教育実践探究演習</p>	<p>授業は大まかに導入、展開、まとめの三つの要素から構成される。子どもの学びの視点に立ち、それぞれの部分と全体を関連づけた構成を考慮し、授業展開を意識した指導案を作成できるようにする。具体的な教材を研究し、学習意欲を引き出す導入の工夫、展開部で実際に活用できるパフォーマンス課題、課題への取り組みについて自己評価できるまとめの工夫など、授業づくりの基礎・基本をグループ活動によって探究する。</p> <p>(共同 15回) 展開のある授業(映像視聴)/子どもと教材をつなぐ/子どもどうしをつなぐ/授業を組織する教師/展開のある授業(記録解説)/授業の組織—導入/授業の組織—展開/授業の組織—まとめ/子どもを引き付ける課題/課題の追求を深める教師の指導/学習が深まる評価(教師)/学習が深まる自己評価(子ども)/学習指導案の作成①②③</p>	<p>共同</p>
<p>中等国語科実践指導法A</p>	<p>学習指導要領の目標や内容と国語科の指導理論の理解に基づいた、中学校国語科の授業づくりの基本的な方法を修得する。教材研究、学習指導案、模擬授業作りに共同して取り組む。</p> <p>第1回：学習指導要領の理解 第2回：学習指導案について 第3回：教材の研究 第4回：学習者の理解 第5回：授業の実際 第6回：学習指導案づくり(個別) 第7回：学習指導案づくり(協同) 第8回：授業づくり 第9回：模擬授業と相互評価(言葉の特徴や使い方) 第10回：模擬授業と相互評価(情報の扱い方) 第11回：模擬授業と相互評価(我が国の言語文化) 第12回：模擬授業と相互評価(話すこと・聞くこと) 第13回：模擬授業と相互評価(書くこと) 第14回：模擬授業と相互評価(読むこと) 第15回：振り返り</p>	
<p>中等国語科実践指導法B</p>	<p>学習指導要領の目標や内容と国語科の指導理論の理解に基づいた、高等学校国語科の授業づくりの基本的な方法を修得する。教材研究、学習指導案、模擬授業作りに共同して取り組む</p> <p>第1回：学習指導要領の理解 第2回：学習指導案について 第3回：教材の研究 第4回：学習者の理解 第5回：授業の実際 第6回：学習指導案づくり(個別) 第7回：学習指導案づくり(協同) 第8回：授業づくり 第9回：模擬授業と相互評価(言葉の特徴と使い方) 第10回：模擬授業と相互評価(情報の扱い方) 第11回：模擬授業と相互評価(我が国の言語文化) 第12回：模擬授業と相互評価(話すこと・聞くこと) 第13回：模擬授業と相互評価(書くこと) 第14回：模擬授業と相互評価(読むこと) 第15回：振り返り</p>	

<p>中等社会科教育実践指導法A</p>	<p>中学校社会科地理的分野・歴史的分野の授業についての基礎的な技能を身に付けることを目標とする。中学校社会科地理的分野・歴史的分野の授業に対する関心を高めるとともに、基礎的な技能を習得する。</p> <p>第1回：ガイダンス 第2回：中学校社会科地理的分野・歴史的分野の指導計画 第3回：両分野の授業づくりの視点と方法－学習指導案の作成（情報機器の活用） 第4回：両分野の授業分析の視点と方法 第5回：中学校社会科教科内容の研究（地理的分野 前半単元） 第6回：中学校社会科教科内容の研究（地理的分野 後半単元） 第7回：中学校社会科教科内容の研究（歴史的分野 前半単元） 第8回：中学校社会科教科内容の研究（歴史的分野 後半単元） 第9回：模擬授業の設計と実践の補助－地理的分野の前半単元（情報機器の活用） 第10回：模擬授業の設計と実践の補助－地理的分野の後半単元（情報機器の活用） 第11回：模擬授業の設計と実践の補助－歴史的分野の前半単元（情報機器の活用） 第12回：模擬授業の設計と実践の補助－歴史的分野の後半単元（情報機器の活用） 第13回：模擬授業についての検討と再構成の補助－地理的分野の授業 第14回：模擬授業についての検討と再構成の補助－歴史的分野の授業 第15回：まとめ</p>	
<p>中等社会科教育実践指導法B</p>	<p>中学校社会科の公民的分野の授業の技能について習得する。</p> <p>第1回：ガイダンス 第2回：中学校社会科公民的分野の指導計画 第3回：公民的分野の授業づくりの視点と方法－学習指導案の作成（情報機器の活用） 第4回：公民的分野の授業分析の視点と方法 第5回：中学校社会科公民的分野の内容の研究（法・政治単元の教材づくり） 第6回：中学校社会科公民的分野の内容の研究（経済単元の教材づくり） 第7回：中学校社会科公民的分野の内容の研究（国際協調単元の教材づくり） 第8回：中学校社会科公民的分野の内容の研究（ESD単元の教材づくり） 第9回：模擬授業の設計と実践－法・政治単元（情報機器の活用） 第10回：模擬授業の設計と実践－経済単元（情報機器の活用） 第11回：模擬授業の設計と実践－国際協調単元（情報機器の活用） 第12回：模擬授業の設計と実践－ESD単元（情報機器の活用） 第13回：模擬授業についての検討と再構成－法・政治・経済調単元（情報機器の活用） 第14回：模擬授業についての検討と再構成－国際協調・ESD単元（情報機器の活用） 第15回：まとめ</p>	
<p>中等数学科実践指導法A</p>	<p>(授業のテーマ) 大学における履修済みの「教科及び教科の指導法に関する科目」の学習経験を生かして、生徒たちの多様な考えを生かして新たな学びを実現する場としての授業観を身につけるとともに、授業を改善する方法としての「授業研究」を体験を通して理解する。</p> <p>(到達目標) ・ 中等教育段階の数学科の目標を達成するための授業を構想することができる。 ・ 授業計画・改善の方法としての「授業研究」の過程を理解し、参加できる。</p> <p>(授業の概要) 授業の計画・改善の方法として国際的にも注目を集める「授業研究」を模擬的に実施することで、授業の構想から改善に至るまでの考え方やスキルを実践的・反省的に学ぶ。</p>	

<p>中等数学科実践指導法B</p>	<p>(授業のテーマ) 大学における履修済みの「教科及び教科の指導法に関する科目」の学習経験を生かして、生徒たちの多様な考えを生かして新たな学びを実現する場としての授業観を身につけるとともに、授業を改善する方法としての「授業研究」を体験を通して理解する。</p> <p>(到達目標) ・ 中等教育段階の数学科の目標を達成するための授業を構想することができる。 ・ 授業計画・改善の方法としての「授業研究」の過程を理解し、参加できる。</p> <p>(授業の概要) 授業の計画・改善の方法として国際的にも注目を集める「授業研究」を模擬的に実施することで、授業の構想から改善に至るまでの考え方やスキルを実践的・反省的に学ぶ。</p>	
<p>中等理科実践指導法A</p>	<p>中等教育における理科教育の方法とその実践事例を上級生との協働で理解する。これまでの自然科学についての学習で得られた知識と、模擬授業を伴った教育方法の学習で得られた知識および経験をもとにして、分かりやすくかつ丁寧な授業を考案することができるようになることを目標とする。中学校、高等学校を主とした理科教育に関わる授業の進め方や教材・教具の取り扱いについての模擬授業の実践を伴った講義である。</p>	
<p>中等理科実践指導法B</p>	<p>中等教育における理科教育の指導方法とその教授方法について学年をまたいだ学生間との協働で理解する。これまでの自然科学についての学習で得られた知識と、模擬授業を伴った教育方法の学習で得られた知識および経験をもとにして、分かりやすくかつ丁寧な授業を考案し、発展的なことを取入れたりアドバイスすることができるようになることを目標とする。中学校、高等学校を主とした理科教育に関わる授業の進め方や教材・教具の取り扱いについての模擬授業の実践を伴った講義である。</p>	
<p>中等音楽科実践指導法A</p>	<p>中学校の音楽科教育において、歌唱、器楽、創作、鑑賞の授業を行う上で必要な基本的な音楽の知識と指導の技能を習得することを目標とする。概要としては、中学校の音楽科教育に必要な教材の理解や教材分析の方法の基礎について学ぶ。教科書分析や授業記録の検討といった文献研究と、附属学校での授業参観や研究授業の検討といった実践研究を、教育実習を実践する3年次学生と協働して進める。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(31 原田博之／7回) 音楽科の学習指導要領／音楽科の学習指導案と評価／歌唱の教材分析／歌唱の指導法と模擬授業／教育実習研究授業(歌唱・器楽)の参観と検討／教育実習研究授業(創作・鑑賞)の参観と検討／総括(音楽科教育の新たな展開)</p> <p>(28 倉戸テル／2回) 器楽の教材分析／器楽の指導法と模擬授業</p> <p>(93 松波匠太郎／2回) 創作の教材分析／創作の指導法と模擬授業</p> <p>(21 小塩さとみ／2回) 鑑賞の教材分析／鑑賞の指導法と模擬授業</p> <p>(10 日比野裕幸／2回) 指揮の実践と指導法／ICT機器の活用と情報活用能力の育成</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>中等音楽科実践指導法B</p>	<p>中学校の音楽科教育において、歌唱、器楽、創作、鑑賞の授業を实践する上で必要な音楽の知識と技能を、生徒の実態に即した授業開発と実践を通して身につけることを目標とする。中学校の音楽科教育に必要な教材の理解や教材分析の方法について、附属学校での教育実習で得られた経験と研究授業の検討を踏まえつつ、音楽科授業の実践的な指導力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(31原田博之／7回) 音楽科の学習指導要領／音楽科の学習指導案と評価／歌唱の教材分析／歌唱の指導法と模擬授業／教育実習研究授業(歌唱・器楽)の参観と検討／教育実習研究授業(創作・鑑賞)の参観と検討／総括(音楽科教育の新たな展開)</p> <p>(28倉戸テル／2回) 器楽の教材分析／器楽の指導法と模擬授業</p> <p>(93松波匠太郎／2回) 創作の教材分析／創作の指導法と模擬授業</p> <p>(21小塩さとみ／2回) 鑑賞の教材分析／鑑賞の指導法と模擬授業</p> <p>(10日比野裕幸／2回) 指揮の実践と指導法／情報活用能力育成のためのカリキュラム・マネジメント</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>中等美術科実践指導法A</p>	<p>美術科の教育現場におけるカリキュラム構成の分析と検証を踏まえた上で、表現を实践する意義にテーマを当て、美術科教育の在り方に照らし合わせ、教育実践における地域の特性を生かした教育普及など全般的に学習する。さらに、中学校における授業作りに、自ら考え構想を練るなど、創造的な企画力を高め、幅広い授業作りの演習に取り組み、基本的な芸術文化の教育理念を体得し学習する。</p> <p>美術科の教科について、基本的な教科内容の学問に関する知識を、造形表現の原理を通して学び、カリキュラム開発のための分析と検証を踏まえた上で、地域性を活かしたアートの取り組みなど、様々な企画を立てる演習を行う。また、その上で、ICT活用など新しい美術科教育のあり方についても取り入れる技術を身につける。美術表現全般について、学校教育の現場において、実際的かつ具体的に授業作りができる力を身につけることによって、教科指導力に関する造形指導の専門性の向上を図る。</p>	
<p>中等美術科実践指導法B</p>	<p>義務教育内での美術教育指導は職人や美術家養成ではない、実験的な技法を学び表現の楽しさ、生涯学習社会のなかでの今後のアートのあり方や「美術で教育」することを理解することを目標とする。学校美術科の教科書分析をはじめ、授業でも活用できるモダンテクニック等の技法を造形演習として行う。また現代の多様な表現を知り、ICT活用など今後の美術科教育のあり方を学ぶ。</p>	

キャリア
アステッ
ブ
アッ
ブ
科目

<p>中等保健体育科実践指導法A</p>	<p>保健及び体育科の授業を創るために必要となる基礎的な知識を身につける。また、運動文化や身体に含まれる教材価値について理解・説明できる力を養う。加えて、授業を分析する方法を理解し、生徒の立場から授業の課題と改善点を考え、情報機器を使って表現する力を育む。運動文化や身体に含まれる教材価値と授業分析の方法について理解した上で、模擬授業に生徒役として参加し、授業の課題を見つけられるようにする。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(58佐藤亮平・55沼倉学・81黒川修行／2回) (共同) オリエンテーション(ガイダンス)／まとめ</p> <p>(81黒川修行／4回) 保健の授業づくりとその方法／保健の授業分析とその方法／保健の模擬授業の検討(1)／保健の模擬授業の検討(2)</p> <p>(55沼倉学／4回) 体育の授業づくりとその方法／体育の授業分析とその方法／教材の考え方(1)／教材の考え方(2)</p> <p>(58佐藤亮平／2回) 体育科内容論－学習指導要領における内容を中心に－／体育科内容論－運動文化の構造に着目して－</p> <p>(58佐藤亮平・55沼倉学／3回) (共同) 体育の授業づくり－授業プランの作成－／体育の模擬授業－授業プランの実施－／体育の模擬授業の検討－授業の分析ツールの活用－</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>
<p>中等保健体育科実践指導法B</p>	<p>保健及び体育科の授業を創るために必要となる基礎的な知識を用いて授業プランを作成する力を身につける。また、模擬授業の実践を通じて生徒がわかり・できるようになっていく過程について体験し、教師の立場から授業の課題と改善点を考える力を育む。発問の意図や意義、教具の使い方、及び、効率的な教師行動について理解し、授業プランに反映させることができ、授業プランのプロセスを理解し、他のグループが作成した指導案を修正できるようになることを目標とする。</p> <p>(58佐藤亮平・55沼倉学・81黒川修行／2回) (共同) オリエンテーション(ガイダンス)／まとめ</p> <p>(81黒川修行／4回) 保健の授業づくりとその方法／保健の授業分析とその方法／保健の模擬授業の検討(1)／保健の模擬授業の検討(2)</p> <p>(55沼倉学／4回) 体育の授業づくりとその方法／体育の授業分析とその方法／教材の考え方(1)／教材の考え方(2)</p> <p>(58佐藤亮平／2回) 体育科内容論－学習指導要領における内容を中心に－／体育科内容論－運動文化の構造に着目して－</p> <p>(58佐藤亮平・55沼倉学／3回) (共同) 体育の授業づくり－授業プランの作成－／体育の模擬授業－授業プランの実施－／体育の模擬授業の検討－授業の分析ツールの活用－</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>
<p>中等技術科実践指導法A</p>	<p>(到達目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して3年次実習に臨む自覚を高めることができる。 ・ICTの活用および教材・教具の作成・準備が適切にできる。 ・わかりやすい授業設計と授業をすることができる。 <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を考える上で基礎となる授業の記録や分析を通して、様々な視点で授業を理解する。 ・教材観を養い、自分がイメージする学習指導案を作成する。 	

<p>中等技術科実践指導法B</p>	<p>(到達目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して3年次実習に臨む自覚を高めることができる。 ・授業のねらいを明確にした授業設計ができる。 ・授業のねらい達成に向けて指導過程を工夫できる。 ・教材・教具の作成・準備が適切で、活用することができる。 ・要点をわかりやすく話することができる。 ・表現力豊かに模擬授業を行うことができる。 <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分がイメージする授業を行うことを前提として、専門的な教材研究と教材作成を行い、様々な教授スキルを習得しながら模擬授業を行う。 ・授業後には授業検討会を行い、自分自身の授業に対して客観的に分析する。 	
<p>中等家庭科実践指導法A</p>	<p>家庭科教育の指導案のもと(題材集)を作ることができ、家庭科教育の指導に必要な知識と技能を習得することを目標とする。家庭科の授業の特徴を捉え、教育目的に沿った教材開発について具体的に理解する。併せて、家庭科に必要な技能の習得を図る。</p>	
<p>中等家庭科実践指導法B</p>	<p>家庭科教育の指導に必要な知識と技能を習得し、授業を創造する力を身につける。中学校家庭科の指導で必要とされる技能面の習得を目指す、また、実習を取り入れ、実習題材の教材研究を深めると同時に模擬授業を実施する。</p>	
<p>中等英語科実践指導法A</p>	<p>中学校及び高等学校の英語科における5領域及び領域統合多々の指導技術と評価方法を身につける。具体的には、4技能5領域の指導、領域統合型の言語活動の指導、学習指導案の作成、言語能力の測定と評価等について学ぶ。</p>	
<p>中等英語科実践指導法B</p>	<p>中学校及び高等学校の英語科と第二言語習得に関する知識を身につける。具体的には、目標設定・指導計画、学習到達目標に基づく授業の組み立て、学習指導案の作成、観点別学習状況評価・評価規準の設定・評定への総括、小・中・高等学校連携、第二言語習得等の内容を扱う。</p>	
<p>幼稚園3年次実習(事前・事後指導1単位を含む。)</p>	<p>授業では、実際に幼稚園の生活を体験する中で、幼児教育について実践を通して学び保育の良さに気付くこと、幼児理解の実際を学び、個に応じた援助や環境構成に努めること、社会を構成する一員としての自覚をもち、社会に出るための心構えを身に付けることを目標とする。また、大学で学んだことを実際の保育現場で実践することで、幼児と関わる楽しさ、素晴らしさを経験させる。内容として、幼児の遊びの様子や教師の援助等を観察するとともに、保育や幼児の遊びに参加させる。さらに、登園から降園までの一日の保育にあたる「一日保育」や、一日の一部分の保育にあたる「部分保育」を実践させることで幼児の発達に応じた関わり方を学ばせる。</p>	
<p>小学校3年次実習(事前・事後指導1単位を含む。)</p>	<p>授業では、実際の教育活動に即して小学校の概要を理解すること、具体的な授業実践や体験、観察、指導とのふれあいを通して、教師として必要な資質・能力を伸張することを目標とする。担当教師の授業を観察し、授業構成や学習の流れ、子どもの反応がどのようになっているのかを捉え、授業の組み立て方を知ることや講話により児童理解の在り方、基本的な指導案作成の仕方等を学ぶ。さらに、自ら教材を研究し指導案を作成して授業を行う「実践授業」を経験させ、実施後は担当教師、他の実習生も交えて研究討議を行い、教材解釈や発問、板書、授業者の態度等について深めさせる。</p>	

<p>中学校3年次実習（事前・事後指導1単位を含む。）</p>	<p>授業では、指導教諭の授業の学習の構成や流れ、発問の仕方、生徒の反応の生かし方などがどのように行われているのか観察させ、また、授業のねらい、教材の特徴、生徒の実態の視点を重視した実践授業に取り組ませる。さらに、題材や指導計画、本時の指導に際しての留意点を記した指導案を作成させ研究授業に取り組ませる。研究授業終了後には指導教諭と参観者による討議の場を設け、学ぶべき点や今後の課題、その解決のための方向性などを確認させる。そのほか、授業づくりのベースとなる生徒一人ひとりとの人間関係構築について、始業前や休み時間、放課後の諸活動、下校指導等も活用し実践させる。</p>	
<p>小学校4年次実習（事前・事後指導1単位を含む。）</p>	<p>教科の学習指導、特別活動、行事活動、学級経営、生徒指導等学校教育のすべての分野と、それを担当する教師の仕事の重要性について実際に学習、観察、体験させ研究させる。学習指導案を作成しての教壇実習は7時間以上経験させ、実習開始直後の導入的プログラムが終了した後は、1日1時間を目安に、特別活動や学級指導（朝の会、帰りの会、清掃指導、給食指導等）の教職に関する指導を実践させ、研究授業を設定する。</p> <p>協力小学校における実習では、小学校における教科、特別活動の指導について、大学での講義と関連付けて理解を深めるとともに、配当学級のみならず実習校全体の学校目標や地域との関わりについても把握し、学校運営における教師の役割や任務等についてもさらに学ばせる。</p>	
<p>中学校4年次実習（事前・事後指導1単位を含む。）</p>	<p>教科の学習指導、特別活動、行事活動、学級経営、生徒指導等学校教育のすべての分野と、それを担当する教師の仕事の重要性について実際に学習、観察、体験させ研究させる。学習指導案を作成しての教壇実習は7時間以上経験させ、実習開始直後の導入的プログラムが終了した後は、1日1時間を目安に、特別活動や学級指導（朝の会、帰りの会、清掃指導、給食指導等）の教職に関する指導を実践させ、研究授業を設定する。</p> <p>協力中学校における実習では、教師が学習者の視点をもつとともに、生徒が主体的・対話的に深く学ぶことができるような効果的な指導の在り方を探らせる。これら学習活動のほか、校務分掌等の学校・学級経営に関する事項についても学ばせる。</p>	
<p>高等学校実習（事前・事後指導1単位を含む。）</p>	<p>教科の学習指導、特別活動、行事活動、学級経営、生徒指導等学校教育のすべての分野と、それを担当する教師の仕事の重要性について実際に学習、観察、体験させ研究させる。学習指導案を作成しての教壇実習は7時間以上経験させ、実習開始直後の導入的プログラムが終了した後は、1日1時間を目安に、特別活動や学級指導（朝の会、帰りの会、清掃指導、給食指導等）の教職に関する指導を実践させ研究授業を設定する。</p> <p>高等学校実習は協力中学校において実施するが、生徒理解のほか学校運営や道徳教育、保健・安全指導、教育課程等について講話や実習を通して学ばせる。</p>	
<p>特別支援学校実習（事前・事後指導1単位を含む。）</p>	<p>授業では、特別支援学校における指導の実際を理解させること、児童生徒の理解に努め、個々の特性に応じた指導・支援を実践すること、特別支援教育に関する専門的な知識・技能を実践を通して学ぶことを目標とする。特別支援教育と教育実習の意義・実際・方法に関する講話を実施するほか、児童生徒の健康管理、食事管理、進路指導に関する講話も設定する。内容として、指導教諭が行う学習指導及び配当学級の児童生徒を観察するほか、学習指導案を作成しての教壇実習も実施させる。</p>	

<p>教職実践演習（幼・小）</p>	<p>（概要） 直接授業を担当する教員に加え、授業計画の立案や授業の具体的な展開の補佐及び教科の専門的知識の確認等に関して、教科専門教員及び学校現場経験者、本学附属学校教員との連携体制を構築する。幼稚園・小学校教諭に相応しい資質や能力の確認を行い、各教科に即したこれまでの履修の在り方をまとめあげるとともに、実際の授業力に結びつける形で内容の総まとめを行う。</p> <p>共同／15回</p> <p>（全教員／15回）（共同） イントロダクション／教育の意義と教員の使命についての講義／教職の意義と教員の職務内容に関する話題提供／教職の意義と教員の職務内容に関するグループディスカッション／教育と行政に関する話題提供／教育と行政に関するグループディスカッション／幼児・児童・生徒理解に関する話題提供／幼児・児童・生徒理解に関するグループディスカッション／学級経営に関する講義とグループディスカッション／社会性や対人関係能力についての講義とグループディスカッション／教科・保育内容等の指導力に関する話題提供／教科・保育内容等の指導力に関するグループディスカッション／模擬授業の実践／模擬授業の省察／資質能力の確認、まとめ</p>	<p>共同</p>
<p>教職実践演習（中・高）</p>	<p>（概要） 直接授業を担当する教員に加え、授業計画の立案や授業の具体的な展開の補佐及び教科の専門的知識の確認等に関して、教科専門教員及び学校現場経験者、本学附属学校教員との連携体制を構築する。中学校・高等学校教諭に相応しい資質や能力の確認を行い、各教科に即したこれまでの履修の在り方をまとめあげるとともに、実際の授業力に結びつける形で内容の総まとめを行う。</p> <p>共同／15回</p> <p>（全教員／15回）（共同） イントロダクション／教育の意義と教員の使命についての講義／教職の意義と教員の職務内容に関する話題提供／教職の意義と教員の職務内容に関するグループディスカッション／教育と行政に関する話題提供／教育と行政に関するグループディスカッション／幼児・児童・生徒理解に関する話題提供／幼児・児童・生徒理解に関するグループディスカッション／学級経営に関する講義とグループディスカッション／社会性や対人関係能力についての講義とグループディスカッション／教科・保育内容等の指導力に関する話題提供／教科・保育内容等の指導力に関するグループディスカッション／模擬授業の実践／模擬授業の省察／資質能力の確認、まとめ</p>	<p>共同</p>
<p>保育内容（健康）指導法</p>	<p>保育内容領域「健康」の指導法について解説し、心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身につける。また、タブレット等の情報端末を利用して、保育内容と教材を開発する知見を習得することを目標とする。</p> <p>概要としては、幼稚園教育要領が示す領域「健康」の内容について理解する。また、子どもの心身の発達や基本的な生活習慣、多様な動きの習得、安全管理等について事例を基に解説し、保育内容を探求する。さらに指導案の作成や模擬保育を通して、保育の構想力と実践力を習得する。</p>	

<p>保育内容（人間関係）指導法</p>	<p>（到達目標）</p> <p>① 幼児期の教育の基本と領域「人間関係」のねらいと内容を理解する</p> <p>② 乳幼児期の心身の発達と人とのかかわりの発達について理解する</p> <p>③ 個の育ちと集団関係の育ち、仲間関係の育ちについて理解し、その重要性について発達の見通しをもって説明できる。</p> <p>④ 子どもの人とのかかわりを援助する保育者の役割を見だし、保育を創造できる。</p> <p>（概要）</p> <p>子どもの人とのかかわりの発達の意義を発達段階に応じて学ぶ。また、領域「人間関係」は人とのかかわりだけでなく、自己の発達も含まれていることから、子どもの自己効力感や自己実現を育む保育のあり方と保育者の援助について理解を深める。さらに、人とのかかわりを育てる物的環境やルール遊び、児童文化材等の教材の活用に加えICT機器の活用を実践的に学んでいく。</p>	
<p>保育内容（環境）指導法</p>	<p>保育内容領域「環境」の指導法について解説していく。幼児教育における環境（自然・もの・人・こと）の意義や内容、幼稚園教育要領第2章領域「環境」について理解するとともに、日案を作成するためのスキルを身に付ける。また、タブレット等の情報端末を利用して、保育内容と実践を開発する知見を習得する。</p> <p>概要としては、幼稚園教育要領が示す領域「環境」の内容、その実践展開について解説する。また、様々な実践事例を解説し、保育を構想していくための知見を育成していく。さらに指導案を作成することで、保育を構想する力を身に付ける。</p>	
<p>保育内容（言葉）指導法</p>	<p>（到達目標）</p> <p>①領域「言葉」のねらいと内容を他の領域と関連づけながら説明することができる。</p> <p>②言葉とコミュニケーションおよび思考の発達過程と乳幼児期に必要な経験について理解し、保育構想に活用することができる。</p> <p>③生活や遊びを通じた乳幼児の育ちを援助するための技能および教材の活用方法について学び、他者と協働しながら実践的な指導案を作成することができる。</p> <p>④保育の評価方法と改善（カリキュラムマネジメント）について理解した上で、保育の計画や指導案の作成をすることができる。</p> <p>⑤領域「言葉」に関する現代的課題や保育実践の動向を踏まえ、保育の質の向上に必要な保育者の専門性について説明することができる。</p> <p>（概要）</p> <p>乳幼児の言葉に対する感性と話す・聞く・伝える・考える力を育成する意義について解説する。また、保育所保育指針・幼稚園教育要領等に示された領域「言葉」のねらいおよび内容についてその背景となる発達の理解を基に、発達に応じた指導方法と援助のあり方およびカリキュラムマネジメントについて実践的に学ぶ。</p>	

保育内容（表現）指導法	<p>(到達目標) 保育内容領域「表現」の指導法について解説し、表現に関する認知・知覚の発達などの専門的事項についての知識を身につける。また、タブレット等の情報端末を利用して、保育内容と教材を開発する知見を習得する。</p> <p>(概要) 幼稚園教育要領が示す領域「表現」の内容について理解する。また、子どもの心表現に関する認知・知覚の発達等について事例を基に解説し、保育内容を探求する。さらに指導案の作成や模擬保育を通して、保育の構想力と実践力を習得する。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (78香曾我部琢／1回) 幼稚園教育要領における領域「表現」 (非常勤講師／14回) 表現の形成とその意義／幼児期の表現課題と発達の理解／幼児期の認知発達／音楽的な表現の発達／子ども主体の表現教育の実際／幼稚園における造形活動／多様な動きを促す製作遊びの指導と留意点／園庭・戸外遊びの指導と留意点／情報機器を活用した保育内容と教材の開発／指導案の作成／指導案の検討／模擬保育の実施と検討(1)指導案の展開／模擬保育の実施と検討(2)課題の克服と評価の視点／幼児期における表現教育の意義と指導法を整理する</p>	オムニバス方式・共同(一部)
初等国語科教育法	言語の教育としての国語科の授業づくりにおける教材研究とその方法について、学習指導要領をふまえつつ、授業づくりの基礎的な能力を習得することを目標とする。学習指導要領に示された目標及び育成すべき資質・能力をもとに、国語科の教科構造を理解しつつ、代表的な教材やその指導法について理解する。	
初等社会科教育法	小学校の社会科教育に関する目標・内容・方法・評価等について理解することを目標とする。小学校の社会科に関する各内容等の学習指導について、具体的な教材・授業を通して学ぶ。	
初等算数科教育法	教える側の視点から「算数教育」を捉えなおし、小学校算数科を担当するため、算数科の目標・内容・方法について最低限の理解を図る。概要としては、小学校で算数を教えるために最低限知っておきたい基礎を学ぶ。	
初等理科教育法	<p>(到達目標) ①小学校教員として身に付けておくべき理科教材の取り扱い方について、講義を通して理解できる。 ②小学校を主体とした理科教育の各領域の特徴と、それらに応じた指導上の留意点を理解し、具体的な事例を挙げて説明できる。 ③理科におけるICT教材の効果的な使用法を理解できる。</p> <p>(概要) 小中学校の理科は学習指要領の中で、エネルギー・粒子・生命・地球の4領域で構成されており、各領域は系統的に構成され、領域ごとの特徴に応じた教材と指導法がある。この講義では、各領域の系統性を理解し、教材と指導法の具体的な事例をもとに、授業の進め方や教材の取り扱いについて解説する。</p>	
初等生活科教育法	小学校の生活科教育に関する目標・内容・方法・評価について理解することを目標とする。小学校の生活科に関する各領域等の学習指導について具体的な教材・授業を通して学ぶ。	

初等音楽科教育法	<p>小学校音楽科の授業を実践する上で必要な理念及び知識と、基礎的な音楽の技能及び指導法を身につけ、音楽科の教材研究を自ら行い実践できる力を養うことを目標とする。児童の心理的・音楽的な発達と音楽科教育の目的を踏まえた上で、小学校音楽科の授業を実践する上で必要な理念及び知識と、基礎的な音楽の技能及び指導法を身につける。教材研究に取り組み、新たな教材開発も念頭に受講生で協働して模擬授業を実践する。授業では各領域の教材研究のほか、歌唱や器楽、特にリコーダーの基礎的な技法について学び、音楽科の授業を実践する力を身につける。</p>	
初等図画工作科教育法	<p>「創造的な教科としての図工・美術」としての造形演習や国内外の事例研究、授業の立て方についても学び構想力を高め、義務教育内での図工美術教育指導は職人や美術家養成ではない、「美術の教育」ではなく「美術で教育」であることや表現の多様性を理解することを目標とする。小学校図画工作での「造形あそび」の造形演習などこれからの図画工作の授業を検討する。また国内外の多様な造形表現を知り、ICT活用など今後の図画工作教育のあり方を学ぶ。小学校図画工作科学習指導要領を内容と方法の視点から分析する。さらに「創造的な教科としての図工・美術」としての造形演習や事例研究、授業の立て方についても学び構想力を高める。</p>	
初等家庭科教育法	<p>(到達目標) ①小学校家庭科の専門的内容を理解し、授業づくりに反映するための基礎を習得する。 ②小学校家庭科の教育内容を理解し、実際に教材にふれながら、その選定や開発について学ぶ。 ③実際の家庭科の授業を念頭において授業の目標、教材、教授行為などについて考察し、自ら授業を構想する。</p> <p>(概要) 実際の家庭科の授業を念頭において授業の目標、教材、教授行為などについて考察し、受講者が自ら授業を構想できることを目指す。実際の授業を追試するプロセスを経て、家庭科の授業づくりの能力を培う。教科書教材を用いる場合と自ら考え出す教材の場合とがあるが、それぞれの留意点を明らかにする。</p>	
初等体育科教育法	<p>(概要) 学習指導要領の変遷から体育科の目的を考え、これまでの実践研究の成果や課題について学ぶとともに、教材づくりの目標・内容・方法、ICTの活用に関する知識や技能を習得する。また、全ての子どもが意欲的に学習に取り組めるような体育・保健の学習指導案の作成について理解する。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(55 沼倉学／12回) オリエンテーション (ガイダンス) / 体育科の目的-学習指導要領の変遷 / 教材とは何か-目標-内容-方法-評価の一体化 / 教材づくりの方法 (1) 陸上運動 / 教材づくりの方法 (2) 器械運動 / 教材づくりの方法 (3) 水泳運動 / 教材づくりの方法 (4) ボール運動 / 教材づくりの方法 (5) 体づくり運動・表現運動 / 保健の授業づくり (1) 保健の教育内容の構造 / 保健の授業づくり (2) 発問・教具について / 学習指導案の構造 / 学習指導案の作成</p> <p>(58 佐藤亮平 / 3回) 体育授業の時間管理、フィードバックについて / 体育授業におけるICT機器の活用 / 体育のカリキュラム論、評価</p>	オムニバス方式

<p>初等外国語活動・外国語教育法</p>	<p>(概要) 小学校における外国語活動(中学年)・外国語(高学年)の学習・指導・評価に関する基本的な知識・指導技術を身に付けることを目標とする。小学校外国語教育についての基本的な知識・理解、子供の第二言語習得についての知識とその活用、指導技術、授業作りに関する内容を扱う。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(76鈴木渉・57和田あずさ/3回)(共同) オリエンテーション、学習指導要領(外国語活動)/目的・場面・状況に応じたコミュニケーションも必要性とその指導/模擬授業、まとめ</p> <p>(76鈴木渉/6回) 学習指導要領(外国語)、小・中・高等学校の連携/学習到達目標、指導計画/A L T等とのチームティーチングとその指導/I C T等の効果的な活用とその指導/学習状況の評価(観察、振り返り、パフォーマンス評価等)/学習指導案の作成</p> <p>(57和田あずさ/6回) 目的・場面・状況に応じたコミュニケーションも必要性とその指導/受信から発信へと進むプロセスとその指導/音声から文字へと進むプロセスとその指導/児童の発話を促す英語の語りかけとその指導/児童とのやり取りの進め方とその指導/題材の選定、教材研究</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>
<p>中等国語科教育法A</p>	<p>学習指導要領に示された国語科の目標や内容を理解することを目標とする。概要としては、中学、高校における国語科教育論および指導論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業づくりを行う基礎を身につける。</p>	
<p>中等国語科教育法B</p>	<p>言語の教育としての国語科の授業づくりにおける教材研究とその方法について、学習指導要領をふまえつつ、授業づくりの基礎的な能力を習得することを目標とする。学習指導要領に示された目標及び育成すべき資質・能力をもとに、国語科の教科構造を理解しつつ、代表的な教材やその指導法について理解する。</p>	
<p>中等社会科教育法A</p>	<p>中学校社会科に関する目標・内容・方法・評価などについて理解することを目標とする。中学校社会科に関する理論や方法論などについて学習指導要領解説を用いて学ぶ。</p>	
<p>中等社会科教育法B</p>	<p>中学校社会科公民的分野に関する目標・内容・方法・評価等について理解することを目標とする。中学校社会科公民的分野の各内容等の学習指導について具体的な教材・授業を通して学ぶ。</p>	
<p>中等社会・地歴科教育法</p>	<p>授業の到達目標及びテーマ 中学校社会科を踏まえて高等学校地理歴史科に関する目標・内容・方法・評価などについて理解することを目標とする。中学校社会科を踏まえて高等学校地理歴史科に関する理論や方法論などについて学習指導要領解説などを用いて学ぶ。</p>	
<p>中等社会・公民科教育法</p>	<p>中学校社会科および高等学校公民科に関する目標・内容・方法・評価等について理解することを目標とする。中学校社会科および高等学校公民科に関する各内容等の学習指導について学ぶ。</p>	
<p>中等数学科教育法A</p>	<p>数学科では、生徒が数学的活動を通して、情報機器を適宜活用して教科内容を学習することが求められている。この学習方法を理解して授業で実現するためには、教師自身が探究的な学習方法によって数学を学習した経験を有することが不可欠である。 本授業では、この学習方法及びその指導と評価の要点を理解し、教材研究及び授業構想の視点を獲得するために、受講者自身がこの学習方法によって数学を学習すること、その過程を学習者と教師の二つの立場から俯瞰することを行う。</p>	

中等数学科教育法B	<p>数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を通して数学的に考える資質・能力の育成が求められている。このような授業を実現するためには、教師自身がそのような数学的経験をしていることが不可欠である。本授業では、問題解決とその振り返りから数学的に考えることの具体に接近し、それを踏まえて数学の授業づくりについて考えていく。</p>	
中等理科教育法A	<p>中等教育における理科教育の指導方法とその教授方法を検討し理解する。中等理科教育における教科書、教材・授業がどのような変遷を辿って、現在に教育方法に変遷してきたのかを学ぶ。</p> <p>これまでの自然科学についての学習で得られた知識と、験をもとにして現代のアクティブラーニングの手法とICTを活用しながら、より効果的な教育方法を探求する。中学校、高等学校を主とした理科教育に関わる授業の進め方や教材・教具の取り扱いについての現代的課題を協働で考え理解を深める講義である。</p>	
中等理科教育法B	<p>中等教育における理科教育の方法とその実践事例を理解し、これまでの自然科学についての学習で得られた知識と、教育実習を含む教育方法の学習で得られた知識および経験をもとにして、安全かつ効果的な授業を考案することができるようになることを目標とする。中学校、高等学校を主とした理科教育に関わる授業の進め方や教材・教具の取り扱いについての講義である。</p>	
中等音楽科教育法A	<p>中学校音楽科及び高等学校芸術科音楽の授業実践に必要な理念や知識、教材研究の方法や指導法について理解し、自ら実践できる力を養う。</p> <p>中学校音楽科及び高等学校芸術科音楽における各領域等の目標や内容、指導上の留意事項、生徒や学校現場の実態について理解し、教材研究や模擬授業に実践的に取り組みつつ音楽の授業について学ぶ。また、情報機器等を活用した教材開発の可能性について検討する。</p>	
中等音楽科教育法B	<p>中学校音楽科及び高等学校芸術科音楽で授業を実践する上で必要な知識や技能についての理解を更に深め、生徒や学校現場の実態について学びながら、音楽科教育の様々な方法を用いた教材研究や実践に取り組む。また、音楽科教育の理論と実践について、生徒や学校現場の実態を理解しながら音楽科教育における具体的なテーマについて考え、模擬授業の実践や、情報機器を用いた教材開発を含む研究発表にグループで協働して取り組む。</p>	
中等美術科教育法A	<p>美術科の教科について、基本的な教科内容の学問に関する知識を、平面、立体表現の原理を通して学び、様々な技法の中で主に基礎的な技法を通して制作を行う。また、ICT活用など新しい美術科教育のあり方について、教材を通して学び身につける。さらに、美術表現全般について、実際的かつ具体的に構成していくことのできる力を身につけることによって、教科指導力に関する造形指導の専門性の向上を図る。</p>	
中等美術科教育法B	<p>義務教育内での美術教育指導は職人や美術家養成ではない、実験的な技法を学び表現の楽しさ、生涯学習社会のなかでの今後のアートのあり方や「美術で教育」することを理解する。中学校美術科の教科書分析をはじめ、授業でも活用できるモダンテクニック等の技法を造形演習として行う。また現代の多様な表現を知り、ICT活用など今後の美術科教育のあり方を学ぶ。</p>	

<p>中等保健体育科教育法A</p>	<p>(概要) 中等教育段階における保健体育(保健)の授業と、教科外体育の目標・内容・方法・評価について理解する。中等教育段階における保健体育科の保健分野に焦点をあて、基本的な授業の考え方と授業づくり(授業内容の構成、指導過程の原則など)について学習する。また、教科外における保健および体育活動にも触れ、これらの活動をどのように展開するのかを学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(8 1 黒川修行・5 5 沼倉学/1回) (共同) オリエンテーション(ガイダンス)</p> <p>(8 1 黒川修行/8回) 保健の授業をめぐる諸問題と保健の教育内容の構造(保健教育と保健指導) / 授業が成立すること-保健の授業に照らして(教育実習を振り返り) / 保健の教材研究のあり方(1) 教具について(情報機器の活用) / 保健の教材研究のあり方(2) 発問について / 保健の授業実践事例の分析-ビデオと実践記録から-(情報機器の活用) / 模擬授業①(保健)の実施とその振り返り / 模擬授業②(保健) 授業分析と授業内容の検討(情報機器の活用) / 保健科教育の評価(保健領域のまとめ)</p> <p>(5 5 沼倉学/6回) 教育課程における教科体育と教科外体育の位置づけ / 生徒会活動と体育・スポーツ(委員会の指導) / 運動会指導と保健体育教師の役割 / 学級活動と体育・スポーツ / 教科外体育・保健の実践論(2)-子どもの生活と保健体育- / 生涯スポーツと教科外体育(教科外体育領域のまとめ)</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>
<p>中等保健体育科教育法B</p>	<p>(概要) 授業を行うために必要となる基本的な用語や現場の先生が抱える問題や課題点を理解し、体育についての理解を深める。学習指導要領及び体育科教育学における研究成果を用いて、授業プランを作成し、情報機器を用いて発表する。また、授業プランの改善点について話し合い、より良い授業プランを探求する方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(5 8 佐藤亮平・5 5 沼倉学/2回) (共同) オリエンテーション(ガイダンス) / まとめ</p> <p>(5 5 沼倉学/4回) 体育授業の成り立ち(1) -体育が目指すもの- / 体育授業の成り立ち(2) -体育科教育学における授業の見え方- / 『学習指導要領』に記載されている運動種目について理解する / 『学習指導要領』にみられる運動種目の系統的発展について理解する</p> <p>(5 8 佐藤亮平/9回) 運動種目の発展と人の発達(1) -運動文化の発展史に触れる- / 運動種目の発展と人の発達(2) -歴史と認識形成- / 運動種目の発展と人の発達(3) -教材研究が示すもの- / 体育で使う用語の概念-運動種目と関わる概念に着目して- / 体育で使う用語の概念-授業プラン作成に関わる概念- / 授業プランの作成-学習指導要領にある種目の指導計画の作成- / 授業プランの作成-単元計画に関するカンファレンス- / 授業プランの作成-具体的な指導過程の作成- / 授業プランの作成-指導過程に関するカンファレンス-</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>
<p>中等技術科教育法A</p>	<p>中学校の技術科教育に関する各内容等の学習指導について具体的な教材・授業を通して学ぶことができる授業である。技術科教育の歴史、教育現場の状況等を通して、中学校技術・家庭科における技術科教育の指導理念や教育内容、それらに基づく具体的な指導方法をアクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)の視点で深い理解に導く。また、地域(宮城県の学校現場)の現状や課題についても取り扱う。</p>	

中等技術科教育法B	<p>中学校の技術科教育に関する各内容等の学習指導について具体的な教材・模擬授業を通して学ぶことができる授業である。中学校での技術科教育の授業に焦点を絞り、教育内容、教育方法、教材教具、教科書、授業分析法、施設設備の管理運営(安全教育を含む)指導案の書き方等について、主体的・対話的で深い学び、いわゆるアクティブ・ラーニングの視点で深い理解に導く。また、指導技法や授業練習や教育現場の実態と諸問題、地域(宮城県の学校現場)の現状や課題についても取り扱う。</p>	
中等家庭科教育法A	<p>中学校・高等学校家庭科の学習意義や目標・内容の概要を理解し、学習指導計画や指導案の作成・評価といった家庭科授業を行うための基礎的・基本的な力を身に付けることを目標とする。家庭科の意義・目標・内容、学習指導計画及び指導案の作成方法、授業づくりの工夫、家庭科における評価等、家庭科授業を行う上で必要な内容について講義する。また、学習指導計画及び指導案の作成といった演習活動を通して、実践的な力を身につける。</p>	
中等家庭科教育法B	<p>学習指導要領における技術・家庭科の特質、目標及び内容を理解して学習指導の計画を立てる能力を身につける。模擬授業の構想・実践を通して、目標の設定、教材の選定、授業を具体的に進めるための指示や発問について検討する。受講者が模擬授業を構想するなかで家庭科の授業の特徴を把握できるようにする。授業の目標をどう立てるか、教材をどうつくるか、授業を具体的に進めるために指示や発問をどうするか等を実践的に明らかにする。</p>	
中等英語科教育法A	<p>中学校及び高等学校における英語科教育の基礎を身につけることを目標とする。学習指導要領、教科用図書、音声指導、語彙・表現指導、文法指導、文字指導、英語でのやり取り、生徒の特性や習熟度に応じた指導、評価等に関する内容を扱う。</p>	
中等英語科教育法B	<p>中学校及び高等学校における英語科の指導技術の基礎を身につけることを目標とする。学習指導要領、教科用図書、音声指導、語彙・表現指導、文法指導、文字指導、英語でのやり取り、生徒の特性や習熟度に応じた指導、評価等に関する内容を扱う。</p>	
保育内容(健康)	<p>(概要) 領域「健康」の全体像を把握した上で、幼児期の生活や教育を対象とした保健衛生、健康教育、身体活動や運動遊びを計画・実践・評価するための知見や実践力を身に付ける。領域「健康」の意義や、子どもの心身の発育・発達概要、子どもの遊びと生活、身近な問題点などを、具体的資料や事例、実技等を通して学習する。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(58佐藤亮平/1回) 健康の定義、意義について</p> <p>(104安藤正樹/13回) 子どもの心身の発育・発達/子どもの心身や運動をめぐる問題Ⅰ(生活習慣)/子どもの心身や運動をめぐる問題Ⅱ(運動能力)/保育内容(健康)の指導原理と評価/保育教材の実際と研究Ⅰ(伝承遊び)/保育教材の実際と研究Ⅱ(折り紙遊び)/保育教材の実際と研究Ⅲ(お手玉遊びの基礎技術)/保育教材の実際と研究Ⅳ(お手玉遊びの応用技術)/保育教材の実際と研究Ⅴ(こま回しの基礎技術)/保育教材の実際と研究Ⅵ(こま回し遊びの応用技術)/保育の実際とまとめⅠ(こま回し大会)/保育の実際とまとめⅡ(お手玉大会)/保育の実際とまとめ(総合)</p> <p>(81黒川修行/1回) 幼児の保健衛生</p>	オムニバス方式

<p>保育内容（人間関係）</p>	<p>（概要） 本授業では、領域「人間関係」を理解する上での基盤となる社会性・道徳性の発達に関する心理学等の基礎的事項について、保育現場における実践事例等にふれつつ考える。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（84 越中康治／12回） 領域「人間関係」に関する基礎的事項／社会性の発達に関する心理学の理論／道徳性の発達に関する心理学の理論／幼児期における仲間関係の発達の变化／幼児期におけるいざこざ・対人葛藤／幼児期における関係性攻撃の実際／幼児期における異文化適応／小学校への接続期における人とのかかわり／幼保小の交流活動における幼児と児童のかかわり／特別な配慮を必要とする子どもたちの人とのかかわり／保護者とのかかわり／保育者に求められる役割</p> <p>（41 飯島典子／3回） 乳児期における人とのかかわり／幼児期前期における人とのかかわり／幼児期後期における人とのかかわり</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>保育内容（環境）</p>	<p>（概要） 幼稚園教育要領の領域「環境」について、幼児期の環境とのかかわりの実際とそれに伴う発達の諸側面の特質をふまえ、保育における環境との豊かなかかわりを育むための内容について理解する。様々な自然体験活動と共にグループで体験の分かち合いや保育内容・実践指導のためのディスカッションや教材開発を進める「アクティブ・ディープラーニング」の授業を展開していく。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（18 佐藤哲也／11回） オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等）／領域「環境」で育てたい幼児の資質・能力／自然環境についての理解／「科学する心」を育てる保育／身近な環境と危険な生き物／自然素材を活かした保育実践の開発（1）／自然素材を活かした保育実践の開発（2）／量・図形・文字・標識等の情報環境を取り込んだ実践／地域社会の物的・人的・文化的環境を活かした保育／国旗・国家・我が国の伝統と幼児教育／持続可能社会を実現するための幼児教育</p> <p>（64 齊藤千映美・18 佐藤哲也／2回）（共同） 動物と関わる活動（1）-フィールドワークのこころえ-／動物と関わる活動（2）-動物とのふれあい-</p> <p>（35 溝田浩二・18 佐藤哲也／2回）（共同） 動物と関わる活動（3）-キャンパスに生息する昆虫-／植物と関わる活動（1）-草花の探索-</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>
<p>保育内容（言葉）</p>	<p>『幼稚園教育要領』の領域「言葉」のねらいと内容について理解するとともに、言葉を育む環境設定や児童文化財／児童文化活動の特徴と活用に関する知識を習得する。人間にとっての言葉の意義と機能、および子どもの言語発達に関する知見をふまえたうえで、『幼稚園教育要領』の領域「言葉」をめぐって、その歴史・位置づけ・ねらい・内容について講義する。また、言葉を育む物的・人的環境設定や児童文化財／児童文化活動の特徴と活用など、「言葉」の指導に必要な事項について、具体的な事例も視野に入れながら検討する。</p>	

<p>保育内容（表現）</p>	<p>（概要） 保育現場における表現活動についての基礎的知識・技能を身につけ、子どもの発達に即した表現を援助する力を高める。様々な子どもの歌や音楽表現の方法を身につけ、指導できるようにする。また、造形表現の基礎を学ぶ中で、幼児が積極的に楽しんで制作することができるような表現方法と教材、プログラムを検討し、「表現」の重要性と子どもの活動をより良く援助する保育内容について考える。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（非常勤講師／6回） イントロダクション ― 音に耳をすます ― / 子どもの生活の中のわらべうた、手遊び、歌遊びについて / 世界の音楽教育（ダルクローズ、オルフ、コダーイ）について / 音を作る：手作り楽器 / 総合的表現①模擬保育指導案立案 協同してイメージ作り / 総合的表現②模擬保育実践・振り返り</p> <p>（78 香曾我部琢／1回） 幼稚園教育要領における領域「表現」のねらいと内容の理解</p> <p>（105 志賀圭子／7回） 五感を研ぎ澄ます ― 表現と感性の関係について・ワークショップ ― / 色・画材と出会う ― 様々な描画材料を知る・技法と出会う ― / コラージュと出会う ― 様々なコラージュの楽しみ方と出会う ― / 劇的活動2 ― 身の回りにある材料を活かして演じる ― / 手で見える形 ― 様々な粘土と出会う ― / 造形あそび・空間あそび ― 空間を使った造形あそびを体験する ― / 子どもの絵はおもしろい ― 発達段階をふまえた子どもの絵の理解―</p> <p>（37 村上タカシ／1回） 劇的活動1 ― 身の回りにある材料を活かして作る ―</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>初等国語科内容概論</p>	<p>小学校学習指導要領に示されている国語科教育の「目標」「各学年の目標及び内容」「指導計画の作成と内容の取扱い」を学ぶ。とりわけ「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語」「書写」「読書」の概要を理解する。あわせて自らの言語活動を通して、指導法の基礎を身に付ける。</p>	
<p>初等社会科内容概論</p>	<p>（概要） 小学校社会科に関する基本的な考え方や目標・内容について、地理的分野・歴史的分野・公民的分野のそれぞれの観点から解説を行い、小学校社会科の見方・考え方について理解を深めるとともに、社会科に関する教材や資料等を取り扱う上での基礎的な技能についても講義していく。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（8 西城潔／5回） ガイダンス、小学校社会科の地理的分野における要点①―地理的分野の概要― / 小学校社会科の地理的分野における要点②―知識（基礎）― / 小学校社会科の地理的分野における要点③―知識（応用）― / 小学校社会科の地理的分野における要点④―技能（基礎）― / 小学校社会科の地理的分野における要点⑤―技能（応用）―</p> <p>（75 堀田幸義／5回） 小学校社会科の歴史的分野における要点①―歴史的分野の概要― / 小学校社会科の歴史的分野における要点②―知識（基礎）― / 小学校社会科の歴史的分野における要点③―知識（応用）― / 小学校社会科の歴史的分野における要点④―技能（基礎）― / 小学校社会科の歴史的分野における要点⑤―技能（応用）―</p> <p>（32 川崎惣一／5回） 小学校社会科の公民的分野における要点①―公民的分野の概要― / 小学校社会科の公民的分野における要点②―知識（基礎）― / 小学校社会科の公民的分野における要点③―知識（応用）― / 小学校社会科の公民的分野における要点④―技能（基礎）― / 小学校社会科の公民的分野における要点⑤―技能（応用）―、総括</p>	<p>オムニバス方式</p>

初等算数科内容概論	<p>小学校算数科の背景となる数学の基礎を身につけることを目標とする。学習指導要領の主旨にのっとり、小学校算数科の背景となる数学各分野の基本的な理解及び教材研究を行う上で、その基礎となる素養を身につけるための講義を行う。</p>	
初等理科内容概論	<p>(概要) 小学校理科の基本的な内容に関して、学習指導要領や教科書で扱われている内容構成の基礎を学び、授業実践の能力を身につける。「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」を柱とした小学校理科の学習内容を理解するとともに、学術的な専門知識を背景に教材として科学的に調べ、実践的に構成する能力や、自然の事物や現象について理解を深める見方や考え方を獲得する。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(20 福田善之・7 2 内山哲治・4 9 西山正吾・1 3 猿渡英之・2 6 笠井香代子・7 1 出口竜作・4 2 棟方有宗・4 3 小林恭士・1 4 高田淑子・2 4 菅原敏／1回) (共同) オリエンテーション</p> <p>(7 2 内山哲治／1回) 「エネルギー」領域に関する教科内容と構成① 電気の性質</p> <p>(20 福田善之／2回) 「エネルギー」領域に関する教科内容と構成② エネルギー／「エネルギー」領域に関する教科内容と構成④ 力と運動</p> <p>(4 9 西山正吾／1回) 「エネルギー」領域に関する教科内容と構成③ 熱・音・光</p> <p>(1 3 猿渡英之／1回) 「粒子」領域に関する教科内容と構成① 元素・水溶液・イオン</p> <p>(2 6 笠井香代子／2回) 「粒子」領域に関する教科内容と構成② 原子・分子／「粒子」領域に関する教科内容と構成③ 気体・液体・固体・結晶</p> <p>(7 1 出口竜作／1回) 「生命」領域に関する教科内容と構成① 生命の連続性</p> <p>(4 2 棟方有宗／2回) 「生命」領域に関する教科内容と構成② 動物の体のつくり／「生命」領域に関する教科内容と構成④ 動物と植物のかかわり</p> <p>(4 3 小林恭士／1回) 「生命」領域に関する教科内容と構成③ 植物の体のつくり</p> <p>(2 4 菅原敏／2回) 「地球」領域に関する教科内容と構成① 気象・大気／「地球」領域に関する教科内容と構成③ 流れる水のはたらき</p> <p>(1 4 高田淑子／1回) 「地球」領域に関する教科内容と構成② 太陽・月・星</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
初等生活科内容概論	<p>生活科の理念や原理を学び、その目標や内容、方法を理解し、生活科を担当する上で求められる知識や技術を習得する。生活科の教育理念や原理、学習指導要領の目標・内容・方法等の構成を理解し、生活科の授業を担当する上で求められる知識や技術を学ぶ。</p>	
初等音楽科内容概論	<p>小学校音楽科で授業を実践する上で必要な音楽の基礎的な知識・理論と、ピアノ弾き歌いの演奏技能を身につける。小学校音楽科で授業を実践するために必要な音楽の基礎的な知識・理論について理解し、取り組む楽曲以外にも応用して児童に指導できるようにする。またピアノ弾き歌いの基本的な技能を身につけ、様々な教材の指導を実践できるようにする。</p>	

<p>初等図画工作科内容概論</p>	<p>(到達目標) 1. 児童の発達段階に応じた学習目標が提示されていることを踏まえ、表現と鑑賞の両面から段階に応じた技能の蓄積、表現する喜びの享受と創造性の深化に理解を深めることが主眼となる。 2. 図工教育の根幹を成す表現活動から、児童の知識の蓄積、身体技能の向上に合わせた素材・道具・構想・目的を、基礎演習を通じて目的に応じた工夫が行えること。</p> <p>(概要) 図画工作における表現活動を通して、作り出す喜びを体験するとともに造形的な基礎能力を学ぶ。また、作品から豊かな情操教育について考察し学習する。</p>	
<p>初等家庭科内容概論</p>	<p>(概要) 小学校家庭科の専門的内容を理解し、授業づくりに反映するための基礎を習得する。食物領域では栄養や食品成分の役割について、被服領域では被服に求められる機能について、住居領域では住居の成り立ちや役割について扱う。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(16 西川重和/5回) ガイダンス (小学校家庭科の内容全般について解説) /被服1 (繊維素材) /被服2 (糸と布) /被服3 (衣服の機能性) /被服4 (被服の洗浄)</p> <p>(7 亀井文/5回) 食物1 (食物の機能と消化吸収) /食物2 (炭水化物、たんぱく質、脂質について) /食物3 (実験①デンプン粒 (炭水化物) の採取と観察) /食物4 (実験②温泉卵 (タンパク質の性質) について) /食物5 (微量栄養素について)</p> <p>(29 菅原正則/5回) 住居1 (住環境教育) /住居2 (人体から宇宙までのつながり) /住居3 (建築材料とヒートアイランド) /住居4 (環境に配慮した住まい方) /住居5 (安全・快適・省エネルギーの住みこなし)</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>初等体育科内容概論</p>	<p>(概要) 各運動領域の基礎的な運動技術の習得、およびそれらの指導法の基礎を身につけることを到達目標とする。小学校の体育の運動内容領域の基礎的な技術、ルール、知識について学習するとともに、練習の仕方や指導法についても学習する。また、ICTの活用について深める。</p> <p>(オムニバス方式/30回)</p> <p>(55 沼倉学/8回) オリエンテーション/陸上運動① (走の運動<短距離走>) /陸上運動② (走の運動<リレー>) /陸上運動③ (跳の運動<走り幅跳び>) /陸上運動の指導法① (記録と分析) /陸上運動の指導法② (ICTの活用) /水泳運動① (浮く・潜る運動と初歩的な泳ぎ) /水泳運動の指導法① (安全確保についての指導)</p> <p>(22 佐藤節子/9回) 体づくり運動① (体ほぐしの運動) /体づくり運動② (多様な動きをつくる運動) /体づくり運動③ (体力を高める運動) /体づくり運動の指導法① (低学年の運動遊びの指導) /体づくり運動の指導法② (中・高学年の指導) /表現運動① (表現) /表現運動② (リズムダンス) /表現運動③ (フォークダンス) /表現運動の指導法① (恥ずかしさを取り除く指導)</p> <p>(11 木下英俊/5回) 器械運動① (マット運動) /器械運動② (跳び箱運動) /器械運動③ (鉄棒運動) /器械運動の指導法④ (運動が苦手な児童への指導) /器械運動の指導法⑤ (グループでの学習)</p> <p>(6 池田晃一/4回) ボール運動① (ゴール型ゲーム) /ボール運動の指導法① (基礎的技能の指導) /ボール運動② (ネット型) /ボール運動の指導法② (ルール・用具の工夫)</p> <p>(58 佐藤亮平/2回) ボール運動③ (ベースボール型) /ボール運動の指導法③ (安全に配</p>	<p>オムニバス方式</p>

	<p>慮した指導) /</p> <p>(8 1 黒川修行/2回)</p> <p>保健の指導法① (課題解決型の学習) / 保健の指導法② (ICTの活用)</p>	
初等外国語活動・外国語内容概論	<p>(概要)</p> <p>小・中学校の接続も踏まえながら、小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的な知識を身に付ける。初等外国語活動・外国語において扱う内容について、第二言語習得、英語学、児童文学、英語コミュニケーション、異文化理解の視点から考えたり、検討したりする。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(2 5 竹森徹士・4 5 リース エイドリアン・5 7 和田あずさ/1回)</p> <p>(共同)</p> <p>初等外国語活動・外国語の指導内容はどのような構成になっているのか?</p> <p>(5 7 和田あずさ/4回)</p> <p>英語学の視点から一音声の仕組み (英語の発音、リズム、イントネーション、等) / 英語学の視点から一英文法の仕組み (文構造・文法) / 英語学の視点から一語彙習得・正書法の仕組み / 第二言語習得理論の視点から</p> <p>(2 5 竹森徹士/5回)</p> <p>児童文学の視点から一英語の歌 / 児童文学の視点から一英語のチャンツ / 児童文学の視点から一イギリスの絵本 / 児童文学の視点から一アメリカの絵本 / 児童文学の視点から一詩</p> <p>(4 5 リース エイドリアン/5回)</p> <p>英語コミュニケーションの視点から一聞くこと / 英語コミュニケーションの視点から一話すこと (やり取り・発表) / 英語コミュニケーションの視点から一読むこと / 英語コミュニケーションの視点から一書くこと / 異文化理解の視点から一異文化理解</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
国語科内容概論 (国語学)	<p>日本語の全体像について平易に概説する。音声・音韻、文字・表記、語彙、文法、文章・文体など、網羅的に見ていくことで、日本語への理解を深める。また、他言語との対照とそこから見出せる日本語の特徴や、歴史的なことばの変化、現代日本語のバリエーション (共通語と方言、位相語など) といった日本語の種々相を取り上げる。</p>	
国語科内容講義 (国語学A)	<p>国語学概論で学んだ基礎的知見と関連づけながら、韻音・アクセント、文法、日本語史など特定領域について理解を深め、自力でレポートの作成ができるようになることを目標とする。古代から現代に至る国語の変遷について、文献国語史的方法と言語地理学的方法の両面から相補的にアプローチする。講義を主とするが、文献資料の読解や語史を調べてまとめるなど演習の要素もまじえ、全国的な視野から日本語の歴史を理論的に考察する力を身につける。</p>	
国語科内容講義 (国語学B)	<p>日本語の変遷について理解を深め、ことばの変化について文献資料や言語分布の両面から再構成し、自分のことばでまとめられるようになることを目標とする。上代 (奈良時代以前) から現代に至る日本語の変遷について、文献国語史的方法と言語地理学的方法の両面から相補的にアプローチする。講義を主とするが、文献資料の読解や語史を調べてまとめるなど演習の要素もまじえて行なう。語源や意味・用法の変遷について疑問をもった際に、自力で解決する手立てを学んでいく。</p>	
国語科内容演習 (国語学A)	<p>現代日本語にかかわる事象を取り上げ、言語的な調査・考察を加え、その内容を報告する。受講者各人が研究報告をおこない、その内容に沿って全員で討議をおこなう。語学的な見方・考え方はもとより、調査・分析の方法、また問題設定、解決能力を身に付ける。</p> <p>取り上げる事象は、共時的な現代日本語を基本とし、共通語、方言、書きことば、話しことば等を扱う。</p>	

国語科内容演習（国語学B）	近代作家の文章について、文体的な観点から演習発表をおこなう。古典・近代文学作品の文章を語句や表現にこだわりながら読む。ことばの意味や用法、表記法、表現法などの分析を通して文体的な特徴を明らかにする。	
国語科内容概論（国文学A）	国文学の概念と時代区分を確認し、各時代の文学と社会とのかかわりを押さえたうえで、近代・現代日本の文学の流れをたどり、主要作品を読み解く。その過程で、国文学とは何か、何だったのかを考えるとともに、国文学の研究方法を検討する。授業のねらいは次の3点である。①国文学の概念と歴史、対象と研究方法についての基礎的な知識を得ること。②近代・現代の主要な作家と作品についての理解を深めること。③作品の特徴を捉える力、および作品を鑑賞する力を身につけること。	
国語科内容概論（国文学B）	国文学の基礎についての知識をふまえたうえで、特に上代から近世の作品を取り上げて国文学とは何か、何だったのかを考える。国文学の概念と歴史、対象と研究方法についての基礎的な知識を得ることを目標とする。国文学の概念と時代区分を確認し、各時代の文学と社会とのかかわりを押さえたうえで、上代から近世の日本の文学の流れをたどり、主要作品を読み解く。その過程で、国文学の研究方法を検討する。	
国語科内容講義（国文学A）	国文学（近代・現代）をめぐる諸問題を、作品やその研究を読み解きながら検討する。国文学研究の基盤となる専門知識を得ることを目標とする。日本の近代・現代文学（児童文学を含む）をめぐる、テキストの問題、作者と作品の問題、ジャンルの特性の問題をはじめ、研究の基盤となる諸問題を検討する。その際、外国文学とその研究からの影響や他の学問領域とのかかわり等にも目配りをする。	
国語科内容講義（国文学B）	国文学（古典文学）をめぐる諸問題を、作品やその研究を読み解きながら検討する。国文学研究の基盤となる専門知識を得ることを目標とする。日本の古典文学をめぐる、テキストの問題、注釈・解釈とその歴史の問題、ジャンルの特性の問題をはじめ、研究の基盤となる諸問題を検討する。その際、近代文学研究との違いや、他の学問領域とのかかわり等にも目配りをする。	
国語科内容基礎演習（国文学A）	明治・大正期の文学（児童文学を含む）を分析し、その特質を探るとともに、文学研究のテーマ設定の仕方と研究方法、口頭発表の仕方、論文の書き方等について実践的に学ぶ。日本近代文学およびその研究方法への理解を深め、自ら研究する力とそれを教科「国語」の指導に生かす力を身につけることを目標とする。明治・大正期の文学（児童文学を含む）の中から主要な作品を取り上げ、その作品に適した方法を選んで読み解いていく。授業は、作品ごとに担当者を決めて研究成果を発表してもらい、それをめぐって受講者全員で討議する形で進める。	
国語科内容基礎演習（国文学B）	昭和期以降の文学（児童文学を含む）を分析し、その特質を探るとともに、文学研究のテーマ設定の仕方と研究方法、口頭発表の仕方、論文の書き方等について実践的に学ぶ。日本近代文学およびその研究方法への理解を深め、自ら研究する力とそれを教科「国語」の指導に生かす力を身につけることを目標とする。昭和期以降の文学（児童文学を含む）の中から主要な作品を取り上げ、その作品に適した方法を選んで読み解いていく。授業は、作品ごとに担当者を決めて研究成果を発表してもらい、それをめぐって受講者全員で討議する形で進める。	
国語科内容基礎演習（国文学C）	日本の古典文学を読み解くための基礎知識と技術を実践的に学ぶ。古典文学を読み味わう力とそれを教科「国語」の指導に生かす力を身につけることを目標とする。くずし字・変体仮名の解読や辞書・索引・注釈書等の使用法について学んだ上で、日本古典文学の著名な作品を読み解き、古語や古文、古典文学に関する知識と理解を深める。授業は、実践形式で進めていく。	

国語科内容基礎演習（国文学D）	<p>古典文学を研究するための基礎的な力を実践的に養う。古典文学の本文・校異や古注釈に関する理解を深め、辞書・索引・先行研究等を適切に活用し、先行する作品や時代背景にも目配りして、古典文学を研究する力とそれを教科「国語」の指導に生かす力を身につけることを目標とする。「源氏物語」を取り上げ、作品の具体的な検討を通して、古典文学研究にかかわる問題を幅広く考えてゆく。授業は、受講者各人が研究成果を発表し、それをめぐって討議する形式で進める。</p>	
国語科内容概論（漢文学）	<p>漢詩を読むための基礎知識を身につけ、漢詩をじっくり味わうために必要な読解の方法と態度を獲得する。また、中高の教科書に頻出する代表的な漢詩・漢文を読み、味わう訓練を通じて、基礎的読解力を身につける。</p> <p>漢文・漢詩を読み味わうためにはどのような知識や方法が必要か。その基礎的な力を養うために、具体的な作品に即してわかりやすく解説し、鑑賞や分析の方法を学ぶ。</p>	
国語科内容講義（漢文学）	<p>漢詩鑑賞の基本的な姿勢や方法を身につけ、杜甫の詩を読んでその人間観・自然観・政治観を学ぶ。また、毎回の小テストを通じて漢文読解の基礎的能力を身につける。</p> <p>「杜甫詩鑑賞（その1）」 盛唐の詩人杜甫の詩と生涯について、代表的な詩をじっくり読み味わいながら考えていく。詩の読解と鑑賞を通じて、杜甫の人間観や自然観、社会観や政治観を探り、現代に生きる私たちへのメッセージを読み取る。あわせて漢詩・漢文読解の基礎的方法を学ぶ。</p>	
国語科内容基礎演習（漢文学A）	<p>漢文読解の基礎的な方法を学び読解能力を養うとともに、文学作品を読み味わう方法を身につける。中国古代の文学の基礎的な文献を読み、漢文資料を読む方法を学ぶ。テキストを一字一句、詳しく調べ深く理解していくために必要な、辞書や索引などの工具類の使用法や、典拠の調べ方などを、その初歩から徹底して指導する。あわせて文学研究の基本的な方法や態度について身につけられるようにする。</p>	
国語科内容基礎演習（漢文学B）	<p>漢文読解の基礎的な方法を学び読解能力を養うとともに、文学作品を読み味わう方法を身につける。中学・高校の教科書でも扱われる春秋戦国期から唐・宋代までの文学作品について考察する。テキストの一字一句について詳しく調べ、深く理解していくために必要な辞書や索引などの使用法や、典拠の調べ方などを徹底して指導する。あわせて文学研究の基本的な方法や態度について身につけられるようにする。</p>	
国語科内容実技（書道）	<p>漢字の楷書や行書、仮名の基本を理解するとともに、漢字と仮名の調和した書き方を理解し、伝統文化である書を日常生活に生かして、豊かな言語生活の担い手としての素地を養う。小中学校で書写の指導を行うにあたり、改めて漢字の楷書や行書、仮名の基礎・基本を理論と実践の両面から整理し、書の日常化を図り、書の実践を通して豊かな言語生活を営む工夫を学ぶ。</p>	

<p>中等国語科内容基礎論</p>	<p>国語科教科書の教材に関する理解を深めるため、教材を読むための手続きを学ぶ。また、古文や近代小説、評論などを読むための基礎的な知識や手続きを身につける。具体的な教材、作品に触れながら、教材研究の方法や、辞書・索引等の使用法、文献の検索の仕方などを知る。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(1 遠藤仁/7回) 国語科における教材分析の基礎/教材の分析 —評論の基礎—/教材の分析 —評論の読み方—/教材の分析 —小説の基礎—/教材の分析 —小説の読み方—/教材の分析 —詩の読み方—/教材分析のまとめと試験</p> <p>(5 2 津田智史/8回) 古文を読むための基礎/古文の講読 —中世の文学—/古文の講読 —近世の文学—/古文の読解のまとめ/近代小説・評論を読むための基礎/近代小説・評論の講読 —明治の文学—/近代小説・評論の講読 —大正の文学—/近代小説・評論の読解のまとめ</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>国語科内容基礎演習 (国語科教育A)</p>	<p>教材や授業実践・理論を理解し、自分なりの課題を設け、それを解決するための研究方法・技能を身につけることを目標とする。中学、高校における主たる教材、授業実践・理論を取り上げ、教材研究や授業作りの内実を検討する。</p>	
<p>国語科内容基礎演習 (国語科教育B)</p>	<p>(概要) 国語科における教科内容学および、教科の指導法を関連的・総合的に学ぶことを通して、国語科の学習指導に関する知見を深める。日本語学、日本文学、国語科教育それぞれの領域から、具体的な教材例や指導例などをもとに国語科の教材開発や学習指導のあり方を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(1 2 児玉忠/4回) オリエンテーション・国語科教育基礎論 (目標論) /国語科教育基礎論 (学力評価論) /国語科教育基礎論 (教育課程論) /講義のまとめ</p> <p>(1 遠藤仁/2回) 日本語学と国語科教育 (音声・音韻) /日本語学と国語科教育 (文字・表記)</p> <p>(5 2 津田智史/2回) 日本語学と国語科教育 (語彙・文法) /日本語学と国語科教育 (談話・文章・方言)</p> <p>(1 5 中地文/4回) 日本文学と国語科教育 (古典文学) ①/日本文学と国語科教育 (古典文学) ②/日本文学と国語科教育 (近現代文学) ①/日本文学と国語科教育 (近現代文学) ②</p> <p>(4 7 佐野幹/3回) 国語科教育の歴史研究/国語科教育の比較研究/国語教育思想の研究</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>社会科教科内容概論 (日本史)</p>	<p>小中高の歴史学習の場で使用される教科書の内容は国家の歴史を中心に記述されているが、歴史を多面的・多角的に見る眼を養い、今後の歴史教育を担っていくためには、国家の歴史のみならず地域の歴史についても熟知する必要がある。そこで、本講義では、古代～現代にわたる日本の通史を確認しつつ、ある地域 (現宮城県域・仙台市域) において展開した歴史の諸側面についても講義していく。</p>	

社会系教科内容講義（日本史A）	小中高の歴史学習の場で使用される教科書の内容は国家の歴史を中心に記述されているが、歴史を多面的・多角的に見る眼を養い、今後の歴史教育を担っていくためには、国家の歴史のみならず地域の歴史についても熟知する必要がある。そこで、本講義では、日本の近世・近代史に関する基礎的な事項を確認した上で、ある地域（東北地方）において展開した歴史についても取り上げ講義していく。なお、報告とディスカッションも行う予定である。	
社会系教科内容講義（日本史B）	授業のテーマは、「日本中世の社会と政治」である。到達目標は、①日本中世に関する基礎的な知識を獲得し、適切にアウトプットすることができること、②当時の社会状況や学会の議論を踏まえながら、複眼的にこの時代を捉えることができること、③日本中世について、受講者それぞれが抱いた時代像を説明することができること、の3点を設定する。 中世は武士が政治の主役を担った時代であると同時に、「地方の時代」とも評価される時代である。この講義では、日本中世の基本概念に触れながら、中央の政治動向を特に地方社会との関係性の中で捉え、なぜ武士が政治の主役を担うに至ったのか、なぜ中世は地方の時代と評価されるのか、その答えを探していく。	
社会系教科内容基礎演習（日本史A）	小中高の歴史学習の場で使用される教科書の内容を正確に理解するためには、教科書記述の背景にある学術的な専門知識を身につけることが肝要である。また、児童生徒に史資料を活用した読み取り作業を行わせるためには、教員の側が史資料に関する基礎的な知識と技能を持つ必要がある。そこで、本演習では、教科書記述の背景にある諸学説や先行研究の整理方法、学術論文の教育への活用法、そして、史資料の取り扱いなどに関する基礎的な知識と技能について学び、報告と討論を通して教科書記述と日本史学に関する基礎的な知識を身につける。	
社会系教科内容基礎演習（日本史B）	小中高の歴史学習の場で使用される教科書の内容を正確に理解するためには、教科書記述の背景にある学術的な専門知識を身につけることが肝要である。また、児童生徒に史資料をもとに意見交換や討論を行わせるためには、教員の側が史資料に関する専門的な知識と技能を身につけている必要がある。そこで、本演習では、教科書記述の背景にある諸学説や先行研究の整理方法、学術論文の教育への活用法、そして、史資料の取り扱いなどに関するより高度な知識と技能を習得し、報告と討論を通して歴史を多角的・多面的に見る眼を養うことを目指す。	
社会科教科内容概論（外国史）	欧米世界を中心に近現代の世界史概説を主たるテーマとし、それぞれの時期における主要な事項の歴史的意義を理解するとともに、中学校社会科の歴史的分野や高等学校地理歴史科の授業づくりに応用することができることを目標とする。グローバル化が本格化し、諸地域相互の関係性が強まる16世紀から21世紀の世界について、それぞれの時期の特徴を理解する上で重要と思われる事項を取り上げ、近年の研究動向に基づきつつ、その性格や歴史的意義を解説する。	
社会系教科内容講義（外国史A）	19世紀近代との連続性の観点で捉えられがちであった17～18世紀ヨーロッパ国家・社会について、近年の研究動向に基づきつつ、その固有の特徴を解説する。フランス、イギリスといった西欧のみならず、スウェーデン、ポーランド、ロシア、プロイセン、ハプスブルク君主国など北欧・東欧諸国も広く対象とすることにより、近世ヨーロッパ国家の共通性ととともに、歴史的背景・条件に基づく地域的独自性の抽出を図る。さらに従来の見解や高校教科書の記述などとの比較を通じ、歴史的過去に関する理解・認識が固定的ではなく、常に更新される可能性を持つ構図を示す。	
社会系教科内容講義（外国史B）	7～17世紀の中国に成立した各王朝の特質と、各時代における対外政策と日中関係の推移を主たるテーマとし、それらに対する理解を中学校社会科の歴史的分野・高等学校地理歴史科の授業づくりに応用する力を涵養する。各王朝がどのような発展・拡大の途をたどり、それが周辺地域といかなる関係を構築してきたのかを講義するとともに、過去の重要な学説や近年の研究動向にも論及し、教科書の叙述の背景にある我が国における中国史認識の変遷についても解説していく。	

<p>社会系教科内容基礎演習 (外国史A)</p>	<p>西洋史を中心に、歴史研究における専門的な思考法や分析手段の基礎を理解するとともに、中学校社会科の歴史的分野や高等学校地理歴史科の授業づくりに応用することができることを目標とする。歴史教育や歴史教科書の背景的知識として、歴史研究における専門的な思考法や分析手段の基礎を学ぶために、歴史研究に関する入門書を講読し、相互間での討論をもとに理解を深めつつ、受講者当人もまた、それらの内容に関連する文献を独自に調査する。</p>	
<p>社会系教科内容基礎演習 (外国史B)</p>	<p>西洋史を中心に、歴史研究における専門的な思考法や分析手段の理解に基づき、自身で文献や史料を実践的に読解・分析するとともに、中学校社会科の歴史的分野や高等学校地理歴史科の授業づくりに応用することができることを目標とする。歴史教育や歴史教科書の背景的知識として、歴史研究における専門的な思考法や分析手段の理解を深めるために、近年の研究動向に関する解説書を講読するとともに、受講者当人が自身の課題を独自に調査するうえで必要な、具体的な学術文献及び史料の読解を実体験する。</p>	
<p>社会科教科内容概論 (人文地理学)</p>	<p>人文地理学は、地球上で展開される人間の諸活動が自然環境や社会環境を反映してどのような地域の特徴を作り出すのかを明らかにする、いわば「輪切りにされた歴史」を把握する学問分野である。本講義は、人文地理学の枠組みから地理的見方や地域の変化を捉える基礎的視点を学習する前半部分と、地域の変化をもたらす産業の在り方や現代的課題を地理学的に考察する後半部分からなる。</p>	
<p>社会系教科内容講義 (人文地理学)</p>	<p>戦後の日本社会がどのような変化を辿ってきたのか、その地理的特徴について説明する。現在、日本が直面している多くの問題は歴史的なつながりで生み出されていること、および地域間関係の中で形成されてきたことを理解することがねらいとなる。</p>	
<p>社会系教科内容実習 (人文地理学)</p>	<p>(到達目標) ①：各種統計データ、資料を利用して図表を作成できるようにすること ②：フィールドワークに代表される地域調査の方法を習熟すること ③：調査対象地域のフィールドワークを通じて、調査報告書を作成すること</p> <p>(概要) 本授業は、特定地域を調査し、地域社会が直面する課題を発見し、解決への方向性を見出すために、地域調査の方法や統計分析の手法を学び、地域のダイナミズムを捉えることがねらいとなる。</p>	
<p>社会系教科内容基礎演習 (人文地理学A)</p>	<p>本授業は、人文地理学に関する基本的な考え方や分析方法について、人口、自然と歴史、産業、交通、文化といったトピックスに注目し、それらに関する基礎的な文献や学術雑誌を取り上げる。加えて、現代の地域問題に関するテーマについて、統計データや資料に基づいてプレゼンテーションを実施し、社会科地理的分野の授業の教材づくりを目指す。</p>	
<p>社会系教科内容基礎演習 (人文地理学B)</p>	<p>本授業は、人文地理学に関する基本的な考え方や分析方法について、人口、自然と歴史、産業、交通、文化といったトピックスに注目し、それらに関する基礎的な文献や学術雑誌を取り上げる。加えて、現代の地域問題に関するテーマについて、統計データや資料に基づいてプレゼンテーションを実施し、社会科地理的分野の授業の教材づくりを目指す。</p>	
<p>社会科教科内容概論 (自然地理学)</p>	<p>中学校社会科の地域学習に関する授業づくりに必要な自然地理学的視点を養うとともに、基礎的知識・概念・技法を習得することを目標とする。中学校社会科の地域学習にとって基礎となる土地の自然環境特性把握のための視点と方法について、地形を主な切り口としながら学ぶ。地形そのものだけでなく、地形を通じた環境や人間活動のとらえ方に目を向け、地域性解明のプロセスと小学校の授業への適用法を学ぶ。</p>	

社会系教科内容講義（自然地理学）	小学校社会科の地域学習における国土の特徴や自然災害に関する学習に焦点を当て、地形の特徴のとりえ方とその応用法を学ぶ。とくに土地利用と地形との関係のとりえ方、地形特性をふまえた災害理解を中心に授業を進める。	
社会系教科内容実習（自然地理学）	中学校社会科の地域学習に求められる自然地理学的技能の習得および習熟を目標とする。中学校社会科の地域学習で扱われる土地の自然環境に関する諸資料（地図、画像データ、気候データ、統計資料など）の読み取り方、資料の入手・作成・解析方法、さらにその土台となるフィールドワークも含めた自然地理学の基礎的調査手法を学ぶ。	
社会系教科内容基礎演習（自然地理学A）	中学校社会科の地域学習に求められる自然地理学の基礎的知識・概念の習得を目標とする。自然地理学の専門書講読を通じて、中学校社会科の地域学習で扱われる地形・気候・植生などの土地の自然環境に関わる基礎的知識・概念を習得する。	
社会系教科内容基礎演習（自然地理学B）	中学校社会科の地域学習に求められる自然地理学的知識・概念への習熟を目標とする。自然地理学関係の学会誌に掲載された論文の講読を通じて、中学校社会科の地域学習で扱われる地形・気候・植生などに関わる最新の知見を学び、自然地理学的知識・概念にさらに習熟する。	
社会系教科内容講義（地誌）	中学校社会科の地域学習に関する授業づくりに参考となる、地域を総合的に捉える地誌学的視点を習得することを目標とする。中学校社会科の地域学習では、地域性理解のために土地の自然と人の暮らしを総合的に捉える視点が重要である。そのような地誌学的な視点について、具体的事例の紹介を通して学ぶ。	
社会科教科内容概論（法律学）	法・法律学の基本的な考えかたを習得し、立法趣旨の種となる規範的議論を立てることができることを目標とする。本授業では、教育基本法1条の構成から出発し、法律学を体系的に理解することを目指す。特に注意を払うのは、社会の一員としての役割とそこからはみ出してしまうそれぞれの個性との緊張関係である。これらを考える素材として、学校や教育に関する事案や映像資料を用いる。	
社会科教科内容概論（政治学）	政治に関する基礎的知識を習得し、現代政治について「自分自身で考える」能力を身につけ、政治的事柄を基礎的知識に基づいて他者と議論し、説得力ある意見を提示できるようになることを目標とする。政治についての基礎的内容を習得し、「誰がどのように重要な事柄を決めているのか」を理論的に考える態度を養う。	
社会系教科内容講義（政治学）	本講義は「公共性」をテーマとし、「公的なもの」と「私的なもの」がどのような関係にあるか、その内実を検証し考察を行う。社会インフラ・公共交通機関・公教育・公衆衛生など、われわれの生活が「公共性」と深く結びついている点を確認し、「公的なもの」と「私的なもの」とのあるべき関係を問い直す。	
社会系教科内容基礎演習（政治学A）	（到達目標） ① 政治学における基本文献を精読し、政治学の基礎概念（権力、公共性、民主主義など）を習得する。 ② 政治学の基礎概念の習得を踏まえて、現代政治に関する理論的討論を行い、政治学的思考を身につける。 （概要） 政治学の基本文献の講読とディスカッションを通じて、政治学における基礎的概念と教養の習得を行う。	

<p>社会系教科内容基礎演習 (政治学B)</p>	<p>(到達目標) ① 政治思想史・政治理論における基本文献を精読し、ディスカッションを通じて、政治学的思考を身につける。 ② 政治学の基本概念の習得と政治的思考の養成を踏まえた上で、自己の考えを整理し表現する力を養う。</p> <p>(概要) 政治学の基本文献の講読とディスカッションを通じて、現代政治の諸問題を批判的に考察する能力を習得する。またテキストの批判的読解を踏まえた上で、自己の考えをまとめ表現する能力を身につける。</p>	
<p>社会科教科内容概論 (経済学)</p>	<p>(到達目標) ①資本主義の歴史的発展の概略が答えられる。 ②「市場」を構成する「商品」と「貨幣」とがどのような概念であるのか答えられる。 ③「資本」がどのような契機で生じるのかを答えられる。</p> <p>(概要) 歴史上ある時点において確立した「資本主義」と呼ばれる経済体制の来歴、そして経済学がそれをどのように捉えてきたのかを概観した上で、「市場」の基本構造を考察する。</p>	
<p>社会科教科内容概論 (社会学)</p>	<p>現代社会で起きている多様な事象について、社会学理論を通じて問題を分析する方法を学び、社会理論の基礎を習得することを目標とする。毎回、現代社会の課題についてテーマ設定を行い、当該の社会学理論の概要を講義する。</p>	
<p>社会科教科内容講義 (社会学)</p>	<p>本講義では、社会学概論で学んだ社会理論等を基盤として、現代社会における具体的な社会事象/社会問題について、調査、報告、討議を行う。参加学生は、それぞれ自身の問題関心に照らしてテーマ設定し、授業で報告を行う。なお、報告テーマは、人種や民族、障害者等の差別・排外問題、格差・貧困問題、気候変動・災害など多岐にわたる。現代社会の仕組みと課題について、自分事として考えてもらいたい。</p>	
<p>社会系教科内容基礎演習 (社会学A)</p>	<p>現代社会における具体的事象についての①問題発見、②先行研究等による事象分析、③課題解決の糸口を探るという一連のプロセスについて、思考、分析力を身につけることを目標とする。現代社会学理論の文献講読とセッション、研究報告を行う。</p>	
<p>社会系教科内容基礎演習 (社会学B)</p>	<p>現代社会における具体的事象についての①問題発見、②先行研究等による事象分析、③課題解決の糸口を探るという一連のプロセスについて、思考、分析力を身につけることを目標とする。現代社会学理論の文献講読とセッション、研究報告を行う。</p>	
<p>社会科教科内容概論 (哲学)</p>	<p>西洋哲学史において取り上げられてきた主要なテーマについて学ぶことによって、現代に生きる私たちが哲学的な問題についての考えを深めるうえで必要な知識を身につけ、自分なりの考えや意見を持つことができるようになることを目標とする。西洋哲学史において取り上げられてきた主要なテーマを取り上げ、当該のテーマについて考えるために必要な哲学史的な知識について概説する。西洋哲学史上、重要な哲学者や思想を紹介する形をとるが、単なる歴史上の人物や思想としてではなく、現代において思考を深めるために必要なツールとして習得してもらおうことを目指す。</p>	

<p>社会科教科内容概論 (倫理学)</p>	<p>倫理問題を検討する上で前提となる基本的な知識と考え方を身につけ、倫理的な問題設定を自分で行い、異なる立場の者と理論的な議論・応答ができるようになることを目標とする。</p> <p>私たちは日常生活の様々な場面で倫理問題に直面する。この授業では、そのような問題を理論的に分析し、自らの立場を説得的に表現する上で必要となる倫理的な考え方を紹介する。「善」「自由」「規範」「幸福」といった基本概念と、それに関連する西洋の倫理思想的背景を中心に解説する。</p>	
<p>社会科教科内容講義 (哲学)</p>	<p>日常生活において私たちが突き当たるさまざまな哲学・倫理学的問題に対して、論理的かつ批判的に考えることができるようになることを目標とする。</p> <p>哲学・倫理学にかかわる具体的な諸問題について、毎回テーマを設定し、ディスカッションを行いながら、テーマについての理解を深める。</p> <p>必要に応じて、それらの問題を哲学的に論じるために必要な、哲学・倫理学のさまざまな知見を概説する。具体的には、哲学史的な知識のほか、現代正義論、生命倫理学・環境倫理学等の現代的諸問題に関する基本的な概念と考え方について、必要に応じて概説する。</p>	
<p>社会系教科内容基礎演習 (哲学A)</p>	<p>哲学・倫理学にかかわる具体的な諸問題について、毎回テーマを設定し、ディスカッションを行いながら、テーマについての理解を深める。</p> <p>必要に応じて、それらの問題を哲学的に論じるために必要な、哲学・倫理学のさまざまな知見を概説する。具体的には、哲学史的な知識のほか、現代正義論、生命倫理学・環境倫理学等の現代的諸問題に関する基本的な概念と考え方について、必要に応じて概説する。</p> <p>受講者が、日常生活において私たちが突き当たるさまざまな哲学・倫理学的問題に対して、論理的かつ批判的に考えることができるようになることを目指す。</p>	
<p>社会系教科内容基礎演習 (哲学B)</p>	<p>哲学及び倫理学に関する基本的な考え方や概念を踏まえて、各回で設定されたテーマに関する現代的な諸課題を見出し、その解決に向けて自分なりにアプローチできるようになること及び、そのために哲学的・論理的な思考を身につけること、また自分のアイデアや意見をしっかり表現できるようになることを目標とする。</p> <p>毎回、哲学及び倫理学における主要なテーマを設定し、そのテーマに関連する参考文献など既存の研究をサーベイしてその報告をしてみよう。また、その報告を踏まえてディスカッションを行い、自分なりの考え方を明確にしていく。研究テーマの設定およびディスカッションにおいて、哲学対話の手法を用いる。</p>	
<p>社会科教科内容構成基礎論 (社会・地理歴史科)</p>	<p>(概要) 中学校社会科地理的分野・歴史的分野および高等学校地理歴史の授業に対する関心を高めるとともに、基礎的な内容を理解し技能を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(70 吉田剛/9回) ガイダンス/中学校社会科地理・歴史的分野および高等学校地理歴史科の指導上の課題/地理・歴史の学習指導案の作成法/地理教科書の内容研究(地誌)/地理教科書の内容研究(自然地理)/地理教科書の内容研究(人文地理)/地理教科書の内容研究(地図・地球儀)(情報機器の活用)/歴史の学習指導案作成(情報機器の活用)/地理の学習指導案作成(情報機器の活用)</p> <p>(33 田中良英一/6回) 歴史教科書の内容研究(古代世界)/歴史教科書の内容研究(中世世界)/歴史教科書の内容研究(近世世界)/歴史教科書の内容研究(近代世界)/歴史教科書の内容研究(現代世界)</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>社会科教科内容構成基礎論 (社会・公民科)</p>	<p>(概要) 中学校社会科公民的分野および高等学校公民の授業に対する関心を高めるとともに、基礎的な内容を理解し技能を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(70吉田剛/9回) ガイダンス/中学校社会科公民的分野および高等学校公民の指導上の課題/公民の学習指導案の作成法/公民教科書の内容の構成法(本文の扱い)/公民教科書の内容の構成法(資料の扱い)/公民の学習指導案の発問/公民の学習指導案の作成(法律・政治単元)(情報機器の活用)/公民の学習指導案の作成(経済単元)(情報機器の活用)/公民の学習指導案の作成(国際社会単元)(情報機器の活用)</p> <p>(34石田雅樹/6回) 公民教科書の内容研究(法律単元)/公民教科書の内容研究(政治単元)/公民教科書の内容研究(経済単元)/公民教科書の内容研究(国際社会単元)/公民教科書の内容研究(持続可能な社会・SDGs単元)/まとめ</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>社会系教科内容基礎演習 (社会・地理歴史科教育A)</p>	<p>小学校社会科・中学校社会科の地理・歴史的分野と高等学校地理歴史科の授業づくりに関する基礎的な内容を理解し技能を身につけることを目標とする。小学校社会科・中学校社会科の地理・歴史的分野と高等学校地理歴史科の授業づくりに対する関心を高めるとともに、基礎的な内容を理解し技能を習得する。</p>	
<p>社会系教科内容基礎演習 (社会・地理歴史科教育B)</p>	<p>小学校社会科・中学校社会科の地理・歴史的分野と高等学校地理歴史科の実践事例の分析に関する基礎的な内容を理解し技能を身につけることを目標とする。小学校社会科・中学校社会科の地理・歴史的分野と高等学校地理歴史科の実践事例の分析に関する基礎的な内容を理解し技能を習得する。</p>	
<p>社会系教科内容基礎演習 (社会・公民科教育A)</p>	<p>小学校社会科・中学校社会科の公民的分野および高等学校公民科の授業づくりに関する基礎的な内容を理解し技能を身につけることを目標とする。小学校社会科・中学校社会科の公民的分野および高等学校公民科の授業づくりに対する関心を高めるとともに、基礎的な内容を理解し技能を習得する。</p>	
<p>社会系教科内容基礎演習 (社会・公民科教育B)</p>	<p>小学校社会科・中学校社会科の公民的分野および高等学校公民科の実践事例の分析に関する基礎的な内容を理解し技能を身につけることを目標とする。小学校社会科・中学校社会科の公民的分野および高等学校公民科の実践事例の分析に関する基礎的な内容を理解し技能を習得する。</p>	
<p>数学科内容基礎講義(代数学)</p>	<p>中学校・高等学校数学科の教科内容の基礎となる数学的背景として、行列と行列式の計算とその基本性質、および、連立方程式の一般解法を身につけることを目標とする。数学の重要な柱の一つである線形代数学の基礎である行列と行列式の基本的事項、および、応用上重要な連立方程式の一般解法について講義する。</p>	
<p>数学科内容講義(代数学A)</p>	<p>中学校・高等学校数学科の教科内容の数学的背景として、線形空間と線形写像の基本事項、および、行列の対角化を身につけることを目標とする。数学の重要な柱の一つである線形代数学の中心的概念であるベクトル空間と線形写像の基本事項、および、応用上重要な行列の対角化について講義する。</p>	

数学科内容講義（代数学B）	中学校・高等学校数学科の教科内容の数学的背景として、複素数と一次分数変換の基本事項、および、2次、3次、4次の代数方程式の解の公式とそこから生じる代数的概念を身につけることを目標とする。複素数と一次分数変換、および、対称式と代数方程式の解の公式についての基礎理論を体系的に講義する	
数学科内容演習（代数学系A）	中学校・高等学校数学科の教科内容の数学的背景として、整数や多項式を扱う際の基礎概念として可換環論の基礎、とくに、割り算原理から単項イデアル整域における素元分解の一意性に関する基本事項を身につけることを目標とする。整数や多項式を扱う数学的体系としての可換環論の基礎、とくに、割り算原理から単項イデアル整域における素元分解の一意性について講義および演習をする。	
数学科内容演習（代数学系B）	中学校・高等学校数学科の教科内容の数学的背景として、演算とその役割から生じる代数的構造としての群の基本事項を理解し、その具体的な取り扱いを身につけることを目標とする。演算とその役割から生じる代数的構造としての群、群の関係を調べる準同型写像、および、群の構造の分類、群の作用について講義および演習をする。	
数学科内容基礎講義（幾何学）	ユークリッド空間における図形（点集合）を扱う上で基本となる距離と位相に関する基本事項（開集合、閉集合、コンパクト性、連結性、および連続写像の性質）をテーマとして、それらを理解することを目標とする。ユークリッド空間における距離と位相に関する基本事項について具体例と共に紹介する。	
数学科内容講義（幾何学A）	平面幾何の基本となる公理と、直線、線分、角、三角形等の図形や三角形の合同定理をテーマとし、それらと関連する定理を証明と共に理解し図形の性質を調べられることを目標とする。平面幾何学の基本的な概念や図形の性質について、幾何学の公理系に触れながら講義する。直線、角、三角形等の基本的な図形の性質と三角形の合同定理や関連する定理を扱う。	
数学科内容講義（幾何学B）	平面幾何の基本となる公理と、三角形、四辺形、円等の図形や三角形の相似定理をテーマとし、それらと関連する定理を証明と共に理解し図形の性質を調べられることを目標とする。平面幾何の基本的な概念や図形の性質について、幾何学の公理系に触れながら講義する。三角形、四辺形、円等の基本的な図形の性質と三角形の相似定理と関連する定理を扱う。	
数学科内容演習（幾何学系A）	平面曲線、空間曲線、空間内の曲面等の図形をテーマとし、それらの表示方法と具体例、および曲率等の基本概念を理解し、具体的な曲線・曲面の曲率等を計算できることを目標とする。平面曲線、空間曲線、空間内の曲面等の図形の表示方法と曲率等の基本概念を理解するための解説・演習を行う。	
数学科内容演習（幾何学系B）	ユークリッド幾何とは異なるいろいろな幾何学をテーマとし、特徴的な定理を通じてユークリッド幾何との違いを理解することを目標とする。非ユークリッド幾何学（双曲幾何）と射影幾何学の考え方と主要な定理、およびそれらとユークリッド幾何との違いを理解するための解説・演習を行う。	

<p>数学科内容基礎講義（解析学）</p>	<p>数学を学ぶ上で基本となる実数の性質について、数列の収束性や（1変数）関数の極限、連続性を通して学ぶ。特に、数学的事実を論理的に導いていく過程を体感し、それを少しずつ実践できるようになることを目標とする。</p> <p>実数に関するいくつかの公理を前提として、それを基にして実数や数列、連続関数に関する様々な性質が論理的に導かれることを詳細に講義し、レポート課題等によって授業内容のより深い理解を促す。</p>	
<p>数学科内容講義（解析学A）</p>	<p>1変数関数の微分と積分の一般論について、高校で学習した内容をより厳密な観点から学び直す。特に、積分の概念の本来の意味付けや、指数関数、三角関数を厳密に定義する方法について理解することを目標とする。</p> <p>数学科内容基礎講義（解析学）の授業内容を前提として、1変数関数の微分と積分に関する一般論、及び、指数関数、三角関数の（1つの）厳密な定義についてを詳細に講義し、レポート課題等によって授業内容のより深い理解を促す。</p>	
<p>数学科内容講義（解析学B）</p>	<p>1変数の関数列、関数項級数及び多変数関数の微分に関する一般論について学ぶ。講義においては、数学科内容講義(解析学A)で学んだ1変数関数の微分、積分の一般論を用いて、関数列、関数項級数及びテイラー級数の収束性について述べる。更に、数学科内容講義(代数学A)までで学んだ線形代数学の知識と数学科内容講義(幾何学A)で学んだ写像、関数の極限、連続性の概念を用いて、多変数関数の偏微分に関する一般論について論理的かつ厳密に述べていく。特に、陰関数、逆写像の微分や極値問題について理解することを目標とする。また、レポート課題等により、授業内容の理解を深めていく。</p>	
<p>数学科内容演習（解析学系A）</p>	<p>多次元ユークリッド空間におけるジョルダン測度及び多変数関数の重積分に関する一般論について学ぶ。講義においては、数学科内容講義(幾何学A)で学んだ集合の内部、閉包の概念を用いて、ジョルダン測度の一般論について述べ、この概念と数学科内容講義(解析学B)で学んだ多変数関数の微分に関する一般論を用いて、多変数関数の重積分に関する一般論について論理的かつ厳密に述べていく。特に、集合のジョルダン可測性や重積分と累次積分の違い等を理解し、累次積分の公式、変数変換の公式等を用いて重積分の計算ができるようになることを目標とする。また、演習等により、授業内容の理解を深めていく。</p>	
<p>数学科内容演習（解析学系B）</p>	<p>複素関数論の一般論とその応用について学ぶ。講義においては、数学科内容講義(解析学A)で学んだ1変数関数の微分、積分に関する一般論と数学科内容講義(解析学B)で学んだ1変数の関数列、関数項級数及び多変数関数の微分に関する一般論を用いて、複素関数論の一般論について論理的かつ厳密に述べていく。特に、複素微分と実2変数関数の微分との違いやコーシーの積分定理、積分公式について理解し、そこから派生する複素関数論の理論の美しさを体感することを目標とする。また、演習等により、授業内容の理解を深めていく。</p>	
<p>数学科内容講義（確率論・統計学A）</p>	<p>確率論の基礎的事項について、数学的視点から測度論、積分論を通して学ぶ。特に、確率論における事象、確率測度、確率分布、確率変数、平均、分散等の概念を、測度論、積分論を通して数学的に理解することを目標とする。</p> <p>中等数学科内容構成基礎論、数学科内容基礎講義（解析学）、数学科内容講義（解析学A）の授業内容を前提として、測度論、積分論を通して確率論の基礎的事項を講義し、レポート課題等によって授業内容のより深い理解を促す。</p>	

<p>数学科内容講義（確率論・統計学B）</p>	<p>確率論におけるやや発展的な事項について、数学的視点からこれを概観し、統計学との関係について学ぶ。講義においては、測度論、積分論を用いて数学科内容講義（確率論・統計学A）で学んだ確率空間、確率変数、確率分布等の概念を基に、確率分布の平均、分散の計算方法や関連する事項について述べる。更に、確率変数の独立性と直積確率空間との関係について概観し、大数の法則、中心極限定理を通して確率論と統計学との関係について述べていく。また、レポート課題等により、授業内容の理解を深めていく。</p>	
<p>数学科内容講義（コンピュータ）</p>	<p>中学校・高等学校数学科の教科内容の背景となるコンピュータと数学の関わりについて、具体的なプログラミング実践を通して、プログラム言語の基本事項を理解し、具体的なプログラムの作成とその実行を身につけることを目標とする。コンピュータと数学の関わりについて、具体的なプログラミング実践を通して、プログラム言語の基本事項、および、具体的なプログラムの作成とその実行について講義する。</p>	
<p>中等数学科内容構成基礎論</p>	<p>（概要） 中等数学科内容構成とその背景にある数学を理解し、中等数学科内容の教授方法や教材研究・開発を行うための共通の基礎となる数学の基本事項に関する入門的講義である。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（23鎌田博行・22田谷久雄・39佐藤得志・77市川啓・54花園隼人／1回）（共同） オリエンテーション</p> <p>（54花園隼人／2回） 中等数学科の内容構成／まとめと最終試験</p> <p>（23鎌田博行／4回） 集合とその基本演算／命題と論理／写像／全単射、逆写像</p> <p>（22田谷久雄／4回） 同値関係／類別と商集合／順序関係／整列集合</p> <p>（39佐藤得志／4回） 有限集合、可算集合／実数の表示／非可算集合／集合の濃度</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>
<p>理科内容基礎講義（物理学A）</p>	<p>物理学の基本である力学について、運動方程式を用いて物体の運動の解を導くことができるようになること、および、物体の運動において成り立つ法則の内容と、その法則を使って運動状態を導くことができるようになることを目標とする。物理学の最も基本的な原理である力学は、エネルギー保存則や運動量保存則など、我々の自然観の根幹をなすものであり、あらゆる科学の基礎となる。</p>	
<p>理科内容基礎講義（物理学B）</p>	<p>物理学の基礎となる振動・波動現象を学ぶ。数式の導出方法を理解し、様々な現象の共通点を理解する。また様々な授業形式を経験する。アクティブラーニング形式を取り入れ、振動・波動現象を理解し、必要な数式を導出する。</p>	
<p>理科内容応用講義（物理学）</p>	<p>電磁気学分野は目に見えないから不得意とよく云われる。しかし、身の回りは電化製品・ICTで溢れ、電磁気学の帰結として発見された電磁波（光）は自然界に限らず我々の身の回りの様々な機器で利用されており、教員としては理解しないでは要られない分野になっている。本講義では、力学との対比を基に電磁気学で重要な「場」の概念を理解し、静電場・静磁場から電磁波の基礎を講義する。受講者にグループを作ってもらい、演習を中心に行いたいと考えている。</p>	

理科内容基礎演習 (物理学)	初等の量子力学や相対論、あるいは熱力学を学ぶ。初等量子力学では、原子や電子といったミクロの現象について学ぶ。この分野で重要な自然現象と、それを予想あるいは説明するための理論を比較しながら、近代物理学の基礎である量子論の概念を学ぶ。特に、シュレディンガー方程式を使った簡単なエネルギー固有値問題が解けるようになることを目標とする。熱力学では、エネルギー保存則やエントロピー増大則を学ぶ。特に、気体や液体の性質と原子分子の運動との結びつきを理解すること、熱力学第1法則と第2法則、そしてエントロピーの意味を理解すること、を目標とする。	
理科内容基礎実験 (物理学)	<p>(概要) 基礎的な熱、光現象、電気実験、単振子による重力加速度定数の測定などを通し、さまざまな物理量を測定する実験方法についての理解を深める。また、コンピュータを活用して現象の解析や物理的概念を習得する。これらの観察や実験を通して柔軟な思考力や自分で現象を解析し、理由を考察する態度を養う。</p> <p>(オムニバス方式 / 15回)</p> <p>(72 内山哲治 / 5回) 金属の抵抗と温度の関係 / 液体と温度の関係 / 極低温の世界 / 測定値の処理 (1) 最小2乗法 / 測定値の処理 (2) 正規分布</p> <p>(49 西山正吾 / 5回) 光の基礎実験 (1) 屈折率 / 光の基礎実験 (2) 光の分散 / 音の基礎実験 (1) 音の波形 / 音の基礎実験 (2) 気柱共鳴管 / 直流回路の基礎実験</p> <p>(20 福田善之 / 5回) 力学実験 / コンデンサーの放電実験 / 単振り子実験 / プログラミングを用いたデータ処理 / 放射線観測実験</p>	オムニバス方式
理科内容基礎講義 (化学A)	<p>(概要) 原子の構造や量子化学の基本的な考え方を理解し、原子の電子配置と周期律との関係を説明できる。化学結合と軌道を理解し、分子の形、分子間の相互作用、物質の変化を説明できる。化学平衡について学び、自由エネルギーと平衡定数の概念を理解する。酸と塩基、物質の溶解や沈殿反応などについて定量的な考察ができるようになる。無機物質や有機化合物の構造と性質について理解できる。</p> <p>(オムニバス方式 / 15回)</p> <p>(13 猿渡英之 / 7回) 化学平衡① 自由エネルギー / 化学平衡② 化学平衡と平衡定数 / 酸と塩基① 酸塩基の定義・強酸強塩基 / 酸と塩基② 弱酸弱塩基 / 酸と塩基③ 解離平衡と緩衝作用 / 物質の溶解 / 沈殿平衡</p> <p>(26 笠井香代子 / 7回) 原子の構造と電子配置 / 化学結合 / 混成軌道と分子の形 / 分子の極性、水素結合、分子間力 / 物質の変化 / 無機物質の構造と性質 / 有機化合物の構造と性質</p> <p>(13 猿渡英之・26 笠井香代子 / 1回) (共同) 期末試験、まとめ</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

<p>理科内容基礎講義 (化学B)</p>	<p>(概要) 元素の概念や、目で直接見えない原子や同位体の概念がどのように形成され、現代ではどのように理解されているかを学ぶ。様々な化学反応のうち、特に酸化還元反応を取り上げ、その平衡、電位、エネルギー変化について理解する。化学で用いられる物理量や数値についての適切な扱い方を学ぶ。有機化合物の構造について、電子配置や軌道に基づいて理解できる。官能基による有機化合物の分類と命名について説明できる。有機化合物の性質と反応について、酸塩基や電子の移動と関連させて理解できる。</p> <p>(オムニバス方式 / 15回)</p> <p>(13 猿渡英之 / 7回) 原子、元素、同位体① 概念の成立 / 原子、元素、同位体② 原子の構造・放射壊変 / 酸化と還元① 酸化還元反応と電池・電気分解 / 酸化と還元② 酸化還元電位 / 酸化と還元③ 酸化還元反応の平衡 / 物理量と数値の取り扱い① 単位と有効数字 / 物理量と数値の取り扱い② 測定値の不確かさ</p> <p>(26 笠井香代子 / 7回) 有機化合物の分類と命名法 / 有機化合物の構造 / 有機化合物の反応① 脂肪族化合物 / 有機化合物の反応② 芳香族化合物 / 有機化合物の酸塩基反応 / アルコール、エーテル、カルボニル化合物 / カルボン酸、アミン</p> <p>(13 猿渡英之・26 笠井香代子 / 1回) (共同) 期末試験、まとめ</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>
<p>理科内容応用講義 (化学)</p>	<p>理科内容基礎講義 (化学A) (化学B) での学修の上に立ち、化学反応や分析化学に関わる事項、元素・化合物・同位体の性質とそれらの利用についてより深く学ぶ。さらに、環境中で様々な物質がどのように分布・挙動し、影響しているかを学ぶ。錯生成反応、物質の分離、原子スペクトル、質量スペクトル、データの不確かさと有意差検定、元素・同位体・化合物の性質と利用およびそれらの自然界での挙動、エネルギーと地球環境問題などを扱う。</p>	
<p>理科内容基礎演習 (化学)</p>	<p>有機化合物の構造・性質・反応などについて、体系的に理解できること。を目標とする。炭素を中心とする有機化合物は、現在までに1000万以上もの種類が報告されており、全化合物中9割以上を占める。これらの膨大な有機化合物の構造や反応を系統的に理解するのに必要な有機化学に関して、以下の発展的内容を講述する。</p> <p>有機化合物の分類と命名法 / 有機化合物の構造と電子配置 / 有機立体化学①幾何異性体と立体配座 / 有機立体化学②立体配置 / 酸と塩基 / 有機反応の機構 / カルボニル基への求核付加反応 / 飽和炭素における求核置換反応 / 脱離反応 / 炭素-炭素二重結合への求電子付加反応 / 芳香族求電子置換反応 / カルボアニオンの反応 / 有機金属化合物による有機合成 / 生体物質の化学 / まとめと期末試験</p>	
<p>理科内容基礎実験 (化学)</p>	<p>(概要) 物理化学、無機・分析化学、有機化学の基本的な実験手法やデータの解析法を修得するとともに、物質の基本的な性質やその変化である化学反応を自ら実験することにより学び、化学の理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式 / 15回)</p> <p>(13 猿渡英之・26 笠井香代子 / 1回) (共同) はじめに 有害廃棄物の処理法・試薬調製法・実験データの解析</p> <p>(13 猿渡英之 / 7回) 質量・体積の測定 / 化学平衡 / 酸と塩基 / 酸化還元反応 / 重量分析法 / 分光測定① 吸収光度法 / 分光測定② 原子スペクトル</p> <p>(26 笠井香代子 / 7回) 溶液の物理化学的性質 / 無機化合物の合成と性質 / 有機化合物①炭化水素 / 有機化合物②酸素を含む有機化合物 / 有機化合物③アミン類 / 有機化合物④カルボン酸類 / 化合物の機器分析 (コンピュータの活用を含む)</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>

<p>理科内容基礎講義（生物学A）</p>	<p>（概要） 中学校や高等学校の学習指導要領・教科書で扱われている生命現象のうち、個体レベルや生態系レベルなど、マクロなレベルでの事項について取り上げる。具体的には、生物の起源・進化・環境応答・行動・生殖・生態系・保全などに関する基礎的事項について学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（43 小林恭士／5回） 植物の起源と進化について／植物の系統関係と分類について／植物の栄養成長（発芽など）について／植物の生殖成長（花芽形成など）について／耕地生態系について</p> <p>（71 出口竜作／5回） 動物の起源と進化について／動物の系統関係と分類について／無脊椎動物の有性生殖について／無脊椎動物の無性生殖について／海洋生態系について</p> <p>（42 棟方有宗／5回） 脊椎動物の起源と進化について／神経系と内分泌系の調節について／脊椎動物の行動と適応について／淡水生態系について／生物の保全について</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>理科内容基礎講義（生物学B）</p>	<p>（概要） 中学校や高等学校の学習指導要領・教科書で扱われている生命現象のうち、分子レベルや細胞レベルなど、ミクロなレベルでの事項について取り上げる。具体的には、遺伝子発現・細胞周期・受精・酵素反応・免疫反応などに関する基礎的事項について学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（43 小林恭士／5回） 生物とウイルスについて／セントラルドグマについて／デオキシリボ核酸（DNA）の複製について／リボ核酸（RNA）への転写について／タンパク質への翻訳について</p> <p>（71 出口竜作／5回） 細胞の構造と細胞周期について／細胞死とがんについて／体細胞分裂について／減数分裂について／配偶子の構造と受精について</p> <p>（42 棟方有宗／5回） タンパク質の立体構造について／酵素反応について／フィードバック調節について／アデノシン三リン酸（ATP）について／免疫反応について</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>理科内容応用講義（生物学）</p>	<p>（概要） 本講義では、理科の教科内容のうち、生物学分野での学習と認識されながらも、他分野との関連性が比較的強い事項について、理科内容学習の応用として学ぶ。具体的には、中学校や高等学校の学習指導要領・教科書で扱われている生命現象のうち、理科の他分野（物理学・化学・地学）や数学、地理学など、分野横断的で社会的に関心の高い事項について取り上げ、最新の知見を含めて詳しく解説する。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（43 小林恭士／5回） 土壌と植物の成長／気候と植物の成長／光合成／呼吸／植物の一次代謝と二次代謝</p> <p>（71 出口竜作／5回） 海水と動物の生殖・発生／タンパク質と動物の生殖・発生／気候と動物の生殖・発生／興奮の伝導／興奮の伝達</p> <p>（42 棟方有宗／5回） 食物連鎖網／肉食動物の捕食行動／草食動物の防衛行動／脊椎動物の繁殖行動／生態系における物質循環</p>	<p>オムニバス方式</p>

理科内容基礎演習（生物学）	<p>（概要） 本演習では、生物学分野の講義や実験で学修した基礎的事項について、文献等を活用しながら演習形式の授業を行う。具体的には、動物の形態、行動、生殖、進化、生態、環境教育などをテーマに、関連する本や論文、学習指導要領の内容等と照らし合わせながら受講者間で議論を進め、理解を深める。また、データの解析方法といった基礎的研究の実践方法についても理解する。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（43 小林恭士／5回） 学術論文の検索方法、著作権等／データベースを用いた植物科学分野の学術論文の検索・演習／学校教育における研究倫理教育と学習倫理教育／植物科学分野の学術論文の読解・議論／学術論文での知見を学校教育に導入する授業案の作成</p> <p>（42 棟方有宗／5回） 動物行動・生態学、環境教育分野の最新の研究動向の把握／動物行動・生態学、環境教育学分野の論文の内容のトレンド解析／動物行動・生態学研究分野のトレンドと学習指導要領の内容の比較／環境教育分野のトレンドと学習指導要領の内容の比較／動物行動・生態学、環境教育分野の模擬指導案の作製</p> <p>（71 出口竜作／5回） 無脊椎動物の形態・生殖・進化などに関する文献の検索／無脊椎動物の形態・生殖・進化などに関する文献の購読／無脊椎動物の形態・生殖・進化などに関する議論／無脊椎動物の形態・生殖・進化などに関するまとめ／無脊椎動物の形態・生殖・進化などに関する授業案の作成</p>	オムニバス方式
理科内容基礎実験（生物学）	<p>（概要） 野外での動植物の採集や分類、肉眼や顕微鏡による動植物の生体・組織・細胞の形態の観察、動植物や微生物を用いた簡単な生理・行動・生殖・遺伝に関する実験等を行う。その過程では、スケッチの描写法やレポートの作成法、パソコンを用いたデータ処理法なども学習する。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（43 小林恭士／5回） ガイダンス、実験機器の取り扱いに関する説明／被子植物の採集と分類／コケ植物の採集と分類／植物の形態に関する観察と実験／遺伝子発現に関する観察と実験</p> <p>（71 出口竜作／5回） 細胞周期と細胞分裂に関する観察と実験／無脊椎動物の行動に関する観察と実験／無脊椎動物の受精に関する観察と実験／無脊椎動物の発生に関する観察と実験／パソコンを用いたデータ処理と検定</p> <p>（42 棟方有宗／5回） 魚類の形態に関する観察と実験／魚類の生理に関する観察と実験／魚類の行動に関する観察と実験／無脊椎動物の採集と分類／無脊椎動物の形態に関する観察と実験</p>	オムニバス方式
理科内容基礎講義（地学A）	地球や惑星を構成する物質を理解し、天体の運動を定量的に考え、さらに、地球を含む惑星や衛星の内部構造・表層環境を理解し、太陽系の進化、銀河系、宇宙のしくみを・なりたちを理解することを目標とする。地球・惑星・天文分野の内容について深い知識と原理を理解する。	
理科内容基礎講義（地学B）	大気科学の基本的な事項、主に大気の成分、構造、運動などについて理解することを目標とする。大気科学の基本的事項について解説し、大気のみならずさまざまな現象や地球環境に関する物理的な基本法則を理解する。	

理科内容応用講義（地学）	<p>(概要) 宇宙の構造・進化、地球表層の大気と海洋の基本的な事項、地層・堆積物・岩石・化石などに記録される自然環境の変遷過程について学び、宇宙と地球について基礎的なことを理解する。天文分野では、宇宙の時間・空間スケール、元素の起源、星の進化、惑星の形成、天体の運動、物理状態を扱う。気象分野では、地球大気の科学と地球環境について解説する。地質・固体地球分野では、地球の生命と環境がどのような過程を経て成立したのかを体系的に学び、地球環境をとりまく諸問題を地球科学的な立場からの確に捉える視点を養成する。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(14高田淑子／5回) 太陽系と惑星/恒星の明るさ/宇宙の全体構造/天体の運動と万有引力/宇宙の進化</p> <p>(24菅原敏／5回) 太陽放射と地球放射/氷期間氷期サイクル/大気成分と温室効果/温室効果気体と地球温暖化/気候変動と将来予測</p> <p>(89川村寿郎／4回) 層序と層序区分/地球年代学/古環境の解説/地球史</p> <p>(14高田淑子・24菅原敏・89川村寿郎／1回) (共同) まとめと総合試験</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
理科内容基礎演習（地学）	<p>(概要) 地学分野の講義・実験での習得内容を基にして、各領域の内容をさらに深く理解することができる。教員として必要となる地学事象の教材化を検討できる。4年次の卒業研究に入るための基礎的な知識・技術を身につけられる。地学分野の講義・実験での習得内容を基にして、各領域の内容をさらに深く理解するとともに、理科教員として必要となる地学事象の教材化も含めた実践的な演習。4年次の卒業研究に入るためのトレーニングも含む。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(24菅原敏／5回) 太陽と地球と光のエネルギー/大気と光の関係/赤外線と温室効果/温室効果気体/地球表層の物質循環</p> <p>(14高田淑子／5回) 静水圧平衡/衛星の内部構造/地球の内部構造/天体の光度/星の満ち欠け</p> <p>(89川村寿郎／4回) 地域の地質 (その1) -位置づけ/地域の地質 (その2) -分布と構造/ 地域の地質 (その3) -成り立ち/地域の地質 (その4) -教材化</p> <p>(14高田淑子・24菅原敏・89川村寿郎／1回) まとめ</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

<p>理科内容基礎実験（地学）</p>	<p>（概要） 自然の中での地学的な現象や事物を理解するには、空間的にも時間的にもスケールの多様な観点から把握し認識することが必要と言える。この実験では、地学の各分野の基礎的な事項について理解を深めるとともに、観察・分析・解析などの作業を通してその方法を習得する。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（89川村寿郎／5回） 実験の説明と野外調査地域の確認／野外観察調査／火山灰（凝灰岩）の観察（岩石や鉱物の観察と試料採取）／岩石薄片の作成（地質構造の観察）／岩石薄片の作成</p> <p>（24菅原敏／5回） 気象の観測1（気温の分布）／気象の観測2（気圧と高度）／気象の観測3（データ解析）／気象のモデル実験1（水蒸気と湿度）／気象のモデル実験1（雲・雪・雨）</p> <p>（14高田淑子／5回） 天体観測1（太陽と黒点）／天体観測2（月とクレーター）／天体観測3（惑星）／月面写真解析／クレーター年代測定</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>中等理科内容構成基礎論</p>	<p>（概要） 理科の内容構成の背景となる学問に関する学術的な専門知識と、教材として実際的かつ具体的に構成していく活動との関連性について理論的に考察する力を獲得する。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（20福田善之・72内山哲治・49西山正吾・13猿渡英之・26笠井香代子・71出口竜作・42棟方有宗・43小林恭士・14高田淑子・24菅原敏・66渡辺尚・44中山慎也／1回）（共同） オリエンテーション</p> <p>（66渡辺尚／1回） 中等理科における学習内容と指導上の課題①「エネルギー」「粒子」領域</p> <p>（44中山慎也／1回） 中等理科における学習内容と指導上の課題②「生命」「地球」領域</p> <p>（72内山哲治／1回） 「エネルギー」領域における教科内容構成① 電気・磁気</p> <p>（20福田善之／1回） 「エネルギー」領域における教科内容構成② エネルギー・電子・放射線</p> <p>（49西山正吾／1回） 「エネルギー」領域における教科内容構成③ 熱・波・音・光</p> <p>（13猿渡英之／1回） 「粒子」領域における教科内容構成① 元素・原子核・イオン・放射能</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>

(2 6 笠井香代子／1回)
「粒子」領域における教科内容構成② 原子・電子・分子

(7 1 出口竜作／1回)
「生命」領域における教科内容構成① 細胞・生殖

(4 2 棟方有宗／1回)
「生命」領域における教科内容構成② 動物の分類・体のつくり

(4 3 小林恭士／1回)
「生命」領域における教科内容構成③ 植物の分類・DNA

(2 4 菅原敏／1回)
「地球」領域における教科内容構成① 気象情報・大気

(1 4 高田淑子／1回)
「地球」領域における教科内容構成② 太陽・月・星

(6 6 渡辺尚・7 2 内山哲治・2 0 福田善之・4 9 西山正吾・1 3 猿
渡英之・2 6 笠井香代子／1回) (共同)
「エネルギー」「粒子」領域におけるまとめと振り返り

(4 4 中山慎也・7 1 出口竜作・4 2 棟方有宗・4 3 小林恭士・2 4
菅原敏・1 4 高田淑子／1回) (共同)
「生命」「地球」領域におけるまとめと振り返り

<p>音楽科内容演習（ソルフェージュ）</p>	<p>(概要) 実践的、理論的な音楽言語の基礎能力を習得することを目標とする。聴音、視唱を通し音楽的な聴感覚やリズム感覚、また読譜力を養う。</p> <p>(授業計画) 第1回：楽譜書き取りのための予備知識 第2回：調性と拍子の理解①（長調と単純拍子） 第3回：調性と拍子の理解②（短調と複合拍子） 第4回：調性と拍子の理解③（長調短調と混合拍子） 第5回：音部記号各種とクレ読み①（ト音、ヘ音、ハ音記号） 第6回：音部記号各種とクレ読み②（ハ音記号各種） 第7回：リズム打ちと、リズム聴音①（単純、複合拍子） 第8回：リズム打ちと、リズム聴音②（混合拍子） 第9回：新曲視唱①（転調なし） 第10回：新曲視唱②（転調あり） 第11回：新曲視奏①（単旋律） 第12回：新曲視奏②（大譜表） 第13回：聴音、視唱、視奏①（初級） 第14回：聴音、視唱、視奏②（中級） 第15回：聴音、視唱、視奏③（上級）</p>	
<p>音楽科内容演習（声楽）</p>	<p>(概要) 主として中学校や高等学校で用いられる歌唱教材を通して、発声法や発音法、歌唱法の基礎について理解し、基礎的な演奏技能を身に付ける。西洋音楽的な発声と日本の音楽の発声の両方について学び、実践できるようにする。</p> <p>(オムニバス方式／30回)</p> <p>(31原田博之／25回) オリエンテーション／声楽の基礎的知識及び発声法の基礎実技／声楽における呼吸法及び発音法の基礎／声楽における姿勢及び発声の練習曲／発声器官の構造及び歌唱共通教材の実践（赤とんぼ、荒城の月）／発声練習の方法及び歌唱共通教材の実践（早春賦、夏の思い出）／母音と子音の発音法及び指導法及び歌唱共通教材の実践（花、花の街）／各発達段階における歌唱指導法及び歌唱共通教材の実践（浜辺の歌）／変声期の歌唱指導及び音楽表現の実践／声楽に関する基礎的知識の確認、声楽課題曲の探索／声楽演奏の実践（発声法）／声楽演奏の実践（発音法）／声楽演奏の実践（演奏解釈法の基礎）／声楽演奏の実践（音楽表現法の基礎）／前期声楽課題の成果発表及び鑑賞／休業期間中の声楽課題の成果発表及び鑑賞／声楽演奏の実践（イタリア歌曲の発音法及び演奏法）／声楽演奏の実践（ドイツ歌曲の発音法及び演奏法）／声楽演奏の実践（英米歌曲の発音法及び演奏法）／声楽演奏の実践（中学校教科書に所収の歌唱教材）／声楽演奏の実践（高等学校教科書に所収の歌唱教材）／声楽演奏の実践（重唱曲）／声楽演奏の実践（演奏解釈法の応用）／声楽演奏の実践（音楽表現法の応用）／後期声楽課題の成果発表及び鑑賞</p> <p>(119山中遼晶／5回) 日本の発声（能楽の歴史）／日本の発声（能楽の鑑賞）／日本の発声（能楽の発声法）／日本の発声（能楽の演奏法）／日本の発声（総括）</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>音楽科内容実技（声楽A）</p>	<p>中学校及び高等学校で歌唱の授業を実践するために必要な知識及び技能を身につけることを目標とする。「音楽科内容演習（声楽）」で学修した声楽に関する知識と技能を用いて、様々な声楽作品の発声法や発音法、歌唱法について理解し、演奏技能を発展的に身につける。</p>	

音楽科内容実技（声楽B）	中学校や高等学校で歌唱の授業を实践するために必要な知識及び技能を身につけることを目標とする。「音楽科内容演習（声楽）」で学修した声楽に関する知識と技能を用いて、様々な声楽作品の発声法や発音法、歌唱法について理解し、演奏技能を発展的に身につける。	
音楽科内容演習（合唱）	合唱作品の様式や作品の背景について理解しつつ、演奏法及び指導法について学修する。様々な時代様式や背景を持つ合唱作品に取り組みながら、合唱に関する知識・理解を深め、演奏法及び指導法について実践的に学ぶ。依頼に応じた外部演奏など、地域との音楽交流活動にも参加する。	
音楽科内容演習（ピアノ）	鍵盤楽器の奏法を理解し、正しく実践でき、西洋音楽の仕組みやスタイルを理解し、表現できることを目標とする。バロックから近現代にいたる様々な様式のピアノ音楽を学習し、また、それぞれの能力に応じた練習曲や連弾曲等も学習し、ピアノ奏法の研究を深める。	
音楽科内容実技（ピアノ）	鍵盤楽器の奏法を深く理解し、高い技術を持って正しく実践でき、時代ごとに異なる西洋音楽の仕組みやスタイルを深く理解し、表現できることを目標とする。バロックから近現代にいたる様々な様式のピアノ音楽を深く学習し、また、それぞれの能力に応じた練習曲や連弾曲等も学習し、難易度の高い楽曲の演奏研究も行う。	
音楽科内容演習（合奏）	<p>(概要) 弦楽器と吹奏楽の合奏である。担当楽器を割り当て、演奏法の研究を行い、アンサンブル演奏法や指導法を総合的に習得する。</p> <p>(オムニバス方式／30回)</p> <p>(10日比野裕幸／16回) オリエンテーション、楽器の割り振り／楽器の簡単な取り扱い方法／木管楽器の説明（フルート、クラリネット、サクソ）／木管楽器の説明（オーボエ、ファゴット）／金管楽器、打楽器の説明（トランペット、トロンボーン、チューバ、ユーフォニアム）／親しみやすい編曲楽曲の分奏／親しみやすい編曲楽曲の合奏／各楽器の奏法復習／基礎的な分奏（チューニング）／基礎的な分奏（音の重なり）／より高度な曲の合奏（管打楽器の演奏技術の確認）／より高度な曲の合奏（デュナーミク）／より高度な曲の合奏（表情・表現）／より高度な曲の合奏（最終仕上げ）／最終演奏発表</p> <p>(109青田知子／14回) 金管楽器、打楽器の説明（ホルン、打楽器）／弦楽器の説明（ヴァイオリン、ヴィオラ）／弦楽器の説明（チェロ、コントラバス）／各楽器の奏法習得のための練習（音の出し方）／各楽器の奏法習得のための練習②（ロングトーン）／各楽器の奏法習得のための練習③（タンギング、ボーイング）／各楽器の奏法習得のための練習（運指）／各楽器の奏法習得のための練習⑤（音階）／各楽器の奏法習得のための練習（発音）／各楽器の奏法習得のための練習（デタッチェ）／各楽器の奏法習得のための練習（音色）／より高度な曲の分奏（チューニング・美しい音の重なり）／より高度な曲の分奏（弦楽器の演奏技術の確認）／より高度な曲の分奏（スムーズな演奏）</p>	オムニバス方式
音楽科内容演習（和楽器）	<p>(到達目標) 1) 平調子で調弦ができるようになる。 2) 箏の楽譜を読むことができるようになる。 3) 基本的な奏法を習得し、平易な楽曲を演奏できるようになる。 4) 経験者は受講開始時よりも演奏技術を高めるとともに、楽曲に見合ったニュアンスで演奏することができるようになる。</p> <p>(概要) 箏の演奏実習を通して、調弦方法、楽譜の読み方、演奏技法を習得するとともに、日本の伝統音楽の旋律やリズムの特徴、楽器の音色や合奏法などを理解する。</p>	

音楽科内容演習（指揮法）	<p>（到達目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 指揮法の基礎を習得する。 2) 楽譜を読み解き、教材研究に活用する。 3) プロオーケストラの演奏を体験する。 4) 教育現場で実践活用できる技能の習得する。 <p>（概要）</p> <p>指揮の基本技術やリハーサル・テクニックを習得することによって、より優れた指導力を育成する。指揮法を研究することにより、表現力やコミュニケーション力、さらには洞察力などの向上も含め、多方面での応用力を養成する。</p>	
音楽科内容実技（指揮法）	<p>（到達目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 専門的な指揮法を習得する。 2) 深く楽譜を読み解き、教材研究に活用する。 3) プロオーケストラの現場を体験する。 4) 実践研究の一つとして振り歌いを行う。 <p>（概要）</p> <p>音楽科内容演習（指揮法）で習得したことを基礎にして、スコアリーディングなどのさらなる高度な音楽技術を学ぶことで、教育現場で実践活用できる技能の習得し、演奏会やリハーサルを見学し、専門家の現場を体験し見聞を広める。</p>	
音楽科内容演習（音楽理論A）	<p>基本的な和声法の理論を習得することにより調性音楽の原理を理解し、音楽作品の分析ができるようになることを目標とする。四声体バス、ソプラノ課題の演習を通して機能和声の理論を学ぶ。また実際の作品の分析や編曲を通じ、理解を深める。</p>	
音楽科内容演習（音楽理論B）	<p>分析や創作の技法をより発展的に学び、応用力を身に付けることを目標とする。和声と対位法を中核に、作編曲や楽曲分析に必要な理論を習得し、実習する。</p>	
音楽科内容演習（作曲法）	<p>西洋音楽における基本的な形式とその原理を理解することを目標とする。音楽の諸形式を学び、考察する。また実作品の分析や、創作にも取り組む。</p>	
音楽科内容講義（音楽学）	<p>音楽学の基本的な考え方を理解するための授業である。多様な音楽にふれ、それらの音楽を作り出した人たちのもつ音楽観を理解した上で、音楽学の多様な研究方法を学ぶ。音楽学の基本的な考え方、音楽学研究の方法と範囲について概観する。また、多様な音楽文化の存在を前提とした上で、音楽とは何かについて検討する。</p>	
音楽科内容演習（音楽学A）	<p>西洋音楽史の大きな流れを理解するとともに、各時代の音楽様式を理解し、代表的な作曲家や作品についての知識を獲得し、その様式を音楽作品から聞き取ることができるようになることを目標とする。西洋音楽史の流れを概観し、時代による音楽様式の変遷や、音楽家と社会の関係について、音楽例を聴きながら学ぶ。</p>	
音楽科内容演習（音楽学B）	<p>日本の音楽の歴史の大きな流れを理解し、主要な音楽ジャンルについて、成立時代や音楽的特徴などを学び、多くの音楽例を聞きながら、日本の伝統音楽について親しむ。日本における音楽の歴史を概観し、日本音楽のさまざまなジャンルの特徴について、音楽例を聴きながら学ぶ。</p>	

音楽科内容演習（音楽学C）	民族音楽学の基本的な考え方を理解するとともに、日本でもよく紹介される世界各地の代表的な楽器や音楽ジャンルやについて、その特徴を理解し、日本の文化、西洋の音楽文化と、諸民族の音楽との関係を視野に入れて音楽を考えることができるようになることを目標とする。世界のさまざまな地域の音楽文化を、視聴覚資料を使用しながら概観し、音楽と社会や文化の関係について考察する。	
中等音楽科内容構成基礎論	<p>中学校音楽科及び高等学校芸術科音楽の内容を構成する各領域の基礎的な知識と技能について習得することを目標とする。中学校音楽科及び高等学校芸術科音楽の内容を構成する各領域について、基礎的な知識を修得しつつその音楽的な特性を理解し、また技能面についても様々な課題に取り組みつつ学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（31原田博之／7回） オリエンテーション／音楽科及び芸術科音楽の目標／表現領域「歌唱」（日本語の作品）／表現領域「歌唱」（外国語の作品）／表現領域「器楽」（リコーダー）／表現領域「器楽」（リコーダーアンサンブル）／総括</p> <p>（21小塩さとみ／2回） 鑑賞領域（西洋の音楽）／鑑賞領域（日本の音楽）</p> <p>（28倉戸テル／2回） 表現領域「器楽」（鍵盤楽器）／表現領域「器楽」（鍵盤楽器を伴うアンサンブル）</p> <p>（10日比野裕幸／2回） 指揮の実践（合唱）／指揮の実践（器楽合奏）</p> <p>（93松波匠太郎／2回） 表現領域「創作」（リズム）／表現領域「創作」（旋律・和声）</p>	オムニバス方式
美術科内容基礎演習（絵画）	<p>（到達目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 美術指導を行うための基礎となる技量と実践的な指導力の獲得。 2. 他者の作品から主題を読み解く鑑賞眼を養うこと。 3. 作品の目的に応じた高い水準での工夫が行え、自作について発表（解説）する能力。 <p>（概要） あらゆる造形の基礎となるデッサンを学ぶ。観察力、描写力、構成力等の能力を養い、さまざまな表現の可能性の礎を築く目的とした内容となる。</p>	
美術科内容実技（絵画Ⅰ）	<p>（到達目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実技実習を通じ実践的な指導力を獲得すること。 2. 水彩や油彩に関する技法や材料を理解し主体的に制作することができるようになること。 <p>（概要） 油彩の制作を通し、絵画の美術形式、方法論などを実践を通して学習する。更に古典から現代絵画の多様な表現方法についても学ぶ。</p>	
美術科内容実技（絵画ⅡA）	<p>美術教育の現場で多く実践されている「版画」の基本的な原理を様々な版種を通して学び、その表現効果を理論的かつ実践的に理解し、美術教育のための基本的能力を深めながら、版画の教育現場への応用、発展へとつなげる。</p> <p>美術科の教科内容の一つである絵画（版画）に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と関連させながら、実践的な知識と教材を具体的に構成していくことのできる力を身につけることによって、教科指導力に関する専門性の向上を図る。</p>	

美術科内容実技（絵画ⅡB）	<p>（到達目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 材料の特性を理解し、目的に応じた工夫が施せること。 2. 実技実習と他者の作品鑑賞を通じ、実践的な指導力を獲得すること。 3. 油彩に関する高度な専門知識を得ること。 <p>（概要）</p> <p>油彩の制作を通じ、絵画の美術形式、方法論などを実践を通して学習する。更に古典から現代絵画の多様な表現方法についても学ぶ。</p>	
美術科内容基礎演習（彫塑）	<p>美術科の教育現場における基本的な立体表現の実践にテーマを当て、美術科教育の在り方に照らし合わせ、教育実践における立体造形の表現を学習する。さらに、彫塑の基本的な技法を理解し、塑造（モデリング）の技法を通して演習に取り組み、基本的な立体感覚を体現し学習する。</p> <p>美術科の教科について、基本的な教科内容の学問に関する知識を、立体表現の原理を通して学び、彫塑の様々な技法の中で主に基礎的な粘土による塑造（モデリング）制作を行う。教材として実際的かつ具体的に構成していくことのできる力を身につけることによって、教科指導力に関する立体造形の専門性の向上を図る。</p>	
美術科内容実技（彫塑Ⅰ）	<p>美術科の教育現場における基本的な立体表現の実践にテーマを当て、美術科教育の在り方に照らし合わせ、教育実践における立体造形の表現を学習する。さらに、彫塑の基本的な技法を理解し、実材制作としての彫刻（カービング）の技法を通して実技の作品制作に取り組み、基本的な道具の使用法と技法等を身につけることによって、立体感覚を体現し学習する。</p> <p>美術科の教科について、基本的な教科内容の学問に関する知識を、彫塑の様々な技法の中で主に基礎的な実材制作としての彫刻（カービング）について、作品制作を行うことで学ぶ。教材として実際的かつ具体的に構成して、素材を応用していくことのできる力を身につけることによって、教科指導力に関する立体造形の専門性の向上を図る。</p>	
美術科内容実技（彫塑Ⅱ）	<p>美術科の教育現場における基本をベースにした、応用的な立体表現の実践にテーマを当て、美術科教育の在り方に照らし合わせ、教育実践における立体造形の表現を学習する。さらに、彫塑の基本的な技法を理解し、彫塑Ⅱで実践した実材制作としての彫刻（カービング）の技法を、さらに応用した立体表現に取り組み、応用的な道具の使用法と技法等を身につけることによって、質の高い立体感覚を体現し学習する。</p> <p>美術科の教科について、基本から応用した教科内容の学問に関する知識を、彫塑の様々な技法の中で主に、彫塑Ⅱで実践した実材制作としての彫刻（カービング）の技法を、さらに応用した立体表現に取り組み、作品制作を行うことで学ぶ。教材として実際的かつ具体的に構成して、様々な素材を応用して多様な技法を取り入れ、立体表現の幅を広げていくことのできる力を身につけることによって、教科指導力に関する立体造形の専門性の更なる向上を図る。</p>	
美術科内容基礎講義（デザイン）	<p>デザインのさまざまな表現方法を学び基本的な原理や考え方を理解し、グラフィックデザイン、映像表現などの視覚伝達表現、コンピュータを用いた芸術表現などの様々な事例を考察しながら、実践的な方法論に対する理解を深める。</p> <p>美術科の教科について、デザインの基本的な教科内容の学問に関する知識を教材として実際的かつ具体的に構成していくことのできる力を身につけることによって、教科指導力に関する専門性の向上を図る。</p>	
美術科内容演習（デザイン）	<p>デザインのさまざまな専門的知識や表現方法を学んだ上で、グラフィックデザイン、映像表現などの視覚伝達表現、コンピュータを用いた芸術表現などをより深く学習し、実践的な方法論に対する理解を深めるとともに、演習を行いながら応用、発展へとつなげる。</p> <p>美術科の教科内容の一つであるデザインに焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と関連させながら、実践的な知識と教材を具体的に構成していくことのできる力を身につけることによって、教科指導力に関する専門性の向上を図る。</p>	

教科及び教科の指導法に関する科目

<p>美術科内容基礎講義（工芸）</p>	<p>美術科の教育現場における基本的な工芸について、生活との接点にテーマを当て、美術科教育の在り方に照らし合わせ、教育実践における工芸的な様々な造形表現を学習する。さらに、伝統工芸の特徴的な用途や技法を理解し、地域の中で生まれた工芸など「用の美」としての工芸品などの特性について、その地域の風土を含め考察し、基本的な生活様式の中での工芸の造形性を体現し学習する。</p> <p>美術科の教科について、基本的な教科内容の学問に関する知識を、工芸の造形表現の原理を通して学ぶ。工芸の様々な技法の知識と伝統工芸の特性を理解し、中学校美術科授業の中で、教材として実際的かつ具体的に構成していくことのできる力を身につけることによって、教科指導力に関する工芸表現の造形的専門性の向上を図る。</p>	
<p>美術科内容演習（工芸）</p>	<p>美術科の教育現場における基本的な工芸について、生活との接点にテーマを当て、美術科教育の在り方に照らし合わせ、教育実践における工芸的な様々な造形表現を演習を通して学習する。また地域の中で生まれた伝統工芸の特徴的な用途や技法を理解した上で、「用の美」としての工芸品などの特性について研究する。さらに、基本的な生活様式の中での工芸の造形性を理解し、演習として実際に作品制作を通して学習する。</p> <p>美術科の教科について、基本的な教科内容の学問に関する知識を、工芸の造形表現の原理を通して学ぶ。工芸の様々な技法の知識と特性を理解し、演習を通して実際に工芸作品を制作する。中学校美術科授業の中で、実践的かつ具体的に工芸教育の実践を構成していくことのできる力を身につけることによって、教科指導力に関する工芸表現の造形的専門性の向上を図る。</p>	
<p>美術科内容基礎講義（美術理論・美術史）</p>	<p>(到達目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧石器時代から現代に至る西洋美術史の過程と縄文土器から浮世絵に至る日本美術史の流れに触れ、それらの社会的背景と作品間の関連性を理解する。 ・東洋美術の起源と仏教美術の概要に触れ、日本美術への影響について理解する。 ・美術科の教育現場における美術理論・美術史の理解と深化を図り、美術史に登場する主要作品の社会的・理論的背景について説明できるようになる。 <p>(概要)</p> <p>美術科の教科について、美術理論・美術史の基本的な教科内容の学問に関する知識を教材として実際的かつ具体的に構成していくことのできる力を身につけることによって、教科指導力に関する専門性の向上を図る。</p>	
<p>美術科内容演習（美術理論・美術史）</p>	<p>美術科の教育現場における基本的な美術表現の概念及び、鑑賞教育を理解し、そのことを前提とした美術史の体系を学習する。さらに、美術科教育の在り方に照らし合わせ、教育実践における美術表現の概念と基本的な原理を理解し、現代の美術表現における国内外の動向について調査し、演習に取り組む中で、基本的な美術科教育の成り立ちをについて、専門的な理解力を高める。</p> <p>美術科の教科について、基本的な教科内容の学問に関する知識を、平面表現、及び立体表現の国内外の歴史上の特質すべき作品等についての変遷を学ぶ。さらに、それぞれの技法及び、表現効果を主に基礎的な体系を理解し、現代における美術の動向を調査し発表していく。教材として実際的かつ具体的に構成していくことのできる力を身につけることによって、教科指導力に関して、美術史を踏まえた上で、鑑賞等を前提とする実践教育の専門性の向上を図る。</p>	

美術科内容演習（鑑賞）	<p>（到達目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 鑑賞の手掛かりとなる美術史的背景について実作や文献のリサーチを行う能力を養う。 2. 適切な設問を考案し、ワークシートを制作する力を養う。 3. 鑑賞者をリードするコミュニケーション力を養う。 <p>（概要）</p> <p>人間の造形活動の意味を問いかける「鑑賞」のあり方について実践を通して学ぶ。実作品に接して作品を読み解くことを促す学習ツールとしてワークシートを制作する。また、模擬授業形式にて異なる主題で1人2回程度ワークシートの発表を行う。なお、一部創作体験を行う場合がある。</p>	
中等美術科内容構成基礎論	<p>（概要）</p> <p>美術科の教科について、基本的な教科内容の学問に関する知識を教材として実際的かつ具体的に構成していくことのできる力を身につけることによって、教科指導力に関する専門性の向上を図る。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（3虎尾裕・19平垣内清・40安彦文平／3回）（共同） ガイダンス／美術科をめぐる今日的課題 —プレゼン・討論とまとめ—①／美術科をめぐる今日的課題 —プレゼン・討論とまとめ—②</p> <p>（19平垣内清／4回） 美術科における教育実践の基礎／美術科における教育実践 —様々な表現の分析と応用①—／美術科における教育実践 —様々な表現の分析と応用②—／教科専門の考察 —コンピュータの教材への応用・デザイン—</p> <p>（3虎尾裕／4回） 教科専門の考察 —立体表現、材料学—／教科専門の考察 —立体表現、歴史—／教科専門の考察 —立体表現、鑑賞—／教科専門の実践—立体表現、実践—</p> <p>（40安彦文平／4回） 教科専門の考察 —平面表現、材料学—／教科専門の考察 —平面表現、歴史—／教科専門の考察 —平面表現、鑑賞—／教科専門の実践—平面表現、実践—</p>	オムニバス方式・共同（一部）

<p>保健体育科内容基礎実技 (体育実技)</p>	<p>(概要) 体づくり運動、水泳およびダンス（日本の民踊）を中心に構成され、体育科の指導に必要な基本的知識・技術について学習し、技能の習熟を図る。またそれぞれの練習の方法、指導法を包括的に学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／30回)</p> <p>(2佐藤節子・115犬塚剛・55沼倉学／1回) (共同) オリエンテーション</p> <p>(2佐藤節子／9回) 体づくり運動の指導法／体ほぐしの運動／体の柔らかさを高めるための運動／巧みな動きを高めるための運動／力強い動きを高めるための運動／動きを持続する能力を高めるための運動／健康に生活するための体力の向上を図る運動の計画と実践／運動を行うための体力の向上を図る運動の計画と実践／体づくり運動まとめ</p> <p>(115犬塚剛／10回) 水泳時における体調管理、水泳のルール及びプールの管理について／クロールの技術と指導法／平泳ぎの技術と指導法／背泳ぎの技術と指導法／バタフライの技術と指導法／その他の泳法（横泳ぎ、潜水など）の技術と指導法／スタートとターンの技術及び指導法／タイムトライアル①（クロールおよび平泳ぎ）／タイムトライアル②（個人メドレー）／水泳まとめ</p> <p>(55沼倉学／10回) 代表的な日本の民踊／日本の民踊の技法／日本の民踊の指導法／踊りの習得／踊りのお囃子<笛・太鼓>／踊りとお囃子の掛け合い／発表会に向けての練習／講堂でのリハーサル／発表会／日本の民踊まとめ</p>	<p>オムニバス方式・ 共同（一部）</p>
<p>保健体育科内容実技（体育実技・球技A）</p>	<p>(概要) サッカー及びバスケットボールの特性を理解するとともに、サッカー及びバスケットボールをプレイするための基本的技術、戦術（特に個人技術、個人戦術）の習得を主題にする。そして最終的にはチームプレイの最小単位である2対2におけるコンビネーションプレイからの攻防を理解して実践できるようになることがこの授業のねらいである。</p> <p>(オムニバス方式／30回)</p> <p>(6池田晃一／15回) サッカーの発生とゲーム特性／ボールフィーリング（ボールジャグリング：ボールに慣れる）／基本的なキック（インステップキック、インサイドキック）／ボールコントロール（ストップとトラッピング）／ドリブルとスクリーンプレイ／対人プレイ（1対1：ボールキープと攻防）／様々なシュート／ヘディング／個人戦術の考え方／2対2のオフェンスとディフェンス（主にオフェンスについて）／2対2のオフェンスとディフェンス（主にディフェンスについて）／ルールについての理解／ゲーム（まとめ）／実技テスト／理論テスト</p> <p>(118杉浦 弘一／15回) 基礎技能1：ボールハンドリング、セットシュート、ジャンプシュート／基礎技能2：ランニングシュート（オーバーヘッドシュート、レイアップシュート、バックシュート）／基礎技能3：ドリブル／基礎技能4：ステップワーク、パス／オフボール1対1（カットプレイ、ボールを受ける動き）／オンボール1対1（駆け引き、フェイント動作）／オンボール・スクリーン1（インサイド・スクリーン）／オンボール・スクリーン2（アウトサイド・スクリーン）／オフボール・スクリーン／スペーシング（スペースの攻め方・作り方）／ディフェンス（オンボール・ディフェンス、オフボール・ディフェンス）／3対3コンビネーションプレイ（スペーシングを考える）／3対3コンビネーションプレイ（有名な戦術の理解と実践）／3対3コンビネーションプレイ（1対1、スクリーンプレイを使いこなす）／まとめ</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>保健体育科内容実技（体育実技・球技B）</p>	<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・硬式テニスの特性やルールを理解するとともに、基本的技術の習得と技術練習、応用練習を通して、ゲームの進め方を学習する。また、ベースボール型球技の特性やルールを理解するとともに、基本的技術の習得を通してゲームの進め方を学習する。 ・バレーボールのルールと競技特性を理解し、個人的及び集団的技術を習得するとともに、それらを基にした戦術を展開して、ゲームの展開方法を学習する。 <p>（オムニバス方式／30回）</p> <p>（6 池田晃一／15回）</p> <p>オリエンテーション：ボールに慣れる／基礎技術（ボレー）の習得／基礎技術（ストローク）の習得／基礎技術（サーブ）の習得／応用練習（ストロークからボレー）／応用練習（サーブからのラリー）／試合形式（ダブルス）の練習（ストロークからボレー）／試合形式（ダブルス）の練習（サーブからのラリー）／ダブルスの試合／シングルの試合／ベースボール型ゲームとは（投げる、取るための基本練習）／ベースボール型ゲームとは（バットで打つ）／三角ベースでの簡易ゲーム（ハンドベースボール）／三角ベースでの簡易ゲーム（フットベースボール）／まとめのゲーム（バット・ボールを様々な用具に変化させる）</p> <p>（121 高野淳司／15回）</p> <p>授業の進め方、評価について（ガイダンス）／バレーボールの動き作り、ゲーム形式練習／パスの基本練習、ゲーム形式練習／ディグ（強打レシーブ、軟打レシーブ）、ゲーム形式練習／サーブ、レセプション（1）（基本的なサーブ、レセプション練習）、ゲーム形式練習／サーブ、レセプション（2）（様々なサーブ、フォーメーション）、ゲーム形式練習／トスとアタック（1）（助走、直上トスのアタック）、ゲーム形式練習／トスとアタック（2）（オープン、クイック）、ゲーム形式練習／コンビネーション練習（レセプションからトス、アタックまで）、ゲーム形式練習／チーム決め、リーグ戦（1）／審判法について、リーグ戦（2）／チーム替え、リーグ戦（3）／チーム練習の工夫（攻撃について）、リーグ戦（4）／チーム練習の工夫（守備について）、リーグ戦（5）／まとめ、順位決定戦、個人技術評価等</p>	<p>オムニバス方式</p>
----------------------------	--	----------------

<p>保健体育科内容実技（体育実技・武道）</p>	<p>（概要） 剣道：剣道の基本動作と一本打ちの技の修得に重点をおいて行う。「技」の修得は、代表的な技のみに留めて、互格稽古及び簡易試合ができるまで展開する。 柔道：柔道の特性を理解し、投げ技、固め技の基本的な指導法を学び、中学校保健体育での柔道の授業を安全に効果的に実施できるようにする。</p> <p>（オムニバス方式／30回）</p> <p>（98 齋藤浩二／15回） 授業の内容の説明、剣道の概要、礼法／礼法、基本動作の修得／基本動作から打突動作への展開／打突の仕方（面）、打たせ方の修得／剣道具（垂・胴）の着装、打突の仕方（胴）、打たせ方／剣道具（面・小手）の着装、打突の仕方（面・小手）、打たせ方／打突の仕方（面・小手・胴）の修得／打突の仕方（面・小手・胴）の修得／切り返しの導入、一本打ちの技の修得、約束稽古、稽古への導入／切り返しの完成、払い技の修得、約束稽古、稽古の導入／連続技（二段技）の修得、約束稽古、互格稽古／引き技の修得、約束稽古、互格稽古／技の練習、試合への導入／簡易試合①／簡易試合②</p> <p>（95 平間哲雄／15回） 授業のガイダンス、講義（柔道の創始）、柔道着の着方、礼法／受け身（後ろ受け身、前受け身、横受け身、前回り受け身）／受け身、体捌き、組み方、崩し、投げ技（膝車、大腰）／投げ技（一本背負い投げ、背負い投げ） 固め技（袈裟固め）／投げ技（体落とし、釣り込み腰） 固め技（横四方固め）／投げ技（大外刈り、小外刈り） 固め技（上四方固め）／投げ技（大内刈り、小内刈り） 固め技（肩固め）／投げ技（送り足払い、支え釣り込み足） 固め技（縦四方固め）／投げ技（浮腰、払い腰） 固め技の乱取り（自由稽古）／投げ技（連続技） 固め技の乱取り／投げ技（返し技）投げ技の乱取り 固め技の乱取り／投げ技の乱取り 固め技の乱取り／学習した各技の復習（投げ技、固め技）／審判法の解説 模擬試合 護身法／実技試験（投げ技の演技を行う）</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>保健体育科内容実技（体育実技・器械運動）</p>	<p>各種目の基本技や組合せ、演技をある程度の技術的レベルで実施できるようになるとともに、器械運動の指導に必要な基礎的知識や理論を理解できることを目標とする。 マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動、平均台運動の基本技や発展技、技の組合せ、演技の構成や実施の段階的習得と習熟を図る。また器械運動の特性、技の技術的要素や系統性、練習の方法・段階、安全確保・補助の仕方を学ぶとともに、技の出来映えを観察する能力の向上を図る。</p>	
<p>保健体育科内容実技（体育実技・陸上競技）</p>	<p>（到達目標） 1. 陸上競技の走・投・跳各種目の競技特性を理解し、基本的技能を身につける。 2. 自らの記録を向上させ、他者と競い合うことの楽しさや魅力を味わうことができる。 3. 走・投・跳各種目に関する指導法を身につけることができる。</p> <p>（概要） 陸上競技の走・投・跳各種目の競技特性や基本的技能を、実技を通して学習する。</p>	
<p>保健体育科内容実技（体育実技・ダンス）</p>	<p>ダンスの基本を学びながら「踊り表現するからだ」への気づきを深めること、創作ダンスの指導法を理解すること、ダンス作品を創作し発表する過程で培われる発想力やコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。 創作ダンスの初歩段階の授業である。「恥ずかしくて踊れない」「どのようにからだを動かして踊ればよいのか分からない」などの問題を、からだや動きを実感することで解決していく。また、からだの感覚の覚醒と解放のワークに取り組むことを通して「踊り表現するからだ」を育てる。</p>	

<p>保健体育科内容実技（体育実技・野外活動A）</p>	<p>本授業においては、学校教育における児童・生徒の野外における活動の指導はもとより、家庭や地域において行われる自然体験学習の指導に必要な知識、技術の基本を習得し、計画的なプログラムに沿って、自然の中での活動能力を高めることを目指す。 また、生涯スポーツとしてのスキー運動の特性を理論と実践を通して理解すると同時に、実際に冬山を体験することにより、冬季の自然を理解することをねらいとする。また、グレンデスキーにおける滑降・回転の基礎技術および応用技術を学習すると同時に、基本的なスキーの指導法を学習することも、重要なねらいである。</p>	<p>共同</p>
<p>保健体育科内容実技（体育実技・野外活動B）</p>	<p>（概要） 遠泳における泳力の向上を図りながら、合宿経験を通して臨海学校などの海浜行事の運営や指導について体験的に学ぶ。 生涯スポーツとしてのスキー運動の特性を理論と実践を通して理解すると同時に、実際に冬山を体験することにより、冬季の自然を理解することをねらいとする。また、グレンデスキーにおける滑降・回転の基礎技術および応用技術を学習すると同時に、基本的なスキーの指導法を学習することも、重要なねらいである。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（55沼倉学／7回） 遠泳オリエンテーション、グループ分け／ゆっくり長く泳ぐための泳ぎ方（脱力と呼吸確保）の習得／遠泳に必要な技術（ペースコントロール、補助法）の習得／小遠泳（約1km）／水難救助法、人工呼吸法／大遠泳に向けた練習／大遠泳（約2.5km）</p> <p>（6池田晃一／8回） 技能別グループ分け／基礎技術の習得（プルークボーゲンによるターンの作り方）／基礎技術の習得（横滑りによるターンの作り方）／基礎技術の習得（シュテムターンによるターンの作り方）／パラレルターンの習得／各種ターンにおけるスピードコントロール／各種ターンにおける斜面変化に応じた滑り方／総合滑降</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>保健体育科内容講義（体育原理・体育史）</p>	<p>体育の歴史や原理（哲学）に関する知識を獲得するとともに、体育の在り方について検討できる能力を身につけることを到達目標とする。体育の歴史や原理を通じて、現代日本の体育が抱える諸問題を考える。</p>	

<p>保健体育科内容講義（体育社会学・体育経営管理学）</p>	<p>（概要） 産業形態やライフスタイルの変化、高齢化など様々に変容する現代社会において身体活動の意義は見直されつつある。生涯スポーツという語はますます耳慣れた言葉となっている。私たちはどのように身体とつきあおうとしているのだろうか。この授業では身体に着目しつつ学校教育や現代社会について講義する。 地域社会や学校教育における体育・スポーツについて経営管理学の立場から学習する。体育施設の整備やプログラム、クラブ、組織体などについて、その経営管理を具体的に検討し、学校体育のみならず社会体育や地域スポーツにまで範囲を広げ、それぞれの立場から経営管理の実情と方法について学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（112甲斐健人／8回） 授業の進め方、オリエンテーション／あなたの身体は誰が作っているのか／生涯スポーツという理念と学校体育／スポーツは身体の規律化装置か／「さえない」部活の積極性／「からだ」と学校文化／メガスポーツイベントと学校／誰のための健康か</p> <p>（116永田秀隆／7回） 体育経営管理学の概念と構造（スポーツ政策も含む）／体育・スポーツ事業の基礎となる経営資源①（人的資源と物的資源）／体育・スポーツ事業の基礎となる経営資源②（財務資源と情報資源）／体育・スポーツ事業の運営①（エリアサービス事業）／体育・スポーツ事業の運営②（プログラムサービス事業）／体育・スポーツ事業の運営③（クラブサービス事業）／体育・スポーツ経営と運動・スポーツ生活（理論と実際）</p>	
<p>保健体育科内容講義（体育心理学）</p>	<p>体育・スポーツ心理学に関する理論についての基本事項を理解し、同時に、体育科教育での運動指導やその他の教育活動に実際に活用する方法について理解する。身体運動における心理的特性、運動制御、運動学習理論および動機づけ等の内容を中心に、実際の教育活動に活用可能なスポーツ・体育心理学の基本的な内容を説明する。</p>	
<p>保健体育科内容講義（運動学A）</p>	<p>実際にハイスピードカメラやパソコンを使用し、スポーツ・運動の動作を画像分析できること、そのうえで身体各部位の動きやその作用する力のメカニズムなどのバイオメカニクスの観点から理解することを目標とする。 スポーツ・運動の動作を身体各部位の動きやその作用する力のメカニズムなどのバイオメカニクスの観点から分析し、身体運動の特性について理解を深めることが本講義のねらいである。内容としては、運動学の基礎、動作の画像解析法と動作分析法の原理および分析結果の活用の仕方等について講義を行う。</p>	
<p>保健体育科内容講義（運動学B）</p>	<p>スポーツ運動学の理論を知識として理解するだけでなく、体育・スポーツにおける運動指導の実践に役立てることのできる能力の養成を目標とする。 マイネルの「スポーツ運動学」、金子の「発生運動学」の理論を基礎として、体育・スポーツにおける運動学習・指導に関する実践的問題を検討する。実践における指導者や学習者の視点から見た、スポーツ運動の発生、構造、伝承に関する理論を学習する。</p>	
<p>保健体育科内容講義（生理学）</p>	<p>身体の恒常性を知ることがこの授業のテーマとする。この授業は身体の恒常性を生理学的に説明ができるようになること、また運動と健康に結びつけることを目標とする。この授業は細胞機能、神経機能、筋系、循環器系、内分泌系の仕組みをわかりやすく解説し、さらに運動時やストレス下、環境変化（寒冷や暑熱）への対応の仕組みについても解説する。</p>	

保健体育科内容講義（衛生学・公衆衛生学）	<p>ライフステージに対応した健康管理に関する基礎的知識および基本的態度・習慣の習得を目指す。また、人間集団の健康・疾病状況を疫学的な観点から理解するための基礎的知識および能力を身につけることを目標とする。さらには、中学校および高等学校にて行われる保健の授業を展開するための基礎的な知識の習得を目標とする。</p> <p>本講では人間集団を対象にして、病気を予防し健康の保持増進をはかり、そのために必要な環境を整える基礎と応用について学習する。疾病予防、健康教育、健康管理、環境保健、保健行政、医療制度などであるが、これらと生活の基盤である地域、職域や学校との関連についても考察する。</p>	
保健体育科内容講義（学校保健）	<p>教員が学齢期にある子どもたちのからだや健康を守り、そして、育てられるための基本的な知識や技術を習得することを目標とする。救急処置の知識と技能、健康診断の内容とあり方、子どもの身体発達やかかりやすい病気の知識、健康なライフスタイルや学校環境、及びそれらの指導を取りあげる。</p>	
中等保健体育科内容構成基礎論	<p>(概要)</p> <p>ヒトの身体・機能およびスポーツ運動からみた体育という観点から、「スポーツとは何か」「体育とは何を教え・育てる教科か」を考察する。あわせて体育学・運動学・教育学・予防医学などの課題を探る。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(81黒川修行／5回) (オリエンテーション) ヒトの機能と運動・体育①(発育・発達の観点から)／ヒトの機能と運動・体育②(疾病との関連、特に肥満との関係)／ヒトの機能と運動・体育③(疾病との関連、特に生活習慣病との関係)／ヒトの機能と運動・体育④(パフォーマンス向上の観点から)／ヒトの健康と生命倫理</p> <p>(2佐藤節子／5回) 運動のもつ可能性／体育と身体形成／身体から見た体育の可能性／体育と指導者／子どもから見た体育の存在意義</p> <p>(11木下英俊／5回) 近代スポーツの成立と特徴／現代におけるスポーツの特徴と課題／日本におけるスポーツと学校体育の関係／日本の学校体育における運動指導に求められる課題／学校体育、地域スポーツクラブから生涯スポーツへ(まとめ)</p>	オムニバス方式
保健体育科内容実験（生理学、衛生学・公衆衛生学、学校保健）	<p>生理学・運動生理学における基本的な実験技術を習得するとともに、衛生学・公衆衛生学および学校保健分野でよく用いられる調査法(疫学的手法を含む)、さらにこれらに関連するデータ収集および処理に関する基本的な方法について、理解することを目標とする。</p> <p>人体生理学で学んだ生命現象の機構を動物や自分達の身体で確認し、体育・スポーツ・健康科学の問題解決に用いられる生理学的な手法を修得する。また、衛生学・公衆衛生学分野及び学校保健で学んだ健康の保持・増進のための生活習慣や環境評価に必要な知識・技術の修得も課題とする。さらに疫学分野で用いられる統計処理法、データサイエンスに関する基本的事項についても学習する。</p>	
技術科内容講義（木材加工）	<p>木材、プラスチック、木質材料及び金属が有する特性および機械的性質を学ぶとともに、その特長を活かした作品製作の実践を通してものづくりの技能を習得する。各種機械加工法にも触れ、ものづくりの技術・技能を活かした教材・教具づくりを実践し、様々な教材開発に応用できる力を身につける。3Dプリンタやレーザー加工機などを活用したデジタルファブリケーションについて、一部で実習を取り入れる。</p>	

技術科内容実験実習（木材加工）	<p>自分の考えた製作物の製図が描け、木工道具や木工機械を使用し、板材を加工することにより製作物を製作することができるようになることを目標とする。各種木工道具の構造および特徴を学び、道具の使用法および道具の調整（仕立て）方法を修得する。また、基本的な木工機械の構造および操作法を修得する。目的とする作品の設計・製図・材料取り、部品加工、組立・調整および完成までの合理的な作業手順や道具だてに関する方法を身に付ける。</p>	
技術科内容講義（金属加工）	<p>(到達目標) ・身のまわりの工業製品がどのように作られているのかを理解できるようになる。 ・実習により簡単な金属製品の加工ができる。 ・製図図を読み取り、製作に必要な加工法を選択することができる。</p> <p>(概要) 金属加工の基礎知識を、手仕上げ、塑性加工、切削加工など、幅広く学ぶ。また、製図に関する基本事項を学ぶとともに実習を含んだ授業を行う。</p>	
技術科内容実験実習（金属加工）	<p>金属の曲げ、切削及び接合などの加工技術を工具・道具や工作機械の使用を通して身に付け、習熟させる。また作品の設計図をもとに、その製作目的、製品の機能を満足する材料及び加工法を検討し、部品加工から組立てまでの手順を工夫し実践できるようにする。本実習を通してもの作りの方法と合理的な作業手順を学ぶ。</p>	
技術科内容基礎講義（機械）	<p>機械工学の基礎となる力学の知識を獲得し、身近な機械のメカニズム及び身近な機械の各種構成要素を理解し説明できることを目標とする。機械工学の基本的な事項について、機械力学、材料力学、流体力学、熱力学、および機械要素や機構学などのメカニズムに関する設計的な内容を扱う。また、センサとアクチュエータから制御など、機械工学と関連するロボット工学に関する内容も扱う。</p>	
技術科内容応用講義（機械）	<p>中学校技術科の「エネルギー変換」分野における機械に係る部分に焦点をあてて、新しい学習指導要領で重視されるようになった「課題解決」学習に取り組む。まずは自らが生徒になったつもりで、身の回りの課題を設定して、それを解決するための設計・製作活動を行う。機械設計の手法として、3D CADを活用したデジタルデータを作成し、シミュレーションなどを行うとともに、実際の製作活動では金属加工を中心として、3Dプリンタやレーザー加工機などのデジタル工作機械を活用する。機械技術を中心としつつも、電気技術や情報技術に関連させて、統合的な活動に発展させることなども考えられる。</p>	
技術科内容実験実習（機械）	<p>機械設計の基礎的な事項を学び、実際に簡単な機械設計ができるようになり、自らが設計・製作したロボットで、受講者内でロボットコンテストを実施することを目標とする。機械工学の設計・製作に関する内容を実験・実習を含んだ内容で学ぶ。</p>	

技術科内容基礎講義（電気）	<p>電気に関する基礎的な現象を理解し、基礎的なパラメータ計算（電流、電圧、電力など）を計算することができ、電気に関する現象として静電気や磁気に関わる基礎的な現象を理解し、電気回路の受動的要素のコンデンサやコイルを使った交流回路の基礎的な動作を理解することを目標とする。</p> <p>電気現象を学ぶ上で基礎となる起電力・抵抗からなる電気回路について基本的な要素から学習をする。また、日常生活の中で電気と関わる現象や電気の安全な使い方についても扱うことで、電気に関する興味関心を高める。</p> <p>電気に関する現象として静電気や磁気に関わる現象を学習し、電気回路の受動的要素のコンデンサやコイルを使った交流回路の基礎を学習する。</p>	
技術科内容応用講義（電気）	<p>ダイオード・トランジスタなどの半導体素子、および基礎的な各種の電子部品（コンデンサ・コイル・太陽電池・プザー・リレーなど）の動作原理・特性を学習する。また、それらを使った簡単な電子回路の設計方法についても学習する。</p>	
技術科内容実験実習（電気）	<p>（到達目標）</p> <p>①電気に関する基礎的な現象を理解し、実験を通して理解できる。 ②電気に関する計測装置の使い方を理解し、安全に適切に利用できる。 ③測定装置の特性を理解し、測定結果の補正方法を理解して実験結果を補正する。</p> <p>（概要）</p> <p>電気回路の基礎的な内容（直流・交流）について実験を通じて学ぶ。回路計（電圧・電流・抵抗測定）などの基本的な計測機器の使用方法を学ぶ。電気技術基礎の内容と連動させることで電気に関する理解を深める。</p>	
技術科内容基礎講義（栽培）	<p>教材植物の分類・生理・環境適応性など、栽培学の基礎を学ぶ。また、主要な栽培技術である、施肥、病害虫・雑草防除、開花制御などについて理解を深めるとともに、新しい生産技術である植物工場・植物バイオテクノロジーなどについても解説する。一部、植物栽培と観察体験を取り入れ、学習を深める。さらに、東北地方の農業や食文化を考える教材として地域在来作物を紹介する。</p>	
技術科内容応用講義（栽培／生物育成）	<p>「技術科内容基礎講義（栽培）」「技術科内容実験実習（栽培）」では扱えなかった多様な教材作物の生理的特性・栽培技術について、より深く学ぶ。また、新しい生産技術である植物工場・植物バイオテクノロジーなどについて解説するとともに、計測機器やソフトウェアを活用した作物生長評価技術も体験する。さらに、学習指導要領に含まれる家畜・魚類の飼育技術にも触れる。</p>	
技術科内容実験実習（栽培）	<p>食用作物、野菜（果菜類、葉菜類、根菜類）、花卉などの多種類の作物について、播種から定植・管理・収穫までの一連の技術を体験的に学習する。また、栽培試験を行い、作物実験の基礎を学ぶ。なるべく化学農薬を使わない栽培を実践する中で、安全な食料を生産するための技術について考える。</p>	
技術科内容基礎講義（情報とコンピュータ）	<p>（到達目標）</p> <p>①画像のデジタル化、文字情報のデジタル化（コード化）の方法を理解している。 ②論理演算・論理回路の原理を理解している。 ③A/D・D/A変換器の原理と実際の活用方法時について理解している。</p> <p>（概要）</p> <p>電子計算機の基礎として、デジタル化による情報処理について学ぶ。論理演算と論理回路による情報処理方法を学ぶ。応用的な利用としてA/D/D A変換機の原理やセンサ技術とコンピュータの関わりからコンピュータの活用について学ぶ。</p>	

技術科内容応用講義 (情報とコンピュータ)	コンピュータの基本アプリケーションの活用から始め、パワーポイントを使ったイラスト・動画作成の学習でコンピュータ活用能力を高める。デジタル回路・センサ回路を使ったコンピュータ制御技術や通信に関する技術の基礎を学ぶ。	
技術科内容実験実習 (情報とコンピュータ)	コンピュータを使ったプレゼンテーション技術の基礎から始め、図形処理・画像処理アプリケーションの演習を行う。 マイコンボードによってプログラミング学習の基礎を学び、ロボットキットを用いて簡単なロボット製作と課題解決のためのプログラミングとしての応用的な学習を行う。	
中等技術科内容構成基礎論	(概要) 中学校の技術科の指導内容について、学術的な背景と教育との関連を講義と演習を通して学ぶ。 (オムニバス方式/15回) (36安藤明伸/2回) 情報と生活/情報と社会 (60板垣翔大/2回) 木材加工と生活/木材加工と社会 (27門田和雄/3回) 金属加工と生活・社会/機械と生活/機械と社会 (61水谷好成/3回) 電気と生活/電気と社会/小学校での電気との関わり (36安藤明伸・60板垣翔大/5回) (共同) ガイダンス/学習指導要領と教科書/総合的な演習:設計/総合的な演習:製作/まとめと振り返り	オムニバス方式・共同 (一部)
技術科内容講義 (材料と加工)	木材、プラスチック、木質材料及び金属が有する特性および機械的性質を学ぶとともに、その特長を活かした作品製作の実践を通してものづくりの技能を習得する。各種機械加工法にも触れ、ものづくりの技術・技能を活かした教材・教具づくりを実践し、様々な教材開発に応用できる力を身につける。3Dプリンタやレーザー加工機などを活用したデジタルファブリケーションについて、一部で実習を取り入れる。	共同
家庭科内容講義 (家庭経営学)	私たちは多様な家族を形成し、ひとりひとりが一定の役割を担いながら家庭での生活を持続的に経営している。しかし、家庭とは家族だけの閉じられた環境ではなく、社会環境から様々な影響を受け、日々変化していくものである。そのため、私たちには現代社会の抱える困難と向き合いながら、主体的に生活経営する能力が求められている。そこでこの授業では、今日の家庭環境が形成されてきた歴史過程を学ぶとともに、現代の家庭生活に生じている問題を多面的に検討していく。	
家庭科内容講義 (被服学A)	学生が中等家庭科の被服領域を教授するのに必要な専門的知識を自然科学の視点から習得し、衣生活を快適に過ごすための能力も併せて身につけることを目標とする。繊維・糸・布についての種類や構造、性質、製造方法等を概説し、豊かな衣生活を過ごすための実践方法について考察する。	
家庭科内容講義 (被服学B)	学生が家庭科の被服領域を教授するのに必要な専門的知識を自然科学の視点から概説する。衣服の機能性に影響を与える影響について、素材・糸・布についての種類や構造、性質、製造方法等を概説し、豊かな衣生活を過ごすための実践方法について考察する。	

家庭科内容実験実習（被服学A）	人体と被服の関係を考慮し、被服構成について学び実習する。被服製作を行い、家庭科教育衣生活領域における被服の知識、技術の基礎、応用を身につける。立体構成としての作品(秋冬もの裏付きセミタイトスカート、半袖ブラウス)を製作し、作品製作を通し、被服構成について、また縫製についての基礎、応用を学ぶ。	
家庭科内容実験実習（被服学B）	ものづくり技術の原理が理解でき、確かな技能を身につけることを目標とする。「ものづくりを」を通して、技能（操作法）の習得とものづくりにある原理・原則について学習する。最終的には繊維・糸・布の基本的な性質および構造について把握する。	
家庭科内容講義（食物学A）	私たちが食する食べ物の身体における代謝過程を理解することを目指す。食品の科学的性質、消化と吸収、栄養素と体内での代謝について解説する。	
家庭科内容講義（食物学B）	私たちの食生活の成り立ちを日本の食の歴史、現在の世界の食生活や食環境を通じて知ることにより、持続可能で栄養バランスの取れた健康的な食生活とはどのような食生活を考える。また、現在の自分自身の食生活を振り返り、これからの食生活のあり方についても考えていく。	
家庭科内容実験実習（食物学A）	様々な食品の性質に及ぼす成分について理解し、衛生面も含めた基本的な調理を身につけることを目標とする。調理における食品成分の役割について実験を行なうとともに、基本的な調理を行う。	
家庭科内容実験実習（食物学B）	調理に必要な感覚を意識し、加工に関わる実験や応用調理を通して調理技術を養う。官能評価実験、手作り食品と市販品との比較や応用的な調理実習を行う。	
家庭科内容講義（住居学A）	家庭科の住居学に関する専門的内容を理解し、授業づくりに反映するための基礎を習得する。住居の成り立ちや役割について、生活、社会、環境、技術などさまざまな観点から分析し、理解を深める。また、日常の生活空間における課題から、今後の住居の在り方を検討する。	
家庭科内容講義（住居学B）	本科目では、住環境形成のしくみや、健康・快適・省エネルギーな調整の方法について学習する。特に、遮音・音響、採光・照明、換気・通風、断熱・省エネルギー、湿気・結露といった事象を通して、家庭科の住居学に関する専門的内容を理解し、授業づくりに反映するための基礎を習得することを目的とする。基礎原理に基づく対処法の検討を行う技術習得のために、身近な空間の環境計測・評価を行う。	
家庭科内容実験実習（住居学A）	住居空間を、図法を踏まえて作図表現でき、また図面から設計意図を読みとることができるようになることを目標とする。住居形態に関する思想的背景や住居空間から生じる生活行為、家具配置、室内環境について取り上げながら、手書きおよびCADによる製図練習および設計を行う。	
家庭科内容実験実習（住居学B）	住居の仕組みや働きに関して、計測機器の特性を考慮しながら実験・調査することができるようになることを目標とする。住居環境、住居構造に関する実験・調査に基づいて、レポート・発表を行う。	

<p>家庭科内容講義（保育学A）</p>	<p>本科目では、家庭科教育の「A家族生活と家族」分野の内、保育領域に焦点を当て、その指導に必要とされる知識を身につける。とくに、生涯発達の見地に立ち、人の発達や生活における諸様相とその特徴を理解し、そこで求められる適切な保育者の援助や環境構成の在り方について検討を行い、専門的知識の修得を目指す。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（78香曾我部琢／14回） オリエンテーション：発達とは何か・保育とは何か／新生児、乳児期の発達と発育の特徴／幼児期の発達と発育の特徴／児童期～成人期の発達、生涯発達とは／言語と概念の発達／社会的認知の発達／他者との関係発達／自己形成／五感の発達／脳神経科学の見地で発達を捉える／社会・文化心理学の見地で発達を捉える／比較行動学・進化心理学の見地で発達を捉える／発達理論の歴史的変遷／保育における発達・遊びの発達</p> <p>（9橋本潤一郎／1回） 乳幼児期における看護と養護</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>家庭科内容講義（保育学B）</p>	<p>少子化、経済活動の悪化など、現代においては家族を取り巻く社会的な状況が急激に、多様に変化している。そのような中で、保育者に子育て家庭に対する支援が求められてきた。本科目では、（1）子育て家庭を取り巻く社会的状況の在り方や歴史的な変遷を調査し、そこでどのような支援が保育所・幼稚園に求められているのか検討を行う。そして、（2）これから保育者に求められる専門性について理解する。さらに、（3）保育に携わる者の専門性育成に関する時間的展望を把握することを目指す。</p>	
<p>家庭科内容実験実習（保育学A）</p>	<p>本科目では、家庭科教育の「A家族生活と家族」分野の内、保育領域に焦点を当て、その指導に必要とされる知識を身につける。とくに、生涯発達の見地に立ち、人の発達や生活における諸様相とその特徴を理解し、そこで求められる適切な保育者の援助や環境構成の在り方について検討を行い、専門的知識の修得を目指す。</p>	
<p>家庭科内容実験実習（保育学B）</p>	<p>保育所幼稚園、子育て支援センターなどにおける保育・幼児教育の実践場面をもとに、乳幼児の発達や成長、保育者の役割や援助などについて、受講者一人一人が焦点化して、質的・量的な研究技法を用いて分析を行う。そして、その結果と考察をもとに、家庭科学習の保育・家族領域の授業づくりを行う。</p>	
<p>家庭科内容講義（家庭電気）</p>	<p>（概要） 電気・磁気現象に関する基礎知識を身につけることを目標とする。家庭における電気やその関連機器の基礎的性質等について学習する。</p> <p>授業計画 第1回：電気の性質・静電気（電気の性質の基礎） 第2回：電気の性質・静電気（静電気） 第3回：電気回路の電流と電圧（直流と交流、オームの法則） 第4回：電気回路の計算（電流の分流、電圧の分圧） 第5回：電気回路の計算（キルヒホッフの法則） 第6回：電気抵抗の性質 第7回：消費電力と発生熱量 第8回：電流の化学作用と電池 第9回：磁石とクーロンの法則（電磁気の基礎） 第10回：磁石とクーロンの法則（クーロンの法則と電子の動き） 第11回：電流による磁界 第12回：磁界中の電流に働く力 第13回：電磁誘導 第14回：簡単な直流モータの作成 第15回：まとめ・確認</p>	

<p>家庭科内容講義（家庭機械）</p>	<p>（概要） ものづくり技術の原理が理解できることを目標とする。機械の進歩、エネルギーと機械、機械材料、運動機構、機械制御などについて学ぶ。</p> <p>授業計画 第1回：機械の進歩： 道具から機械へ、自動化、ロボット化への進歩 第2回：エネルギーと機械： 力学的エネルギーと機械運動 第3回：機械材料の特徴、加工： 金属、非金属材料の特徴とその用途と加工 第4回：機械材料の強度： 材料および構造物の強度 第5回：機械における流体の働き： 流体の特徴と性質 第6回：流体のエネルギーを利用した機械： 各種流体機械の構成と用途 第7回：機械における熱の働き： 熱の性質 第8回：熱のエネルギーを利用した機械： 内燃機関の構造 第9回：前半のまとめと復習（中間試験） 第10回：機械要素： 運動伝達要素、締結部品の種類と利用法 第11回：機械の運動1： 歯車、カム要素を用いた機構 第12回：機械の運動2： リンク機構を用いた運動機構 第13回：機械の制御1： 身近な機械の運動とその制御 第14回：機械の制御2： センサの種類と用途、コンピュータ制御 第15回：まとめ（期末試験）と振り返り</p>	
<p>家庭科内容講義（情報処理）</p>	<p>児童生徒に学ばせたいコンピュータ・サイエンスとデータ・サイエンスについて理解し、指導や活用のイメージを持つことができるようになることを目標とする。 情報の科学的な理解として、コンピュータの動作原理であるコンピュータ・サイエンスについて、情報モラルやセキュリティについて、そして教育データを対象として指導上の参考にするためにデータ・サイエンスを教員としてどのように活用できるのかAIのプログラミングを通して学ぶ。</p>	
<p>中等家庭科内容構成基礎論</p>	<p>（概要） 本科目では、中学校技術・家庭の家庭分野を総括的に理解し、中学校における家庭科の役割を認識することを主要な学習到達目標とする。 授業では、家庭生活について、「食生活、衣生活、住生活の見直しと改善」、「子どもと家族、幼児の遊び、地域の人々とのふれあい、環境や資源を考えた暮らし」等を取り上げ、各々の内容に関する授業の組み立てについて講義する。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（5 小野寺泰子／3回） ガイダンス／家庭科の歴史、法規／学習指導要領について</p> <p>（7 8 香曾我部琢／3回） 変容する家族、家庭生活／幼児の生活と家族法／家族・家庭や地域との関わり</p> <p>（7 亀井文／3回） 食事の役割と中学生の栄養の特徴／中学生に必要な栄養を満たす食事／日常食の調理と地域の食文化</p> <p>（1 6 西川重和／3回）衣服の成り立ち／衣服の選択と手入れ／生活を豊かにするための布を用いた製作</p> <p>（2 9 菅原正則／3回） 家族の生活と住空間との関わり／家族の安全を考えた住空間の整え方／環境に配慮した住まい方</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>家庭科内容講義（家庭科教育）</p>	<p>（概要） 「家族・家庭生活」、「衣食住の生活（食生活、衣生活、住生活）」、「消費生活・環境」の三つの基本的な知識を身につけ、中学校において各々の分野に関する授業を組み立てる理論について講義を行う。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（78 香曾我部琢／6回） ガイダンス（中学校及び高等学校家庭科の内容全般について解説）／家庭科学習指導要領の歴史の変遷／学習指導要領の学術的背景／世界の家庭科教育／乳幼児の発達の基礎理論／現代社会における家族・家庭の重要性</p> <p>（7 亀井文／3回） 中学校家庭科における食生活の年間計画／栄養に関する基礎理論／調理の科学と技術</p> <p>（16 西川重和／3回） 中学校家庭科における衣生活の年間計画／衣服の機能と基礎理論／縫製や編織の基礎理論</p> <p>（29 菅原正則／3回） 中学校家庭科における年間計画／建築の理論と実際／安全で快適な住まいとは</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>家庭科内容演習（家庭科教育）</p>	<p>（概要） 家庭科教育を支える基礎的な研究論文の抄読と家庭科の授業への展開を考える。各領域の研究に関わる研究論文や専門書を取り上げ、内容紹介や討論を通して理解を深める。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（5 小野寺泰子／3回） 導入（家庭科教育）／展開（家庭科教育）／演習（家庭科教育）</p> <p>（16 西川重和／3回） 導入（被服）／展開（被服）／演習（被服）</p> <p>（7 亀井文／3回） 導入（食物）／展開（食物）／演習（食物）</p> <p>（29 菅原正則／3回） 導入（住居）／展開（住居）／演習（住居）</p> <p>（78 香曾我部琢／3回） 導入（保育）／展開（保育）／演習（保育）</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>英語科内容概論（英語学）</p>	<p>（概要） 学校英文法の基礎となっている英語学の基本的知識を学習する。テキストを使いながらも、パワポを利用した講義を行う。</p> <p>授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：近代言語学の始まり 第3回：グリムの法則・大母音推移など近代言語学の発展で得られた英語史の知見 第4回：ソシュールの記号論と言語学 第5回：構造主義言語学と20世紀の言語学展望 第6回：アメリカ構造主義言語学とその統語論 第7回：変形生成文法の言語観と統語論 第8回：言語学と科学方法論 第9回：英語音声学・音韻論 第10回：英語形態論 第11回：意味論 第12回：語用論 第13回：ウィトゲンシュタイン哲学と意味論・語用論 第14回：語用論 第15回：日英言語文化論・定期試験</p>	

英語科内容講義 (英語学)	音声学について学ぶことをとおして、英語音声について理解を深めるとともに、自らが英語を運用したり生徒に指導を行ったりするために必要な音声学に関する基礎的な知識と技能を身につけることができる。英語に関する基礎的な知識および技能のうち、英語の音声を構成する要素とその特徴、日本語音声との違いについて学ぶ。	
英語科内容演習 (英語学A)	英語学における意味論について、意味とは何か、構成的意味と非構成的意味、内包と外延など意味論の基礎を教科書を読みながら学習する。具体的には、イントロダクションを経て「意味」とは何を意味するのか。語・概念・指示物(語、指示物、外延)、「構成的意味と非構成的意味(意味論の意味、語用論の意味、多義性)」、「語と語の関係(記憶語彙、上下関係、内包)」、「同じか異なるのか(同音異義語、言語コーパス、使用域)」を取り上げ、学んでいく。	
英語科内容演習 (英語学B)	(概要) 英語学語用論を学習する。テキストを講読しながら、演習を行う。 授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：言語による意図の表現、発話行為について、発話行為の詳細 第3回：発話行為の分類について 第4回：発話行為の分類 第5回：直接・間接発話行為 第6回：適切性の条件 第7回：発話の意味解釈 第8回：語用論の原則を求めて、協調の原則 第9回：協調の原則と会話の公理 第10回：会話の公理と会話の含意 第11回：ポライトネス 第12回：結論 第13回：さらに読み進めるために 第14回：基本レベルの練習問題 第15回：上級レベルの練習問題・定期試験	
英語科内容概論 (英語文学)	英語文学を代表する作品の文学史的な位置を知り、実際に作品を読んで英語表現を理解する力を養い、作者の生涯や作品の文化的背景について学び、広い文化的視野から作品理解を深める力を養う。イギリス文学(およびアイルランド文学)の作品を中心に取り上げ、各作品の重要な箇所は原文を読む。作品の背景に言及しながら、できるだけ多方面から作品を分析する。対象作品は英語文学を代表し、かつ日本においても良く知られる作品を取り上げる。	
英語科内容講義 (英語文学)	英語文学作品に共通する特定のテーマについて学び、作品を分析的に理解する力を養う。テキストをもとに英語文学を代表するさまざまな作家の文章を特定のテーマから分析し、作品の技法(表現、物語構成など)や作品の文化的背景について考察する。	
英語科内容演習 (英語文学A)	英語文学の作品を精読し、様々な英語表現を学び、正確に英語を読み取る能力を身につけるとともに、英米の歴史や文化に対する理解を深める。授業では、英語文学の短編を題材に語学的、文学的側面から作品を読む。各授業回において、英文和訳、重要な語法、文法などの確認を随時行ない、コメント、ディスカッションをはさみながら作品を読み進めていく。毎回指定の担当者が担当箇所の発表、コメントを行う。	
英語科内容演習 (英語文学B)	英語文学の作品を精読し、様々な英語表現を学び、正確に英語を読み取る能力を身につけるとともに、英米の歴史や文化に対する理解を深める。英語文学の短編を題材に、語学的、文学的側面から作品を読む。英文和訳、重要な語法、文法などの確認を随時行ない、コメント、ディスカッションをはさみながら作品を読み進めていく。毎回指定の担当者が担当箇所の発表、コメントを行う。	

<p>英語科内容基礎演習（英会話A）</p>	<p>（概要） 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと 「やり取り」ができるようになることを目標とする。様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話す。</p> <p>授業計画 第1回：最近の気になるニュースについて語る・意見の述べ方 第2回：ニュースについての質問の仕方・ニュースについて話し合う 第3回：自分の趣味や興味を持っているものについて語る 第4回：コミュニケーションのとり方について話し合う 第5回：復習 ロールプレイ（初対面の会話、等） 第6回：料理について語る・好きなレストランやカフェなどを紹介する 第7回：料理の作り方を他人に教える・将来の食事について話し合う 第8回：未来の予想や期待について語る 第9回：架空のシチュエーションについて話し合う 第10回：復習 ロールプレイ（レストランでの注文、等） 第11回：行きたい大都市について語る 第12回：住んでいる町の祭りについて話し合う 第13回：人の性格について語る 第14回：将来の希望について話し合う 第15回：復習 ロールプレイ（誕生日パーティーの計画、等）</p>	
<p>英語科内容基礎演習（英会話B）</p>	<p>（概要） 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと 「やり取り」ができるようになることを目標とする。様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話す。</p> <p>授業計画 第1回：世界を変えた発明品について語る 第2回：様々な問題の解決方法について話し合う 第3回：過去の問題や後悔していることについて語る 第4回：過去の経験や出来事の結果について話し合う 第5回：復習 ロールプレイ（謝罪の会話、等） 第6回：毎日の習慣について語る 第7回：未解決ミステリーについて話し合う 第8回：交通安全や交通事故について語る 第9回：交通事故などの問題の様々な観点について話し合う 第10回：復習 ロールプレイ（犯罪目撃者と警察官の会話、等） 第11回：物事を成し遂げることについて語る 第12回：将来の仕事について話し合う 第13回：環境問題について語る 第14回：地元の環境問題の意識について話し合う 第15回：復習 ロールプレイ（不法投棄をした人と目撃者の会話、等）</p>	

<p>英語科内容基礎演習（英会話C）</p>	<p>(概要) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと [やり取り] ができるようになることを目標とする。様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話す。</p> <p>授業計画 第1回：自己紹介のやり方 第2回：友情 リスニング、リーディング、語彙の確認 第3回：友情についてのタスク・ディスカッション 第4回：恐れていること リスニング、リーディング、語彙の確認 第5回：恐れていることについてのタスク・ディスカッション 第6回：復習・生徒によるロールプレイ（初対面の会話、等） 第7回：健康 リスニング、リーディング、語彙の確認 第8回：健康についてのタスク・ディスカッション 第9回：復習・生徒によるロールプレイ（病院での会話、等） 第10回：人生を変える経験 リスニング、リーディング、語彙の確認 第11回：人生を変える経験についてのタスク・ディスカッション 第12回：復習・生徒によるロールプレイ（仕事の面接、等） 第13回：成功すること リスニング、リーディング、語彙の確認 第14回：成功することについてのタスク・ディスカッション 第15回：復習・生徒によるロールプレイ（ビジネスミーティングの会話、等）、復習テスト</p>	
<p>英語科内容基礎演習（英会話D）</p>	<p>(概要) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと [やり取り] ができるようになることを目標とする。様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話す。</p> <p>授業計画 第1回：自己紹介、ディスカッションの基本表現の確認 第2回：消費者運動（Consumerism） リスニング、リーディング、語彙の確認 第3回：消費者運動についてのタスク・ディスカッション 第4回：美術 リスニング、リーディング、語彙の確認 第5回：美術についてのタスク・ディスカッション 第6回：復習・生徒によるロールプレイ（美術についての会話、等） 第7回：協力活動 リスニング、リーディング、語彙の確認 第8回：協力活動についてのタスク・ディスカッション 第9回：復習・生徒によるロールプレイ（仕事関係の交渉の会話、等） 第10回：生存者（Survival） リスニング、リーディング、語彙の確認 第11回：生存者についてのタスク・ディスカッション 第12回：復習・生徒によるロールプレイ（登山中で迷子になった場合の会話、等） 第13回：社会改革 リスニング、リーディング、語彙の確認 第14回：社会改革についてのタスク・ディスカッション 第15回：復習・生徒によるロールプレイ（社会問題についてのペーパープレゼンテーション、等）、復習テスト</p>	

<p>英語科内容演習（英会話A）</p>	<p>（概要） 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと [やり取り]ができるようになることを目標とする。様々な話題につ いて、目的や場面、状況等に応じて英語で話す。</p> <p>授業計画 第1回：コース説明、人と人の対話（ボディランゲージについて） 第2回：人と人の対話（相手の言っていることに興味があるとの示し 方について） 第3回：時間（デジャブの表現について） 第4回：時間（相手の話についての質問の表現、謝り方の表現につ いて） 第5回：復習クイズ、初対面などのロールプレイ発表 第6回：学習（テクノロジーに関する表現について） 第7回：学習（面白い経験やイベントなどに関する表現について） 第8回：旅行（南米での旅、事実と意見の区別について） 第9回：旅行（道案内、地図の読み方について） 第10回：復習クイズ、テクノロジーなどについてのディベート発表 第11回：家庭（年上・年下に対する話かたの違いについて） 第12回：家庭（招待の仕方、招待の受け入れ方の表現について） 第13回：自分（自分の性格に関する表現について） 第14回：自分（絵や写真の説明する表現について） 第15回：復習クイズ、友人が結婚するなどのロールプレイ発表</p>	
<p>英語科内容演習（英会話B）</p>	<p>（概要） 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと [やり取り]ができるようになることを目標とする。様々な話題につ いて、目的や場面、状況等に応じて英語で話す。</p> <p>授業計画 第1回：コース説明、予測（将来に関する問題や心配の表現につ いて） 第2回：予測（他人との反対意見の表現について） 第3回：消費者（カスタマーセンターへの電話の表現、贈り物を注文 する際の表現について） 第4回：消費者（人への頼み方、プレゼント交換について） 第5回：復習クイズ、友人の誕生日などのロールプレイ発表 第6回：職業（タクシーの乗り方について） 第7回：職業（第一印象の重要性、人を手伝う時に使う表現につ いて） 第8回：情報（新聞やテレビなどの情報、人やものを比較することに ついて） 第9回：情報（フィードバックの与え方について） 第10回：復習クイズ、ビジネス会話などのロールプレイ発表 第11回：物語（映画や本の人物について） 第12回：物語（人の話を中断するときの表現について） 第13回：感情（人の感情を説明する表現について） 第14回：感情（最近のニュースに関する意見や感情の表現につ いて） 第15回：復習クイズ、友人が妊娠した話などのロールプレイ発表</p>	

<p>英語科内容演習（英会話C）</p>	<p>(概要) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと [やり取り]ができるようになることを目標とする。様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話す。</p> <p>授業計画 第1回：コース説明、達成感（面接にての質問や答え方について） 第2回：達成感（物事についての問い合わせの表現について） 第3回：ニュース（新聞に載っているイベントの説明について） 第4回：ニュース（テレビニュースについての反応について） 第5回：復習クイズ、最近のニュースなどについてのディベート発表 第6回：世界への探検（探検家にて話し合う） 第7回：世界への探検（会話の中断と再会について） 第8回：テクノロジー（電化製品などの使い方の説明について） 第9回：テクノロジー（物事の説明の求め方について） 第10回：復習クイズ、テレビの最新モデルの購入などについてのロールプレイ発表 第11回：人類の生存（防災教育について） 第12回：人類の生存（アドバイスの求め方や与え方について） 第13回：流行り（昔と最近のファッションについて） 第14回：流行り（他人の意見の求め方について） 第15回：復習クイズ、友人が結婚するなどのロールプレイ発表</p>	
<p>英語科内容演習（英会話D）</p>	<p>(概要) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと [やり取り]ができるようになることを目標とする。様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話す。</p> <p>授業計画 第1回：コース説明、環境（物事の類似点と相違点について） 第2回：環境（苦情の表現について） 第3回：世界の変化（テクノロジーの進化について） 第4回：世界の変化（将来に関する推測について） 第5回：復習クイズ、環境問題などについてのディベート発表 第6回：映画（良い映画とは何かについての話し合い） 第7回：映画（批判の受け方や与え方の表現について） 第8回：ミステリー（過去と現在に関するミステリーについて） 第9回：ミステリー（他人の失敗を修正する際の表現について） 第10回：復習クイズ、映画鑑賞などについてのロールプレイ発表 第11回：希望（希望や後悔について話し合う） 第12回：希望（過去の失敗に関する謝り方の表現について） 第13回：知恵（直接話法・間接話法について） 第14回：知恵（支持の与え方や応答仕方の表現について） 第15回：復習クイズ、幼馴染との再会などのロールプレイ発表</p>	

<p>英語科内容基礎演習（英作文A）</p>	<p>(概要) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語を読んで、英語で書くことができるようになることを目標とする。様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語を読んで、英語で書く。</p> <p>授業計画 第1回：ユニット1（1）（pp. 1-8）The paragraphの基本構成について 第2回：ユニット1（2）（pp. 9-14）Unity と Coherence 第3回：ユニット1（3）（pp. 15-19）Paragraphからshort essayへ 第4回：ユニット1（4）（pp. 20-23）英作文の内容確認や編集1 第5回：ユニット1復習（pp. 24-26）・作文提出1 第6回：ユニット2（1）（pp. 27-31）Descriptive Essays に基本構成について 第7回：ユニット2（1）（pp. 32-36）Descriptive essay の Brainstorming と Outlining 第8回：ユニット2（1）（pp. 37-42）Descriptive essay の内容の発展 第9回：ユニット2（1）（pp. 43-47）英作文の内容確認や編集2 第10回：ユニット2復習（pp. 48-52）・作文提出2 第11回：ユニット3（1）（pp. 53-56）Narrative Essays に基本構成について 第12回：ユニット3（2）（pp. 57-60）Narrative essay の Brainstorming と Outlining 第13回：ユニット3（3）（pp. 61-66）Narrative essay の内容の発展 第14回：ユニット3（4）（pp. 67-72）英作文の内容確認や編集3 第15回：ユニット3復習（pp. 73-78）・作文提出3</p>	
<p>英語科内容基礎演習（英作文B）</p>	<p>(概要) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語を読んで、英語で書くことができるようになることを目標とする。様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語を読んで、英語で書く。</p> <p>授業計画 第1回：ユニット4（1）（pp. 79-83）Comparison-Contrast Essays の基本構成について 第2回：ユニット4（2）（pp. 84-88）Comparison-Contrast Essays の Brainstorming と Outlining 第3回：ユニット4（3）（pp. 89-93）Comparison-Contrast Essays の内容の発展 第4回：ユニット4（4）（pp. 94-97）Comparison-Contrast Essays の内容確認や編集 第5回：ユニット4復習（pp. 98-102）・作文提出1 第6回：ユニット5（1）（pp. 103-107）Opinion Essays に基本構成について 第7回：ユニット5（2）（pp. 108-112）Opinion essay の Brainstorming と Outlining 第8回：ユニット5（3）（pp. 113-118）Opinion essay の内容の発展 第9回：ユニット5（4）（pp. 119-122）Opinion essay の内容確認や編集 第10回：ユニット5復習（pp. 123-129）・作文提出2 第11回：ユニット6（1）（pp. 129-132）Cause & Effect Essays に基本構成について 第12回：ユニット6（2）（pp. 133-141）Cause & Effect essay の Brainstorming と Outlining 第13回：ユニット6（3）（pp. 142-146）Cause & Effect essay の内容の発展 第14回：ユニット6（4）（pp. 147-151）Cause & Effect essay の内容確認や編集 第15回：ユニット6復習（pp. 152-158）・作文提出3</p>	

英語科内容演習 (英作文A)	<p>(概要) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語を読んで、英語で書くことができるようになることを目標とする。様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語を読んで、英語で書く。</p> <p>授業計画 第1回：ユニット1 (1) (pp. 1-8) エッセイの基本構成について 第2回：ユニット1 (2) (pp. 9-14) エッセイの計画 第3回：ユニット1 (3) (pp. 15-22) エッセイの Unity & Coherence 第4回：ユニット1 (4) (pp. 23-28) エッセイの内容確認や編集 第5回：ユニット1 復習 (pp. 29-34) ・作文提出1 第6回：ユニット2 (1) (pp. 35-40) Comparison-Contrast Essays に基本構成について 第7回：ユニット2 (2) (pp. 41-50) Comparison-Contrast Essays の Brainstorming と Outlining 第8回：ユニット2 (3) (pp. 51-55) Comparison-Contrast Essaysの内容の発展 第9回：ユニット2 (4) (pp. 56-62) Comparison-Contrast Essaysの内容確認や編集 第10回：ユニット2 復習 (pp. 63-70) ・作文提出2 第11回：ユニット3 (1) (pp. 71-75) Cause & Effect Essays に基本構成について 第12回：ユニット3 (2) (pp. 76-85) Cause & Effect Essays の Brainstorming と Outlining 第13回：ユニット3 (3) (pp. 86-93) Cause & Effect Essays の内容の発展 第14回：ユニット3 (4) (pp. 94-97) Cause & Effect Essays の内容確認や編集 第15回：ユニット3 復習 (pp. 98-104) ・作文提出3</p>	
英語科内容演習 (英作文B)	<p>(概要) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語を読んで、英語で書くことができるようになることを目標とする。様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語を読んで、英語で書く。</p> <p>授業計画 第1回：ユニット4 (1) (pp. 105-109) 研究論文の基本構成の復習、Argumentative Essays の基本 第2回：ユニット4 (2) (pp. 110-121) Argumentative Essays の Brainstorming と Outlining 第3回：ユニット4 (3) (pp. 122-128) Argumentative Essays の内容の発展 第4回：ユニット4 (4) (pp. 129-133) Argumentative Essaysの内容確認や編集 第5回：ユニット4 復習 (pp. 134-140) ・作文提出1 第6回：ユニット5 (1) (pp. 141-146) Classification Essays に基本構成について 第7回：ユニット5 (2) (pp. 147-156) Classification Essays の Brainstorming と Outlining 第8回：ユニット5 (3) (pp. 157-163) Classification Essaysの内容の発展 第9回：ユニット5 (4) (pp. 164-169) Classification Essays の内容確認や編集 第10回：ユニット5 復習 (pp. 170-176) ・作文提出2 第11回：ユニット6 (1) (pp. 177-183) Reaction Essays に基本構成について 第12回：ユニット6 (2) (pp. 184-189) Reaction Essays の Brainstorming と Outlining 第13回：ユニット6 (3) (pp. 190-196) Reaction Essays の内容の発展 第14回：ユニット6 (4) (pp. 197-201) Reaction Essays の内容確認や編集 第15回：ユニット6 復習 (pp. 202-210) ・作文提出3</p>	

<p>英語科内容演習（プレゼンテーション）</p>	<p>(概要) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと〔発表〕ができるようになることを目標とする。様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて発表をする。</p> <p>授業計画 第1回：上手にプレゼンテーションができる人と上手にできない人の違いについて 第2回：プレゼンテーションの基本構成、プレゼンテーションでの引用の仕方 第3回：Introduction（導入の仕方、背景知識、thesis statement） 第4回：プレゼンテーション1—Introduction（3分程度） 第5回：The Body 1（planning the body） 第6回：The Body 2（creating the main story） 第7回：プレゼンテーション2—The Body（8分程度） 第8回：Conclusion（Introductionとの繋がり、印象的な終わり方） 第9回：プレゼンテーション3—Conclusion（3分程度） 第10回：質問の答え方、準備時間のほぼないプレゼンテーション 第11回：プレゼンテーション4—Impromptu Speeches（2分程度 x 2） 第12回：スライドデザイン1（文字の大きさ、色、フォント、等） 第13回：スライドデザイン2（アニメーションの使い方、写真やビデオの使い方） 第14回：聞く側に合わせる方法、パイリンガルのプレゼンテーション、ユーモアの使い方 第15回：最終プレゼンテーション（15分程度）</p>	
<p>英語科内容概論（異文化理解）</p>	<p>英語圏の文化を扱った文献を講読し、英語圏の文化についての基本的な理解を深めつつ、多様な文化に触れ、異文化コミュニケーションに積極的に取り組む姿勢を身につけることを目標とする。イギリスの社会を概説したテキストをもとに毎回個別のテーマを設定して考察を進め、広く英語圏の文化への基本的な理解を深める。</p>	
<p>英語科内容演習（異文化理解）</p>	<p>(概要) 言語から文化まで日本語と英語を中心に違いを理解することを目標とする。テキストを講読しながら、演習を行う。</p> <p>授業計画 第1回：表情とアイコンタクト 第2回：身振りと手振り 第3回：対人距離 第4回：時間の概念 第5回：男女のコミュニケーション・スタイル 第6回：文化とコミュニケーション・スタイル 第7回：自己開示 第8回：自分の意見や考えを主張する 第9回：アクティブ・リスニング 第10回：問題の解決 第11回：価値観の違い 第12回：自文化中心主義 第13回：ステレオタイプ 第14回：偏見 第15回：差別・定期試験</p>	

<p>中等英語科内容構成基礎論</p>	<p>(概要) 中等英語科の指導において扱う内容について、英語学、英語文学、英語コミュニケーション、異文化理解の観点から、構成することができるようになることを目標とする。中等英語科の指導において扱う内容について、英語学、英語文学、英語コミュニケーション、異文化理解の観点から考えたり、検討したりする。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(25竹森徹士・45リースエイドリアン・57和田あずさ／1回) 中等英語科の指導内容はどのような構成になっているのか？</p> <p>(57和田あずさ／3回) 英語学の視点から—英語の音声の仕組み—／英語学の視点から—英文法の視点から—／英語学の視点から—英語の歴史的編成、国際共通語としての英語</p> <p>(25竹森徹士／3回) 英語文学の視点から—文学作品における英語表現—／英語文学の視点から—文学作品から見る多様な文化—／英語文学の視点から—英語で書かれた代表的な文学—</p> <p>(45リースエイドリアン／5回) 英語コミュニケーションの視点から—聞くこと—／英語コミュニケーションの視点から—読むこと—／英語コミュニケーションの視点から—話すこと（発表）—／英語コミュニケーションの視点から—話すこと（やり取り）—／英語コミュニケーションの視点から—書くこと—</p> <p>(45リースエイドリアン・57和田あずさ／3回) 異文化理解の視点から—異文化コミュニケーション—／異文化理解の視点から—異文化交流—／異文化理解の視点から—英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化—</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>
<p>幼年期の育ちと学び</p>	<p>就学前から小学校低学年にかけての子どもについて、教育的観点からその育ちと学びについて考察する。教育・保育・発達に関する原理・原則を理解することで人間形成を広い視野から捉える教養を身に付け、今後の修学の基盤を築いていく。実践を支える理論的な基礎を構築するために、子ども観や教育理念の歴史的・社会的変遷、遊びと学びの理論、保育・教育制度、教育内容論や方法論などについて、その概要を解説する。</p>	
<p>幼年期の心理学</p>	<p>幼児を理解し、支援・指導したり、幼児期の育ちを引き継いで支援・指導する上で必要となる幼児期の発達について基本的知識を修得することを目指す。具体的には、人間の胎児期からの生涯発達のプロセスから発達の連続性について理解を深める。加えて、運動・言語・認知・社会性などの領域ごとの発達プロセスから、質的な変化とともに、連関する発達メカニズムについての知識を修得する。さらに、これらの学びを踏まえ、児童期へと続く発達と学びの連続性を保障する保育のあり方を考察していく。</p>	

<p>子どもの健康と安全</p>	<p>(概要) 小児保健領域では、保育施設、学校など小児と関わる現場において教師に必要な知識として、感染症や事故への対応と予防および健康上の配慮が必要な子どもへの対応等について理解を深める。 小児栄養領域では、栄養について基本的な知識を習得するとともに、乳児から幼年児童期の栄養に関する特性や、消化吸収機能・代謝機能が未熟であることからの栄養と食生活における留意点を理解する。 これらの理解を踏まえ、子どもの健康と安全を保障する教師の役割について考察していく。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (9 9 菱沼ゆう/6回) 子どもの保健の意義/子どもの発育・発達/子どもの生理機能の発達/子どもの主な病気/5環境と衛生管理・安全管理/子どもの生活と保健・健康教育</p> <p>(7 亀井文/9回) 発達と食/人間の体と栄養に関する基本的な知識①/人間の体と栄養に関する基本的な知識②/妊娠期・授乳期の母体の食生活/乳児期の食生活/幼児期の食生活/児童期の食生活/子どもの病態栄養/まとめ</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>子ども家庭福祉</p>	<p>子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷を理解しながら、子どもの人権擁護について学ぶ。現代社会における子どもの育つ環境を踏まえ、子ども家庭福祉の制度や課題について理解を深め、制度や法体系とともに、子ども家庭福祉の社会資源（サービス）について学んでいく。</p>	
<p>子どもの学びと文化</p>	<p>児童文化財の特徴や児童文化活動の目的と意義を把握するとともに、遊びを通して幼年期の子どもの発達を支援する方法、および学習の中に児童文化活動を取り入れる方法に関して理解を深めることを目的とする。具体的には、児童文化・子ども文化の概念や歴史、その内実について、また子どもの発達と遊びとのかかわりや学校教育と児童文化の関係について、文献を読み合いながら学ぶ。そのうえで、これからの児童文化活動はどうあるべきか、教育関係諸施設での観察や実践体験等も行いながら検討する。</p>	<p>共同</p>
<p>幼年期教育の歴史と理論</p>	<p>幼児期・児童期の教育をめぐる理論・実践の歴史的展開（西洋と日本）について解説する。子どもをめぐる意味づけ・価値づけ（子ども観）、教育思想、実践方法や制度について系統的に取りあげていく。幼年期教育の歴史的展開を把握するとともに、今日の理論と実践に寄与した思想家や実践家についての理解を深め、学生が自らの子ども観・教育観を深めていくための教養を磨いていく。</p>	
<p>幼年期教育創生研究</p>	<p>幼児期や児童期における“遊びを通しての学び”について、教材開発・保育・教育実践開発・プログラム開発のための理論的知見を身に付ける。実践を集録したビデオや画像、文献を利用して、幼児・児童理解を深めるとともに、環境構成や教師の援助、遊びと学びを繋ぐポイント、児童文化財、児童文化活動等について理解を深めていく。幼稚園実習や小学校実習に向けての実践技術の基礎基本を再確認する。</p>	<p>共同</p>

<p>地域教育課題と未来づくり教育</p>	<p>(概要) 地域社会と学校の関係のなかでいま、どのような教育課題が生じているのか。変動する社会の中で、未来をつくる子どもの資質能力はどのようにして育むことができるのか。発達・認知、学力、国際、自然との共生の観点から、子どもの学習要求・課題を踏まえ、教科横断的な教材開発・授業づくりを行う知見と方法論の基礎について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(67平真木夫・82久保順也・84越中康治／6回) 教育と心理学①／教育と心理学②／心理学分野の文献の読み方①／心理学分野の文献の読み方②／教育に関する心理学的研究の実際①／教育に関する心理学的研究の実際②</p> <p>(35溝田浩二・64齊藤千映美／4回) 地域の在来知に学ぶESD①／地域の在来知に学ぶESD②／人と自然の共生①／人と自然の共生②</p> <p>(17市瀬智紀・30高橋亜紀子／5回) 国連やOECDの考える未来の教育①／国連やOECDの考える未来の教育②／国連やOECDの考える未来の教育③／多文化共生社会の実現①／多文化共生社会の実現②</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>文理融合型研究法</p>	<p>(概要) 地域の教育課題と未来を展望した教育を構想して教員に必要な教育研究の基礎的な方法論を身につける。教材の開発のために必要なフィールドワークや調査の仮説設定と計画、収集したデータの整理・分析について、文理融合的なアプローチを通じて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(67平真木夫・82久保順也・84越中康治／9回) 心理学分野における研究計画・実験計画①／心理学分野における研究計画・実験計画②／心理学分野における研究計画・実験計画③／心理学論文の構造理解①／心理学論文の構造理解②／心理学論文の構造理解③／心理学分野における統計・分析の基礎①／心理学分野における統計・分析の基礎②／心理学分野における統計・分析の基礎③</p> <p>(35溝田浩二・64齊藤千映美／6回) 自然観察法①／自然観察法②／自然観察法③／生物分類法・標本作成法①／生物分類法・標本作成法②／生物分類法・標本作成法③</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>子ども発達と認知の心理学的理解</p>	<p>(概要) 発達心理学の研究法の基礎を理解することで、子どもの発達を理解する方法を獲得する。また、認知に関する研究法の基礎理解を通じて、子どもにとって個別最適な学習支援・指導やユニバーサルな授業づくりの力につなげる。心理学的な調査や実験の計画・実施を通じて、子どもの発達と認知を科学的に検証・把握するための力量も身につける。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(67平真木夫／5回) 記憶と知識に関する基礎知識／初頭効果実験①／初頭効果実験②／検索実験①／検索実験②／意味記憶と長期記憶、エピソード記憶</p> <p>(82久保順也／5回) 児童・生徒の認知機能の調査：知能検査①／児童・生徒の認知機能の調査：知能検査②／児童・生徒の認知機能の調査：知能検査③／知能検査結果の読み取りと教育実践への応用①／知能検査結果の読み取りと教育実践への応用②</p> <p>(84越中康治／5回) 発達心理学の研究法の基礎／幼児・児童を対象とした観察①：日誌法・逸話記録法／幼児・児童を対象とした観察②：事象見本法・時間見本法・評定尺度法／幼児・児童を対象とした実験①：認知の発達研究／幼児・児童を対象とした実験②：社会性・道徳性の発達研究</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>学力とグローバル・コンピテンシー</p>	<p>(概要) 今日の日本の学習指導要領等に示されている資質・能力観は、国際的な教育の潮流を踏まえて考案されている。そこで、本講義では国際的なコンピテンシーについての議論を見通しながら、①コンピテンシーと学力の関係、②学力と非認知能力の関係、③学校現場における学力の伸長をどうとらえどう伸ばしていくか、について学ぶ。次にOECDのグローバル・コンピテンシーについて学び、①文化の異なる多様な人々と協働すること、②社会的公正性の概念とその実現の方法について、小中高等学校の学校現場の実践と結び付けながら学習する。本講義を通して、国際的な比較教育、学力と非認知能力およびその制度的保障、多文化教育、生涯教育・社会教育について特に理解を深め、3年次以降の各自の専門の深化につなげることができる。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(17市瀬智紀・68田端健人・69本図愛美・30高橋亜紀子・65梨本雄太郎・74本田伊克／2回) (共同) ガイダンス／まとめ</p> <p>(17市瀬智紀・68田端健人・65梨本雄太郎／3回) (共同) コンピテンシーと学力の関係①／コンピテンシーと学力の関係②／コンピテンシーと学力の関係③</p> <p>(17市瀬智紀・68田端健人・69本図愛美／4回) (共同) 学力と非認知能力の関係①／学力と非認知能力の関係②／学力と非認知能力の関係③／学力と非認知能力の関係④</p> <p>(17市瀬智紀・68田端健人・69本図愛美・30高橋亜紀子・65梨本雄太郎／6回) (共同) 学校現場における捉えと伸長①／学校現場における捉えと伸長②／学校現場における捉えと伸長③／学校現場における捉えと伸長④／学校現場における捉えと伸長⑤／学校現場における捉えと伸長⑥</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>
<p>環境と共生のリテラシー</p>	<p>自然環境は人類にとっての生存基盤であり、私たちはそこから多くの恵みを享受している。これからも健康で文化的な生活を営んでいくためには、地球に生きるすべての人々が環境リテラシーを身につけ、自然と人間が共生する社会を構築する必要がある。この講義では、青葉山の自然環境や身近な生物を活用したフィールドワークをとおして、持続可能な地球をつくる資質能力の育成に向けて求められる自然科学的なものの見方・考え方を身につけ、探究的な学びの手法を学ぶ。</p> <p>環境リテラシーと地域循環共生社会/自然体験と探究的な学び/自然観察の基礎/自然観察の装備と安全/自然観察の装備と安全2/自然観察の仮説と検証/自然観察の仮説と検証2/データ収集の方法/データ収集の方法2/データ解析法/データ解析法2/結果と考察/結果と考察2/探究型学習指導への応用/まとめと振り返り</p>	<p>共同</p>

<p>授業への教育臨床的接近</p>	<p>(概要) 宮城教育大学で積み重ねられた教育臨床研究を踏まえ、子どもの未来を切り開く授業をつくる原理と方法を探る。日本の教師による授業創造の歴史、社会構造と授業の関係、授業における学びの世界など、マクロ・ミクロ両面から授業に接近する。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(63 吉村敏之／5回) 林竹二の求めた授業／子どもと林竹二の出会い／宮城教育大学の教授学／島小学校における「未来につながる学力」の形成／日本の教師による授業研究の財産</p> <p>(74 本田伊克／5回) 学習集団と学級づくり／教材研究と教育実践／教材解釈と教育実践／未来をつくる教育実践と教材研究／教師集団と教材研究</p> <p>(79 金田裕子／5回) 教室空間に注目する／教室の時間に注目する／教室のコミュニケーションに注目する／教室のコミュニケーションと学び／協同的な学びの特徴</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>教科の学習と言語活動</p>	<p>(概要) 児童の主体的な学習活動を通して資質・能力を育む視点から、国語科・英語科・社会科に関する言語活動を位置付けた学習のあり方について理解を深める。なかでも、言語活動を位置付けた教材開発のあり方や言語活動を位置付けた学習のあり方などを各教科に応じて具体的に取り上げることで、教科の学習における言語活動の諸相について専門的な知見を得る。</p> <p>(オムニバス形式／15回)</p> <p>(12 児玉忠／5回) 国語科の「知識及び技能」と言語活動／「話すこと聞くこと」と言語活動／「書くこと」と言語活動／「読むこと(文学的文章)」と言語活動／「読むこと(説明的文章)」と言語活動</p> <p>(57 和田あずさ／5回) 英語科の「知識及び技能」と言語活動／「聞くこと」と言語活動／「読むこと」と言語活動／「話すこと」と言語活動／「書くこと」と言語活動</p> <p>(32 川崎惣一／5回) 社会科の「知識及び技能」と言語活動／「知ること」と言語活動／「記録すること」と言語活動／「情報を集めること」と言語活動／「資料を使うこと」と言語活動</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>共生とコミュニケーション</p>	<p>現在、私たちを取り巻く社会のあらゆる面が急速な変化の流れの中にあり、新しい未知の課題に試行錯誤しつつ対応していくことが求められる社会になっている。そして、こうした社会を生き抜く資質として、思考力・判断力・表現力を高めることが強く求められている。将来小学校教員となる者は、子どもたちにこれらの資質を身につけてもらうために、まずは自分自身がこれらの資質を身につけている必要がある。そこで本授業では、人文・社会系教育創生コースに所属する教員が、国語・英語・社会の3教科に関連する分野の研究成果を踏まえつつ、オムニバス形式で講義を担当し、グローバル化の進展する世界で、あるいは地域の中で、他者たちと共に生きることに必要なコミュニケーションのための知識とスキルについて概説する。</p>	
<p>社会科資料調査法(地理歴史)</p>	<p>本講義は、指導案や授業づくり、レポート作成、卒業論文執筆に必要となる、資料の入手方法や活用方法を習得することを目指す。教育現場における社会科の授業づくりにおいて資料の取扱いは必須事項である。地理歴史分野では、新聞や書籍、地図や古文書、統計や写真、そして一次資料をどのように取り扱ったらよいかについて解説する。さらに、実際に授業づくりを念頭に置いて各自でテーマの設定、報告資料の作成、発表とディスカッションを実施し、資料調査の意義や課題を学習することとする。</p>	

<p>社会科資料調査法（公民）</p>	<p>本授業では、レポートや卒業論文、指導案を書く際に必要となる、広義の情報リテラシーを習得する。「正しい情報・資料」へのアクセスと読み解き方、また調べること―考えること―書くことの相関性を理解した上で、テキストを「批判的に読む」作業もおこなう。また、公民分野の資料調査法では、資料批判も含めつつ、質的調査（聞き書きや参与観察）／量的調査（データ収集）の方法についても解説する。研究報告やディスカッション等において、自分の考えを相手に説明する際に、主張の根拠となるものを明示し、その上で議論において何が重要なで何が不足しているか客観的に判断できるようになること。</p>	
<p>子どもの問いと理数・自然系教育の創生</p>	<p>（概要） 理数・自然系教育に関して、各分野における子どもの問いと、その問いに対応する教科内容や教材について講述する。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（77市川啓・54花園隼人・22田谷久雄・39佐藤得志・23鎌田博行・20福田善之・72内山哲治・49西山正吾・13猿渡英之・26笠井香代子・71出口竜作・42棟方有宗・43小林恭士・14高田淑子・24菅原敏・66渡辺尚・44中山慎也／2回） オリエンテーション／まとめと振り返り</p> <p>（77市川啓・54花園隼人／1回） 算数科教育</p> <p>（22田谷久雄／1回） 数と計算</p> <p>（39佐藤得志／1回） 変化と関係</p> <p>（23鎌田博行／1回） 図形</p> <p>（20福田善之・72内山哲治・49西山正吾／2回） 電気・光・エネルギー磁石・熱・波</p> <p>（13猿渡英之／1回） 物質の性質</p> <p>（26笠井香代子／1回） 物質の状態</p> <p>（71出口竜作・42棟方有宗・43小林恭士／2回） 動植物のからだのつくり/動植物のからだのはたらき</p> <p>（14高田淑子／1回） 天体</p> <p>（24菅原敏／1回） 天気</p> <p>（66渡辺尚・44中山慎也／1回） 自然系教育における教材研究法</p>	<p>オムニバス方式・ 共同（一部）</p>

<p>数理・自然科学へのいざない</p>	<p>(概要) 数理・自然科学の各専門分野の入門的内容について講述し、数理・自然科学に対する興味を喚起する共に、その意義や楽しさについて伝えていく。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(77市川啓・54花園隼人・22田谷久雄・39佐藤得志・23鎌田博行・20福田善之・72内山哲治・49西山正吾・13猿渡英之・26笠井香代子・71出口竜作・42棟方有宗・43小林恭士・14高田淑子・24菅原敏・66渡辺尚・44中山慎也／2回) オリエンテーション/まとめと振り返り</p> <p>(77市川啓・54花園隼人／1回) 数学科教育</p> <p>(22田谷久雄／1回) 代数</p> <p>(39佐藤得志／1回) 解析(佐藤)</p> <p>(23鎌田博行／1回) 幾何</p> <p>(20福田善之・72内山哲治・49西山正吾／2回) エネルギー①電気・力・光／エネルギー②運動・熱・波</p> <p>(13猿渡英之／1回) 粒子①元素・水溶液・イオン</p> <p>(26笠井香代子／1回) 粒子②原子・分子</p> <p>(71出口竜作・42棟方有宗・43小林恭士／2回) 生命①生命の連続性・動植物の分類／生命②動植物の体のつくりと働き</p> <p>(14高田淑子／1回) 地球①太陽・月・星</p> <p>(24菅原敏／1回) 地球②気象・大気</p> <p>(66渡辺尚・44中山慎也／1回) 自然科学の教材</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>
<p>研究演習(初等教育専攻)</p>	<p>初等教育専攻における4つのコースのそれぞれのコースの教育理念に即しながら、学生各自の研究テーマについて卒業研究につなげていくことをめざした科目である。すなわち、これまで修得してきた大学での授業科目(専門基盤科目および専門教育科目)および大学内外での実践的な体験活動などについて、それらと卒業研究(卒業研究演習も含む)とを橋渡しする性格を持たせることによって、卒業研究(卒業研究演習も含む)の学修においても、教員養成大学としての学修成果にも配慮していくことをめざした科目である。履修については、卒業論文の指導教員(主査および副査)が4年次の学生を対象にして開講することを基本とする。</p>	
<p>言語・社会系教育における資質・能力</p>	<p>本講義では、まず、国語科、社会科、英語科で育成すべきそれぞれの資質・能力を明確化、具現化し、次いで、各教科等の内容について、相互の関連付けや横断を図ることを目的としている。具体的には、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力といった学習の基盤となる資質・能力や、主権者として求められる力、新たな価値を生み出す豊かな創造性、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する力、地域や社会における産業の役割を理解し地域創生等に生かす力等の現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力について、扱う。</p>	<p>共同</p>

<p>応用演習（中等教育専攻言語・社会系教育コース）</p>	<p>中等教育専攻における言語・社会系教育コースのそれぞれの教科の教育理念に即しながら、学生各自の研究テーマについて卒業研究につなげていくことをめざした科目である。すなわち、これまで修得してきた大学での授業科目（専門基盤科目および専門教育科目）および大学内外での実践的な体験活動などについて、それらと卒業研究（卒業研究演習も含む）とを橋渡しする性格を持たせることによって、卒業研究（卒業研究演習も含む）の学修においても、教員養成大学としての学修成果にも配慮していくことをめざした科目である。履修については、卒業論文の指導教員（主査および副査）が4年次の学生を対象にして開講することを基本とする。</p>	
<p>数理・自然科学概論</p>	<p>（概要） 数理・自然科学の各専門分野について入門的な内容を論述し、数理的な関わりを通して理数系教育に共通する素養を育む。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（77市川啓・54花園隼人・22田谷久雄・39佐藤得志・23鎌田博行・20福田善之・72内山哲治・49西山正吾・13猿渡英之・26笠井香代子・71出口竜作・42棟方有宗・43小林恭士・14高田淑子・24菅原敏・66渡辺尚・44中山慎也／2回） オリエンテーション/まとめと振り返り</p> <p>（77市川啓・54花園隼人／1回） 数学科教育</p> <p>（22田谷久雄／1回） 代数学</p> <p>（39佐藤得志／1回） 解析学</p> <p>（23鎌田博行／1回） 幾何学</p> <p>（20福田善之・72内山哲治・49西山正吾／2回） 物理学①電磁気・エネルギー・音・光（福田・内山・西山）/物理学②熱・波・電子・放射線（福田・内山・西山）</p> <p>（13猿渡英之／1回） 化学①元素・原子核・イオン・放射能</p> <p>（26笠井香代子／1回） 化学②原子・電子・分子</p> <p>（71出口竜作・42棟方有宗・43小林恭士／2回） 生物学①動植物の分類・生殖/生物学②器官・細胞・DNA</p> <p>（14高田淑子／1回） 地学①宇宙</p> <p>（24菅原敏／1回） 地学②気象</p> <p>（66渡辺尚・44中山慎也／1回） 理科教育の教材</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>
<p>数学科内容基礎概論</p>	<p>中学校・高等学校数学科の背景にある数学の基本的内容の幾つかについて、具体的な対象や題材を通じて理解すると共に、教材研究を行う上でその基礎となる素養を身につけるための講義を行う。例えば、自然数から有理数（ペアノの公理、演算法則、記数法、除法の原理、ユークリッドの互除法、1次不定方程式、素数と素因数分解、合同式など）、実数の小数表示（実数の性質、数列の極限、無限級数）、平面図形・立体図形とそれらの面積・体積などから、関連する各専門分野における抽象的概念を具体的な対象や題材を通じて理解することを目標とする。</p>	

理科応用実験	<p>中等理科教員として必要な教育法や教科内容に関して、実験を通してさらに深く理解することを目標とする。4年次の卒業研究に入るためのトレーニングも含む。授業担当の全教員が以下の7回を共同で担当する。</p> <p>第1回：オリエンテーション 第2回：中等理科における教科内容と指導法①中学校1年次 第3回：中等理科における教科内容と指導法②中学校2年次 第4回：中等理科における教科内容と指導法③中学校3年次 第5回：中等理科における教科内容と指導法④高等学校（科学と人間生活・物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎） 第6回：中等理科における教科内容と指導法⑤高等学校（物理・化学・生物・地学） 第7回：中等理科における教科内容と指導法⑥高等学校（理科課題研究）</p>	共同
応用演習（中等教育専攻理数系教育コース）	<p>中等教育専攻における理数系教育コースのそれぞれの教科の教育理念に即しながら、学生各自の研究テーマについて卒業研究につなげていくことをめざした科目である。すなわち、これまで修得してきた大学での授業科目（専門基盤科目および専門教育科目）および大学内外での実践的な体験活動などについて、それらと卒業研究（卒業研究演習も含む）とを橋渡しする性格を持たせることによって、卒業研究（卒業研究演習も含む）の学修においても、教員養成大学としての学修成果にも配慮していくことをめざした科目である。履修については、卒業論文の指導教員（主査および副査）が4年次の学生を対象にして開講することを基本とする。</p>	
「人間形成における表現と健康」	<p>（概要） 日々の生活の中で、身体を動かし、さまざまな方法で自己を表現し、他者と運動や表現を介してコミュニケーションを行うことは、私達が生きていく上で必須の重要事項である。学校で音楽や美術、体育などの実技教科を教えるための基礎として、身体運動の楽しさ、スポーツ文化の思想、「からだの動き」「イメージ」「音」「ことば」など五感を通した多様な表現活動を、体験を通して学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／15回） （40安彦文平・6池田晃一・21小塩さとみ・11木下英俊・28倉戸テル・81黒川修行・2佐藤節子・58佐藤亮平・3虎尾裕・55沼倉学・31原田博之・10日比野裕幸・19平垣内清・37村上タカシ／3回）（共同） 身体運動と芸術表現活動について／身体運動・芸術表現活動の学外体験／まとめ-学校教育における健康運動・芸術表現活動の意義</p> <p>（58佐藤亮平／1回） スポーツ文化と人間形成の関係</p> <p>（81黒川修行／1回） 身体運動と健康</p> <p>（11木下英俊・6池田晃一／1回）（共同） 身体運動演習</p> <p>（2佐藤節子・55沼倉学／1回）（共同） 身体表現演習</p> <p>（31原田博之／1回） 声を用いた音楽表現</p> <p>（28倉戸テル・10日比野裕幸／1回）（共同） リズム中心の音楽表現</p> <p>（21小塩さとみ／2回） 口唱歌を用いた音楽表現／口唱歌を応用した創作表現</p>	オムニバス方式・共同（一部）

	<p>(19 平垣内清 / 1回) 平面表現について</p> <p>(37 村上タカシ / 1回) アートについて</p> <p>(40 安彦文平 / 1回) 美術館鑑賞について</p> <p>(3 虎尾裕 / 1回) 立体表現について</p>	
音と表現	<p>(概要) 音とは何か、どのような素材を用いてどのような動作をすると、どのような音が出せるのか、音や声を使ってどのような表現が可能なのか、また世界にはどのような音による表現があるのかなど様々な事例を研究するとともに、実践を通して音と表現の在りようを体験する。</p> <p>(オムニバス方式 / 15回)</p> <p>(10 日比野裕幸・28 倉戸テル・31 原田博之 / 1回) (共同) イントロダクション：音楽表現の特徴を考える</p> <p>(31 原田博之 / 4回) 声楽による表現の可能性 / 合唱による表現の可能性 / 学校教育における声の表現 / 声による表現の実践</p> <p>(28 倉戸テル / 4回) 鍵盤楽器 (チェンバロ) による表現の可能性 / 鍵盤楽器 (オルガン) による表現の可能性 / 鍵盤楽器 (ピアノ) による表現の可能性 / 鍵盤楽器による表現の実践</p> <p>(10 日比野裕幸 / 4回) 合奏・オーケストラによる表現の可能性 / 弦楽器による表現の可能性 / 管楽器による表現の可能性 / 打楽器による表現の可能性及び実践</p> <p>(10 日比野裕幸・28 倉戸テル・31 原田博之 / 2回) (共同) 学外での音楽表現活動鑑賞 / まとめ～学校教育における音楽表現活動の意義</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
民族音楽演習	<p>インドネシア・バリ島の音楽と舞踊の実習を通して、多様な音楽や身体表現のあり方を学ぶ。世界の音楽を学ぶ意義について説明した後、インドネシアのガムランの実習を行う。個々の楽器の基本的な奏法を習得しながら、音楽の仕組みを理解し、それぞれ異なる役割をもつ楽器での合奏を体験する。またバリ舞踊の基礎を学び、文化による身体運動の違いを体験するとともに、音楽と舞踊の関係についても学ぶ。</p>	共同
美術特殊演習A	<p>絵画技法について実技を通じて学ぶ。テンペラ絵具を用いた古典技法や油彩との混合技法、またアクリル絵具をはじめとする様々な画材によるミクストメディアを体験する。絵が苦手な方にも分かりやすく難易度に応じた指導を心掛ける。また専門性を追求する絵画制作時の実践的指導力を養う内容にも配慮する。</p>	

美術特殊演習B	<p>(概要) 「本授業においては、平面表現（絵画・版画）と立体表現（彫刻）の二面から実践を通じて学習し、美術教育のための基本的能力を深める。」 「小学校図画工作の特徴や技法等を理解し、様々な表現手法、基本的な概念や技術を身につけ指導出来るようになることを目標とする。」</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(19平垣内清・3虎尾裕／1回) (共同) ガイダンス</p> <p>(19平垣内清／7回) 木版画について講義①／木版画について講義②／版作り、刷り①／版作り、刷り②／版作り、刷り③／版作り、刷り④／木版画作品完成</p> <p>(3虎尾裕／7回) 浮き彫りについて講義①／浮き彫りについて講義②／彫刻刀の使い方①／彫刻刀の使い方②／レリーフ制作①／レリーフ制作②／作品完成</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
からだと表現	<p>日常生活におけるからだや動きを捉え直し、身体感覚を覚醒させることによって、からだを探り実感しながら動くことを学ぶ。また、他者のからだ、自然、ものなどかかわる動きの課題に取り組むことを通して、からだを心と解放し、からだによる表現のさまざまな可能性を探求する。</p> <p>からだによるコミュニケーション力を育むことを目指し、以下の内容を実施する。</p> <p>からだほぐし、空間・時間・質感の変化、同調・増幅・対比の表現、リーダーとフォロワー、ミラーリング・シャドウイング、群表現と伴奏の工夫、触れることで生じる動き、信頼関係の表現（押し・引き・支える）、感情表現と共感の表現、主役と脇役、共同で造形表現、パフォーマーとオブザーバー</p>	
「野外活動と自然体験A」	<p>本授業においては、学校教育における児童・生徒の野外における活動の指導はもとより、家庭や地域において行われる自然体験学習の指導に必要な知識、技術の基本を習得し、計画的なプログラムに沿って、自然の中での活動能力を高めることを目指す。</p> <p>また、生涯スポーツとしてのスキー運動の特性を理論と実践を通して理解すると同時に、実際に冬山を体験することにより、冬季の自然を理解することをねらいとする。また、グレンデスキーにおける滑降・回転の基礎技術および応用技術を学習すると同時に、基本的なスキーの指導法を学習することも、重要なねらいである。</p>	共同
「野外活動と自然体験B」	<p>遠泳における泳力の向上を図りながら、合宿経験を通して臨海学校などの海濱行事の運営や指導について体験的に学ぶ。</p> <p>また、生涯スポーツとしてのスキー運動の特性を理論と実践を通して理解すると同時に、実際に冬山を体験することにより、冬季の自然を理解することをねらいとする。また、グレンデスキーにおける滑降・回転の基礎技術および応用技術を学習すると同時に、基本的なスキーの指導法を学習することも、重要なねらいである。</p>	共同
生活系教育概論	<p>本科目では、技術・家庭科の教科内容を含む生活系教育に必要な基礎的知識や技能について学ぶ。(1)生活空間を構成するさまざまなモノの量や状態を表す概念である「単位」を理解する。単位の定義や成立までの経緯・使用される場面などについて学ぶ。(2)ICT活用能力を高める文書・スライド作成アプリケーションソフトの活用方法などを学び、情報リテラシーを高める。(3)生活に使われている各種の材料やエネルギー利用の基礎を学ぶ。</p>	
特別支援教育基礎理論	<p>近年、障害児・障害者を巡るさまざまな考え方や制度が大きく変わりつつある。この講義では、発達障害を中心とした特殊教育から特別支援教育への変遷を概説することを通して、特別支援教育に関わる基礎的な知識を獲得すること、さらには、障害のある児童生徒に向き合うための資質を涵養すること、この教育が「教育の原点」と言われることの意味を探ることをねらいとする。</p>	共同

視覚障害の心理・生理・病理	視覚障害は視力、視野、色覚等の視機能の永続的低下である。視覚障害を理解するには、その背景にある視機能や視知覚特性の基本的な理解が必要である。また、聴覚や触覚の特性の理解も必要である。そうした知覚、生理の基礎を踏まえた上で視覚障害と関連の深い代表的な眼疾患について学び、加えて盲児や弱視児の発達や心理の特性について理解を深める。	
聴覚・言語障害の心理・生理・病理	<p>将来、聴覚・言語しょうがい教育の現場（「聴覚特別支援学校」、「難聴学級」、「言語障害特別支援学級」、「言語障害通級指導教室」等）で仕事をする際に必要な基礎的な知識や考え方について学ぶ。聴覚・言語しょうがい教育を取り巻く“こころ”や“ことば”、“コミュニケーション”の問題について、生理・心理学的視点から基礎的な知識を習得し、実際に教育的支援を行なう場合に必要の問題について検討を行なっていく。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(48松崎丈／8回) オリエンテーション／聴覚器の仕組み／音を感じる仕組み／音の物理的特徴／音の聞こえを判断する方法① 観察を中心に／音の聞こえを判断する方法② 聴力検査を中心に／聴覚しょうがいについて／聴覚補償機器</p> <p>(87藤島省太／7回) 発声・発語器官の仕組み／発声・発語の仕組み／構音検査／脳のしょうがい—失語症—／聴覚・言語しょうがいのある人への支援①／聴覚・言語しょうがいのある人への支援② 児童生徒・成人／まとめ</p>	オムニバス方式
知的障害の心理・生理・病理	知的障害及び関連する諸障害の定義及び関係諸概念、生理・病理的背景等について理解を深めるとともに、困難状況の把握と教育支援の方法に関する心理学的アプローチを学ぶことをねらいとする。	
肢体不自由の心理・生理・病理	肢体不自由児の置かれた生活行動における課題状況の分析と指導方法・内容を検討する。あわせて、重度運動障害への教育的支援に活用する教材教具とそれらを活用した指導実践についてもふれ、肢体不自由児の適応とその支援に関して検討する。あわせて、宮城県内をはじめ東北地方等を中心に地域の特別支援学校等での指導実践や、地域の自宅で訪問看護を受けている重症運動障害者とICTを活用して交流し、その生活の実態を適宜紹介する。	
病弱の心理・生理・病理	障害や教育的ニーズの側面から明確な概念規定が難しい慢性疾患児・病弱児の置かれた生活行動における課題状況の分析と指導方法・内容を検討する。あわせて、宮城県内をはじめ東北地方等を中心に地域の特別支援学校等での指導実践や、小児病院などでの療育活動について適宜紹介する。	
視覚障害の教育課程・指導論	視覚障害教育に関する教育課程のありかたと、視覚障害に関わる様々な課題に対する指導法の概要を理解し、具体的・実践的な教育実践例を踏まえながら、「見えない・見えにくい」児童生徒に対する教育の本質を考えることができる基礎的な資質を養うことができるようになることを目標とする。特別支援教育における視覚障害教育の実際と課題について考える。	
聴覚・言語障害の教育課程・指導論	聴覚障害教育の理念と教育課程についての基本的知識を得、さらにコミュニケーションの課題を把握する視点を獲得する。教育現場で、子どものコミュニケーションの状態をみる視点を獲得し、実際に情報を保障し、コミュニケーション行動の促進・形成のための糸口を見つける見識を得る。 聴覚障害教育における教育課程に関する基本知識を学び、今日的課題について検討する。さらに教育的係わり合いの場における係わり手と係わられ手のコミュニケーションの成立・促進に関する重要な諸観点について検討する。	

知的障害の教育課程・指導論	特別支援教育とは、一人一人の子どもの固有なニーズを的確に把握し、必要な支援をきめ細かく提供する教育である。知的障害児とその周辺の子どもたちは、生活や学習等において種々の困難を示しており、この講義では、それらを改善・克服するための教育内容、指導の理論と技術について学習する。また、宮城県をはじめとする地域の特別支援学校（知的障害）での実践等についても適宜紹介する。	
肢体不自由の教育課程・指導論	肢体不自由のある児童生徒に対する教育課程及び指導方法について理解する。肢体不自由教育に関する歴史から、教育課程、具体的な指導法、近年のトピックまで広く解説する。教育現場で実践を行うにあたっての基礎となる知識を獲得することと、実際にお子さんと係わる際に必要な視点について理解を深め自分なりの考えを持てるようになることが目標である。	
病弱の教育課程・指導論	病気の児童生徒に対する教育課程及び指導方法について理解する。病弱教育に関する歴史から、教育課程、具体的な指導法、近年のトピックまで広く解説する。教育現場で実践を行うにあたっての基礎となる知識を獲得することと、実際にお子さんと係わる際に必要な視点について理解を深め自分なりの考えを持てるようになることが目標である。	
視覚障害への教育支援A	様々な視覚障害の教育的支援方法に関する知識や支援に関する具体的な技能を獲得する。視覚障害による様々な困難さについて、事例を通して理解を深め、それぞれに応じた支援方法を獲得する。特に、視覚を介さない盲児を対象とし、触覚を主とした感覚の特性に基づいた支援ができるようにする。	
視覚障害への教育支援B	教育的見地から視覚障害児の困難を把握し支援につなげることができることを目指す。医学的な検査と教育的な評価の違いについて理解し、見えにくさを把握するための様々な評価について実践的に理解を深める。さらに、それを補助具や合理的配慮につなげることに実践的に取り組む。	
視覚障害への教育支援演習A	文献の精読や研究に取り組むことを通して視覚障害教育の専門性を深める。本演習では、「研究」という手法が実践における思考手法として重要であることを認識したのちに、研究法の基礎を文献の精読を通して習得し、それに基づいてグループで視覚障害に関する研究を行い、視覚障害教育の実践や研究に必要な知識・技能の習得を目指す。さらに、そうした活動を通して、視覚障害に関する知見を深める。	
視覚障害への教育支援演習B	乳幼児の定型発達をふまえつつ、視覚障害乳幼児の実態とそのニーズを把握できる視点をもつことができ、かつ幅広い視野に立ち、視覚障害教育に関する課題意識を持つことができ、卒業研究の基礎とすることができるようになることを目標とする。視覚障害乳幼児の個々の実態を客観的にとらえ、個々のニーズを適切に把握することができる基本的な知識と技術を獲得し、実践研究の基礎を理解する。	
聴覚・言語障害への教育支援A	様々な学問領域から聴覚障害に関わる諸問題に対する視点を多角的に身につけ、聴覚障害児・者の教育支援に関する問題意識を深める。聴覚障害児・者のことば・コミュニケーションに関わる諸問題とその支援について様々な具体的事例と教育・生理・心理等の様々な学問領域と関連付けて多角的に考える。	

<p>聴覚・言語障害への教育支援B</p>	<p>(概要) この講義では、“ことば”や“コミュニケーション”にしようがいのある方々との係わり合いのあり方について、“しようがい”とは、ヒトがより良く生きていくための“ことば”や“コミュニケーション”とは、より良い「教育的係わり合い」とは、といった根源的問いに基づいて、実践研究という視点から各種障害事例についてビデオ視聴を通して検討を進めていく。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(62菅井裕行・48松崎丈／1回) (共同) オリエンテーション</p> <p>(62菅井裕行／7回) ろう重複(1)乳幼児事例：コミュニケーションの促進／ろう重複(2)乳幼児事例：コミュニケーションの形成／ろう重複(3)児童事例／ろう重複(4)生徒事例／盲ろう(1)乳幼児事例／盲ろう(2)児童事例／盲ろう(3)生徒・成人事例</p> <p>(48松崎丈／7回) ろう(1)乳幼児事例：コミュニケーションの形成／ろう(2)乳幼児事例：コミュニケーションの促進／ろう(3)乳幼児事例：コミュニケーションの促進／ろう重複(1)乳幼児事例：主に手話コミュニケーションに関する事例／ろう重複(2)乳幼児事例：主に手話コミュニケーションに関する事例／ろう重複(3)児童事例：主に手話コミュニケーションに関する事例／最終レポート</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>
<p>聴覚・言語障害への教育支援演習A</p>	<p>手話の仕組みを知り、教材の特性を踏まえた手話表現は何かを理解する。手話の仕組みを把握し、聴覚障害のある児童生徒に対する教科の授業で求められる手話力とは何かを議論し、手話の表現や読み取りの質を高める。</p>	
<p>聴覚・言語障害への教育支援演習B</p>	<p>聴覚障害教育あるいは特別支援教育・特別支援学校における教育実践に必要な子ども理解の方法、計画立案の仕方について演習形式で学ぶ。具体的な事例に関する映像データや資料を材料に授業実践を想定しつつ全体で討議・演習を行う。特別支援学校実習および応用実習を念頭において、模擬授業やプレゼンテーションを経験し特別支援領域の教育支援の基礎を学ぶ。</p>	
<p>知的障害への教育支援演習A</p>	<p>この演習では、知的障害・自閉症・LD・ADHD等を含む内外の実践研究を中心とした文献講読、レポート発表と討議、学校又は施設見学、グループ研究を行い、これらを通じて発達障害児に関わる研究動向、教育・福祉・労働の現状と課題を把握し、教職において求められる基礎的な実践研究の方法とまとめ方を学ぶことをねらいとする。</p>	
<p>知的障害への教育支援演習B</p>	<p>卒業研究を進める上で必要となる基礎的スキルを身に付けるとともに、知的障害及び関連する諸障害に関する文献講読や宮城県内の特別支援学校の見学または情報収集を通じて、各自の研究課題を明確化していくことをねらいとする。</p>	
<p>肢体不自由への教育支援演習</p>	<p>肢体不自由教育に関する文献抄読と議論、パソコン教材作成体験、特別支援学校の見学等を通して肢体不自由教育に関連する研究動向を把握し、具体的な指導法や教材・教具について理解するとともに実際の技術を修得する。</p>	

<p>病弱への教育支援演習</p>	<p>病弱教育領域における各種指導法や関連する理論及び国内の研究動向について基礎的な理解を得るとともに、教材・教具に関する実際的な知識や技術を修得し、病弱教育領域における各種アプローチ法や関連する理論、国内の研究動向について理解を深め、自らの考えを述べるができるようになることを目標とする。病弱教育に関する文献抄読と議論、特別支援学校の見学等を通して病弱教育に関連する研究動向を把握し、具体的な心理社会的発達や行動の分析方法について理解するとともに実際的な技術を修得する。</p>	
<p>発達障害への教育支援A</p>	<p>特別支援教育の精神医学および心理学的側面についての基礎的理解ができ、児童虐待およびその関連障害と学校教育における支援について理解や実態把握ができるようになることを目標とする。「障害」を有する子どもたちの教育・指導に関わる諸問題について、精神医学および心理学の側面から論ずる。</p>	
<p>発達障害への教育支援B</p>	<p>この講義では、学級集団および個別指導における、学習障害（LD）、注意欠如多動性障害（ADHD）、自閉症スペクトラム障害（ASD）、および発達障害に伴う言語障害のある児童生徒について、その定義、学習困難の特徴、行動上の問題と具体的な支援について理解を深めることをねらいとする。</p>	
<p>発達障害への教育支援C</p>	<p>(概要) この講義では、通常学級に在籍する学習障害（LD）、注意欠如多動性障害（ADHD）、自閉症スペクトラム障害（ASD）など、いわゆる知的障害を伴わない発達障害および言語障害について、認知特性から生ずる学習困難の特徴を理解し、そのアセスメントや行動上の問題等に対する具体的な指導・支援の方法について、発達障害への支援AまたはBの内容をさらに発展させて実践的理解を深めることをねらいとする。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(73植木田潤／5回) 発達障害と認知特性 総論／発達障害とインクルーシブ教育システム／発達障害と合理的配慮／ユニバーサル・デザインの授業作り1（環境設定、教材教具の工夫）／通常学級における指導と個別の指導1（SST、ICT活用）</p> <p>(38三科聡子／5回) 視覚認知のアセスメントにかかる方法論：理論／視覚認知のアセスメントにかかる方法論：指導論／視覚認知のアセスメントにかかる方法論：事例理解／ユニバーサル・デザインの授業作り2／通常学級における指導と個別の指導2</p> <p>(48松崎丈／5回) 聴覚認知のアセスメントにかかる方法論：理論／聴覚認知のアセスメントにかかる方法論：指導論／聴覚認知のアセスメントにかかる方法論：事例理解／ユニバーサル・デザインの授業作り3／通常学級における指導と個別の指導3（担当：48松崎丈）</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>重度・重複障害への教育支援</p>	<p>特別支援教育の中で必ず遭遇する重度・重複障害の課題について全体像を理解し、重度・重複障害教育の実際について知る。教育現場で重度・重複障害のある子どもと出会った際に、教育的対処の基本に基づいて働きかけることのできる見識を得る。</p> <p>特別支援学校や重症心身障害児（者）施設等における重度・重複障害児の教育・療育の現状を踏まえつつ、資料とビデオ映像を用いて授業計画の内容を解説する。障害の重度化・重複化・多様化の内容を知り、かつ重複障害のある子どもへの実践的な視点を学ぶ。</p>	

	特別支援教育総論	<p>(概要) 特別支援教育の免許に関わる5領域（視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由障害、病弱障害）について、その心理や指導法に関する基礎的な事項を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(53野崎義和／2回) 授業の概要説明、及び実態把握とアセスメントの重要性について／授業のまとめと到達度の確認</p> <p>(80永井伸幸／3回) 視覚障害児とは：心理・生理・病理に関する基礎的事項を中心に／視覚障害教育の概要：教育課程・指導法に関する基礎的事項を中心に／視覚障害教育の実際：視覚的補助具及び触覚教材の活用を中心に</p> <p>(48松崎丈／3回) 聴覚障害児とは：心理・生理・病理に関する基礎的事項を中心に／聴覚障害教育の概要：教育課程・指導法に関する基礎的事項を中心に／聴覚障害教育の実際：教科指導、自立活動と合理的配慮を中心に</p> <p>(73植木田潤／3回) 知的障害児とは：心理・生理・病理に関する基礎的事項を中心に／知的障害教育の概要：教育課程・指導法に関する基礎的事項を中心に／知的障害教育の実際：特別支援学校における指導案について</p> <p>(50寺本淳志／4回) 肢体不自由児とは：心理・生理・病理に関する基礎的事項を中心に／肢体不自由教育の概要：教育課程・指導法に関する基礎的事項を中心に（担当／病弱児とは：心理・生理・病理に関する基礎的事項を中心に／病弱教育の概要：教育課程・指導法に関する基礎的事項を中心に</p>	オムニバス方式
	卒業研究	4年間の学修の集大成として、専門基盤科目、専門教育科目および専門拡充科目において修得したそれぞれの学修成果を統合的に活かしながら、自分自身の探究テーマについて論文等にまとめる。その際に、大学という高等教育機関において、有為な教育者を養成するという本学の目的に照らして、学術の深奥を究めて文化の発展に寄与するとともに、知的、道徳的及び応用的能力を向上させるという学問探究の視点を重視する。	
	専門拡充科目	※専門拡充科目については、上記の「専門基盤科目」や「専門教育科目」の中で開設されている授業科目を適宜組み合わせるという方法により、専門性の更なる高度化、副免許や資格の取得などの履修モデルとしてのパッケージ案を幾つか提示する形で出講する。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。